

# 須玖坂本 B 遺跡

— 1・4 次調査 —

福岡県春日市岡本所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第82集

2020

春日市教育委員会





1次調査区全景



4次調査区全景



4次調査出土鋳型No.2



4次調査出土鋳型No.3



4次調査出土糲送风管

## 序

中国の歴史書に記された奴国の故地とされる福岡平野は、大陸、朝鮮半島への玄関口として古来より発展してきました。福岡平野の南部に位置する春日市は、100万都市である福岡市と接し、その利便性の良さや水、緑の残る快適な住環境から、現在11万人を超過する市民の方が住まわれています。また、国指定特別史跡水城跡、国指定史跡須玖岡本遺跡、国指定史跡日拝塚古墳や、国指定無形民俗文化財である春日の婿押し、嫁ごのしりたたきなどの古くからの文物や伝統行事が伝わる歴史遺産が多いまちでもあります。

特に、本市の北部には、多くの弥生時代の遺跡が発見されており、須玖遺跡群と呼称しています。この須玖遺跡群では、王墓や当時の先端技術である青銅器生産に関わる遺物、遺構が確認され「奴国の王都」「奴国の首都」などと呼ばれることがあります。

ここに報告いたします須玖坂本B遺跡1・4次調査は、夥しい数の青銅器生産関連遺物や工房が確認された須玖岡本遺跡坂本地区の北側に接する遺跡です。後世の開発により削平を受けていましたが、幅約4mの直線的な大溝や青銅器生産に関連する古式鋳型類や鑄の送風管、貨泉などが出土した大変重要な遺跡です。また、未発見である奴国王の居宅が発見される可能性が高い遺跡でもあり、今後の調査に期待が膨らみます。

貴重な遺跡の発掘調査報告書といたしましては、不十分さは免れませんが、本書が弥生時代研究の一資料となり、一般の方々にも活用していただければ幸いに存じます。

なお、最後になりましたが、発掘調査や発掘調査報告書作成に際しまして、御協力、御指導を賜りました方々に心からお礼申し上げます。

令和2年3月31日

春日市教育委員会

教育長 山本直俊

## 例 言

1. 本書は1991年1月21日から同年4月6日にかけて春日市教育委員会が実施した低学年用プール建築に伴う須玖坂本B遺跡1次調査と、2003年5月9日から同年6月12日にかけて春日市教育委員会が実施した放課後児童クラブ舎建て替えに伴う須玖坂本B遺跡4次調査の報告書である。
2. 発掘調査は、1次調査を吉田佳広が、4次調査を境靖紀が担当し、報告書作成は井上義也が担当した。
3. 遺構の実測は、1次調査を吉田が、4次調査を境、坂田邦彦（現鳥取市教育委員会）が行い、製図は田邊千恵、吉村美保が行った。
4. 遺物の図面作成は、井上、熊笹御堂早和子、島津屋幸子、伊東ひかり、織田優子、片多浩美、久家春美、桑野暢子、竹田祐子、吉富千春、製図は織田、片多、竹田、吉富が行った。
5. 掲載写真のうち、遺構については1次を吉田が、4次を境、(有)空中写真企画が撮影し、遺物は(有)文化財写真工房・岡紀久夫氏、(有)タクト・西村新二氏が担当した。
6. 本書の遺構実測図に用いた方位は磁北である。
7. 遺構、遺物については、久住猛雄氏(福岡市経済観光文化局)、小林義彦氏(福岡市経済観光文化局)、武末純一氏(福岡大学)、平田定幸氏(うきは市教育委員会)、村松洋介氏(佐賀県立名護屋城博物館)、森康氏(北九州市立いのちのたび博物館)、柳田康雄氏(國學院大學)、山口譲治氏(福岡市経済観光文化局)から御教示をいただいた。
8. 1次調査のP151・162・167については遺構の特定はできなかったが、土器実測は掲載した。
9. 本書の執筆および編集は、熊笹御堂の協力の下、井上が行った。

## 本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経過	1
2	調査の組織	1
II	位置と環境	3
III	1次調査の内容	6
1	調査の概要	6
2	遺構	6
(1)	土坑	6
(2)	溝	10
(3)	ピット	11
3	遺物	13
(1)	土器	13
(2)	土製品等	38
(3)	青銅器生産関連遺物	39
①	石製鋳型類	39
②	中型	41
③	埴埴/取瓶	43
(4)	青銅器	44
(5)	鉄器	45
(6)	玉類	45
(7)	木製品	46
(8)	石器	47
IV	4次調査の内容	55
1	調査の概要	55
2	遺構	55
(1)	溝	55
(2)	ピット	56
3	遺物	56
(1)	土器	56
(2)	土製品	72

(3) 青銅器生産関連遺物 .....	83
① 鋳型類 .....	83
② 中型 .....	84
③ 埴埴/取瓶 .....	86
④ 輸送風管 .....	86
(4) 石器等 .....	89
V まとめ .....	92
1 1・4次調査の1号溝について .....	92
2 須玖坂本B遺跡の青銅器生産 .....	96
3 須玖遺跡群出土の権 .....	97

## 図 版 目 次

巻頭図版1	1次調査区全景 4次調査区全景
巻頭図版2	4次調査出土鋳型№2 4次調査出土鋳型№3 4次調査出土輸送風管

### 1次調査

図版1	(1) 調査区全景 (北から) (2) 調査区全景 (南から)
図版2	(1) 1号土坑 (2) 鋳型№10 出土状態 (3) 貸泉出土状態 (4) 木製品№1 出土状態
図版3	(1) 1号土坑A-A' 断面土層 (東から) (2) 1号土坑B-B' 断面土層 (東から)
図版4	(1) 1号溝C-C' 断面土層 (西から) (2) 1号溝D-D' 断面土層 (東から) (3) 1号溝E-E' 断面土層 (東から)
図版5	(1) 1号溝F-F' 断面土層 (西から) (2) 1号溝G-G' 断面土層 (東から) (3) P 66 鉄器出土状態



(4) P 72 半裁状態

- 図版 6 1次調査出土土器①  
図版 7 1次調査出土土器②  
図版 8 1次調査出土土器③  
図版 9 1次調査出土土器④  
図版 10 1次調査出土土器⑤  
図版 11 1次調査出土土器⑥  
図版 12 (1) 1次調査出土土器⑦

(2) 土製品等

- 図版 13 鋳型類①  
図版 14 鋳型類②  
図版 15 中型  
図版 16 埴塼／取瓶  
図版 17 (1) 青銅器  
(2) 玉類  
(3) 鉄器  
(4) 木製品①  
図版 18 (1) 木製品②  
(2) 石器①  
図版 19 (1) 石器②  
(2) 石器③  
図版 20 (1) 石器④  
(2) 石器⑤

4次調査

- 図版 21 (1) 調査区西半  
(2) 調査区東半・1号溝  
図版 22 (1) 4次調査地と1次調査地の位置関係  
(2) 1号溝(東から)  
図版 23 (1) 1号溝西部  
(2) 1号溝木製品等出土状態  
図版 24 (1) 1号溝A-A'断面土層(東から)  
(2) 1号溝B-B'断面土層  
図版 25 (1) 鋳型No.2出土状態

	(2)	鋳型No3 出土状態
	(3)	輸送風管・土器出土状態
	(4)	土器出土状態
	(5)	木製品出土状態①
	(6)	木製品出土状態②
図版 26		4次調査出土土器①
図版 27		4次調査出土土器②
図版 28		4次調査出土土器③
図版 29		4次調査出土土器④
図版 30		4次調査出土土器⑤
図版 31		4次調査出土土器⑥
図版 32	(1)	4次調査出土土器⑦
	(2)	土製品
図版 33	(1)	鋳型
	(2)	中型
図版 34		埴塙／取瓶
図版 35	(1)	輸送風管
	(2)	石器①
図版 36	(1)	石器②
	(2)	石器③
まとめ		
図版 37		須玖遺跡群出土権

## 挿 図 目 次

第 1 図	須玖坂本 B 遺跡周辺遺跡分布図	4
第 2 図	須玖坂本 B 遺跡位置図	5
第 3 図	須玖坂本 B 遺跡 1 次調査遺構配置図	7・8
第 4 図	1 号土坑実測図	9
第 5 図	溝等断面土層実測図①	11
第 6 図	溝等断面土層実測図②	12
第 7 図	溝等断面土層実測図③	13
第 8 図	北部ピット群実測図	14

第 9 図	1号土坑出土土器実測図①	16
第 10 図	1号土坑出土土器実測図②	17
第 11 図	1号土坑出土土器実測図③	18
第 12 図	1号土坑出土土器実測図④	19
第 13 図	1号土坑出土土器実測図⑤	20
第 14 図	1号溝出土土器実測図①	21
第 15 図	1号溝出土土器実測図②	22
第 16 図	1号溝出土土器実測図③・5号溝出土土器実測図	23
第 17 図	ピット出土土器実測図①	26
第 18 図	ピット出土土器実測図②	27
第 19 図	土製品等実測図	38
第 20 図	石製鋳型類実測図①	39
第 21 図	石製鋳型類実測図②	40
第 22 図	石製鋳型類実測図③	42
第 23 図	中型実測図	44
第 24 図	埴埴／取瓶実測図	46
第 25 図	青銅器実測図	47
第 26 図	鉄器実測図	47
第 27 図	玉類実測図	47
第 28 図	木製品実測図	48
第 29 図	石器実測図①	49
第 30 図	石器実測図②	50
第 31 図	石器実測図③	51
第 32 図	石器実測図④	52
第 33 図	石器実測図⑤	53
第 34 図	須玖坂本 B 遺跡 4 次調査遺構配置図	57・58
第 35 図	1号溝木製品等出土状態実測図	59
第 36 図	1号溝断面土層実測図	60
第 37 図	1号溝出土土器実測図①	61
第 38 図	1号溝出土土器実測図②	62
第 39 図	1号溝出土土器実測図③	64
第 40 図	1号溝出土土器実測図④	65
第 41 図	1号溝出土土器実測図⑤	66
第 42 図	1号溝出土土器実測図⑥	67

第43図	1号溝出土土器実測図⑦	68
第44図	1号溝出土土器実測図⑧	69
第45図	1号溝出土土器実測図⑨・2号溝出土土器実測図①	70
第46図	2号溝出土土器実測図②	71
第47図	ピット出土土器実測図	72
第48図	土製品実測図	72
第49図	鋳型実測図	84
第50図	中型実測図	85
第51図	埴埴／取瓶実測図	87
第52図	輸送風管実測図	88
第53図	石器等実測図①	90
第54図	石器等実測図②	91
第55図	須玖坂本B遺跡1・4次調査遺構配置図	93・94
第56図	須玖坂本B遺跡1・4次調査1号溝復元図	95
第57図	須玖遺跡群出土遺跡	98
第58図	須玖遺跡群出土権実測図	99

## 表 目 次

表1	1次調査出土土器観察表	28
表2	1次調査出土土製品等観察表	38
表3	1次調査出土土製鋳型類観察表	43
表4	1次調査出土中型類観察表	45
表5	1次調査出土埴埴／取瓶観察表	46
表6	1次調査出土石器観察表	54
表7	4次調査出土土器観察表	73
表8	4次調査出土土製品観察表	82
表9	4次調査出土鋳型観察表	84
表10	4次調査出土中型観察表	85
表11	4次調査出土埴埴／取瓶観察表	86
表12	4次調査出土石器等観察表	92
表13	須玖遺跡群出土権観察表	100

# I はじめに

## 1 調査に至る経過

須玖坂本B遺跡1次調査は、調査時は須玖坂本遺跡2次調査であった。しかしながら、平成15年度に史跡須玖岡本遺跡の範囲の見直しを行い、須玖坂本遺跡1次調査などは、須玖岡本遺跡坂本地区と名称変更した。一方、立地や性格の異なる須玖坂本遺跡2次調査については、須玖坂本B遺跡となった。このため、今回の報告では新名称の須玖坂本B遺跡1次調査を使用する。

1次調査については、平成元年度に春日市建設部都市整備課から春日北小学校グラウンド南端において、低学年用プールの建築計画の打診があった。当地は、須玖岡本遺跡王墓地点の北方130mに位置し、当地のことを記した論文や過去に行った聞き取り調査によって、大溝や住居跡を中心とする集落が検出される可能性が推察された。このため埋蔵文化財に関する事前協議を行い、確認調査を実施することとなった。

平成2年10月31日に重機による確認調査を行ったところ、20～30cmの客土の下に褐色粘質土の地山を検出し、柱穴などを確認した。後日協議を行ったが、計画の変更は困難であり遺跡の破壊は避け難いため、記録保存を行うことになった。発掘調査は、低学年用プールが建築される範囲414.8㎡を対象とし、市単独事業により平成3年1月21日から実施した。

4次調査については、平成15年1月27日に春日市福祉支援部こども未来課から同小学校の放課後児童クラブ舎建て替え計画の打診があった。当地は1次調査地の西に接し、遺構が確認される可能性は非常に高かった。このため埋蔵文化財に関する事前協議を行い、対象地にある植栽の伐採、撤去を行った後で、確認調査を実施することとなった。

平成15年4月17日に重機による確認調査を行ったところ、グラウンドより数十cm高い地表面から90cm下げると褐色粘質土の地山を検出し、土坑または溝と思われる遺構を検出した。開発内容は遺構に殆ど影響はないが、重要遺跡の可能性が強いことを考慮して関係部局と協議を行い、対象地の表土はすべて除去し、遺構の確認を行い、一部を発掘調査することになった。発掘調査は344.0㎡を対象とし、市単独事業により平成15年5月9日から実施した。

なお、報告書作成は、令和元年度を中心に行った。

## 2 調査の組織

春日市教育委員会が発掘調査を実施した平成2・15年度、報告書刊行の最終的な作業を行った令和元年度の体制は次のとおりである。

1次調査（平成2年度）

教育長	三原 英雄
教育部長	西田 譲
社会教育課長	矢野 文一
文化財係長	鬼倉 芳丸
主 事	坂本 智明
技 師	丸山 康晴
技 師	平田 定幸
技 師	中村 昇平
技 師	吉田 佳広
嘱 託	池田 洋子

4次調査（平成15年度）

教育長	山本 直俊
社会教育部長	矢野 文一
文化財課長	白石 光治
管理担当	
課長補佐	谷 芳文
事務主査	渡邊 康博
事務主任	松竹 典子
文化財担当	
統括係長	平田 定幸
技術主査	中村 昇平
技術主任	森井 千賀子
技術主任	境 靖紀
技術主任	井上 義也
嘱 託	坂田 邦彦
嘱 託	河村 麻子

報告書作成（令和元年度）

教育長	山本 直俊
教育部長	神田 芳樹
文化財課長	神崎 由美
整備活用担当	
統括係長	高田 博之
主 査	森井 千賀子
主 査	大原 佳瑞重
主 査	飛永 宗俊
嘱 託	坂井 和彦
嘱 託	和田 奈緒

調査保存担当

課長補佐	中村 昇平
主 査	吉田 佳広
主 査	井上 義也
主 任	山崎 悠郁子
主 事	熊笹御堂 早和子
嘱 託	川村 博
嘱 託	種生 優美
嘱 託	尾方 禎莉（～11月）

## II 位置と環境

福岡平野は玄界灘に面しており、古代から対外的交易拠点の一角として機能していた。中国の史書に記された「奴国」の推定地であるこの地域では、朝鮮半島から伝来した稲作や青銅器をはじめとした新技術をいち早く受容し、急速に普及していくなど、弥生文化の先進地域として重要な位置を占めていた。

春日市は福岡平野の南東部に位置し、牛頭山系から派生した春日丘陵のほか、宝満山系の御笠川と脊振山系の那珂川によってできた段丘・氾濫原で構成される。本市は宅地開発などがとても多く、これまでに約150の遺跡を確認している。中でも特筆されることは、弥生時代中期から後期に絶え間なく展開する「須玖遺跡群」の存在である。須玖遺跡群は、市域の中央部から北部に延びる春日丘陵及び周辺の低地に営まれた巨大な遺跡群で、その範囲は南北約2km、東西約1kmである。この範囲には集落や墳墓が稠密しており、奴国王墓や当時の高い技術によって営まれた工房などがあることから、奴国の中枢的な集落と考えられる。

当遺跡群で青銅器生産が行われたのは中期以降であり、須玖岡本遺跡坂本地区、須玖タカウタ遺跡、須玖永田A遺跡、須玖黒田遺跡、須玖尾花町遺跡からは鋳型や送风管、埴埴／取瓶などの青銅器生産関連遺物が多数出土している。須玖タカウタ遺跡では、中期前半の竪穴建物跡とその周辺から、国内最古級の青銅器生産関連遺物が多数見つかった。この発見から、遺跡群が朝鮮半島の先端技術をいち早く取り入れ、青銅器生産の先駆的な存在となったと言える。

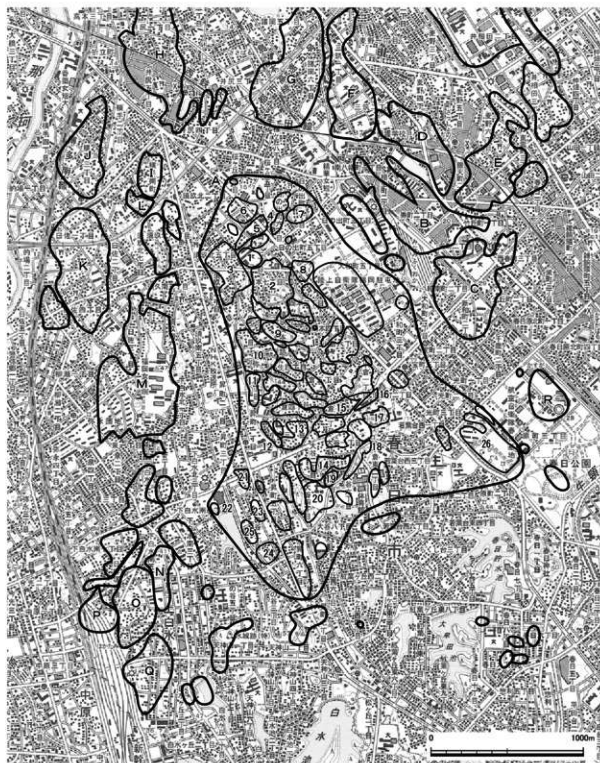
また、青銅器生産の他にガラス玉生産が行われ、須玖岡本遺跡坂本地区、須玖五反田遺跡、赤井手遺跡で勾玉鋳型などが出土している。須玖五反田遺跡では、鋳型のほかにも、未製品やガラス玉を磨いたとされる砥石なども出土することから、生産の過程を追うことができ、当時の先端技術を解明する上で重要な遺跡である。

さらに鉄器生産も行われており、仁王手A遺跡では竪穴建物跡から多量の鉄片が、赤井手遺跡では製作工程を辿ることができる未製品や鉄素材など多くの生産関連遺物が出土する。

このように須玖遺跡群では、生産に関連する遺跡が一際目立つ一方で、須玖遺跡群の西部に位置する赤井手遺跡と竹ヶ本A遺跡、南部に位置する大南A遺跡、高辻D・F遺跡、高辻E遺跡では大溝が確認されており、それら是一帯となって須玖遺跡群を囲む役割を果たしていた可能性がある。

須玖遺跡群は遺跡の規模、遺構、出土遺物ともに卓抜した内容をほこり、「奴国の王都」とも称される他に類を見ない遺跡であろう。

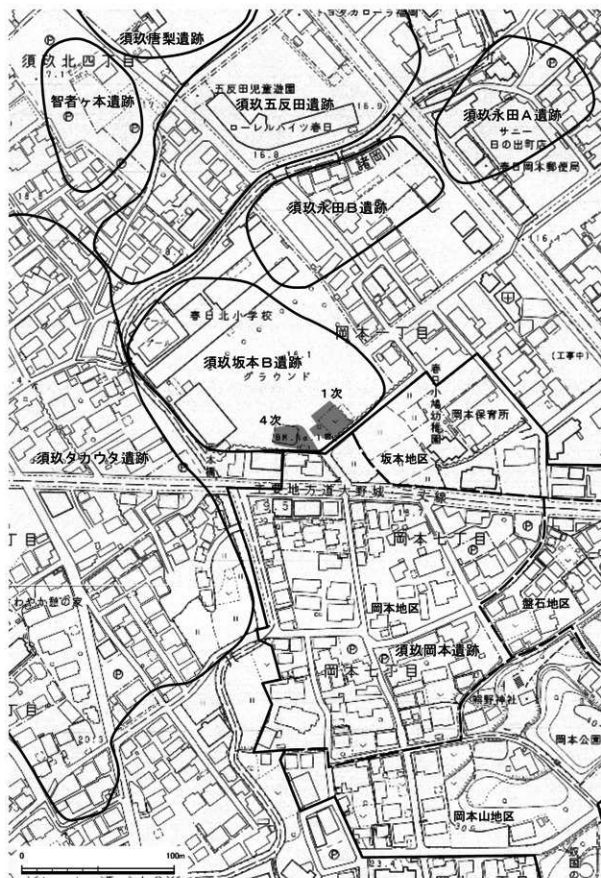
須玖遺跡群北部にある須玖坂本B遺跡は、春日丘陵の北東側低地、北流する諸岡川の右岸に立地する。須玖坂本B遺跡は主に弥生時代中期から後期にかけての集落で、これまでの調査で多くの青銅器生産関連遺物が出土する。当遺跡は北側に須玖五反田遺跡、西側に須玖タカウタ遺跡、南東側に須玖岡本遺跡坂本地区が隣接し、当地一帯には生産関連遺跡が計画的に配置された可能性がある。



- |           |            |           |           |           |           |           |           |
|-----------|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 園田橋本遺跡  | 2 須賀川本遺跡   | 3 須賀アウタ遺跡 | 4 須賀水田A遺跡 | 5 須賀石反田遺跡 | 6 須賀野繁遺跡  | 7 須賀宮田遺跡  | 8 須賀尾花町遺跡 |
| 9 平石A遺跡   | 10 赤井手遺跡   | 11 竹ノ木A遺跡 | 12 以知山遺跡  | 13 大南A遺跡  | 14 大南B遺跡  | 15 七王子A遺跡 | 16 柏立村遺跡  |
| 17 和成遺跡   | 18 高正口・下遺跡 | 19 高正B遺跡  | 20 大宮遺跡   | 21 宮の下遺跡  | 22 寺岡路北遺跡 | 23 一の谷A遺跡 | 24 一の谷B遺跡 |
| 25 一の谷C遺跡 | 26 立石遺跡    | A 須賀遺跡群   | B 山八郎遺跡   | C 藤原遺跡群   | D 堂野田遺跡   | E 堂野C遺跡   | F 三反遺跡    |
| G 藤原遺跡    | H 丹波川遺跡    | I 寺岡遺跡    | J 橋手遺跡    | K 日色遺跡    | L 堂後遺跡    | M 須賀原遺跡   | N 寺岡・長崎遺跡 |
| O 中白土遺跡   | P 門田遺跡     | Q 天神ノ木遺跡  | R 額河A遺跡   |           |           |           |           |

第1図 須賀坂本B遺跡周辺遺跡分布図 (1/25,000)





第2図 須玖坂本B遺跡位置図 (1/2,500)

### Ⅲ 1次調査の内容

#### 1 調査の概要

須玖坂本B遺跡は須玖遺跡群の北部にあり、弥生時代中期末の奴国王墓とされる須玖岡本遺跡の厚葬墓は、約130m南側にある。また、奴国の官営工房とも称される須玖岡本遺跡坂本地区が南に隣接する。現在、当地は春日北小学校のグラウンドであるが、本来の地形は南にある丘陵が徐々に高さを減じる緩斜面であったと推定でき、小学校建設時に造成を受けたと考えられる。

重機でグラウンドの土を20～30cm程度除去すると褐色粘質土を基本とする地山を検出し、黒褐色土で埋まった遺構を検出した。調査区の中央を側溝が走り、その他にも植樹や工事のためか重機で掘削された跡が確認できる。

発掘調査の結果、溝6条、土坑1基と大小多数のピットを検出した。最も規模が大きい1号溝やそれと重複する2号溝は、南端部で検出した。周囲にはピットが殆どないのに対し、調査区の北部はピットが集中するため、南側は大きく削平を受けたことが分かる。1号溝は丘陵の落ち際に掘られた直線的な溝で、床面は西側に向かい徐々に深くなる。本来の地形の高さと削平も関係あるだろうが、東側の残存状態は悪い。1号土坑は1号溝の西部と重複するが、平面形や土層観察から別の遺構とせず、1号溝の床面を1段掘り窪めた施設とするのがよからう。1号土坑、1号溝からは、弥生時代中・後期の土器や石包丁などの石器とともに、青銅器鋳型、銅矛中型、貨泉が出土する。南側から流入したとは考え難いため、北側に想定される住居跡などからの流れ込みであろう。

北隅部に集中するピット群には、柱痕を検出したものがある。これら同規模のピットは、直径6mの範囲で円を描いており、中心には土坑状の大形のピットがある。これらのことから、当ピット群は、壁面が完全に削平された円形の堅穴建物跡と推測できる。しかも、ここからは銅矛中型とともに、鋳型石材である石英長石斑岩製の剥片や破片が多数出土する。このため、青銅器工房の可能性が考えられる。

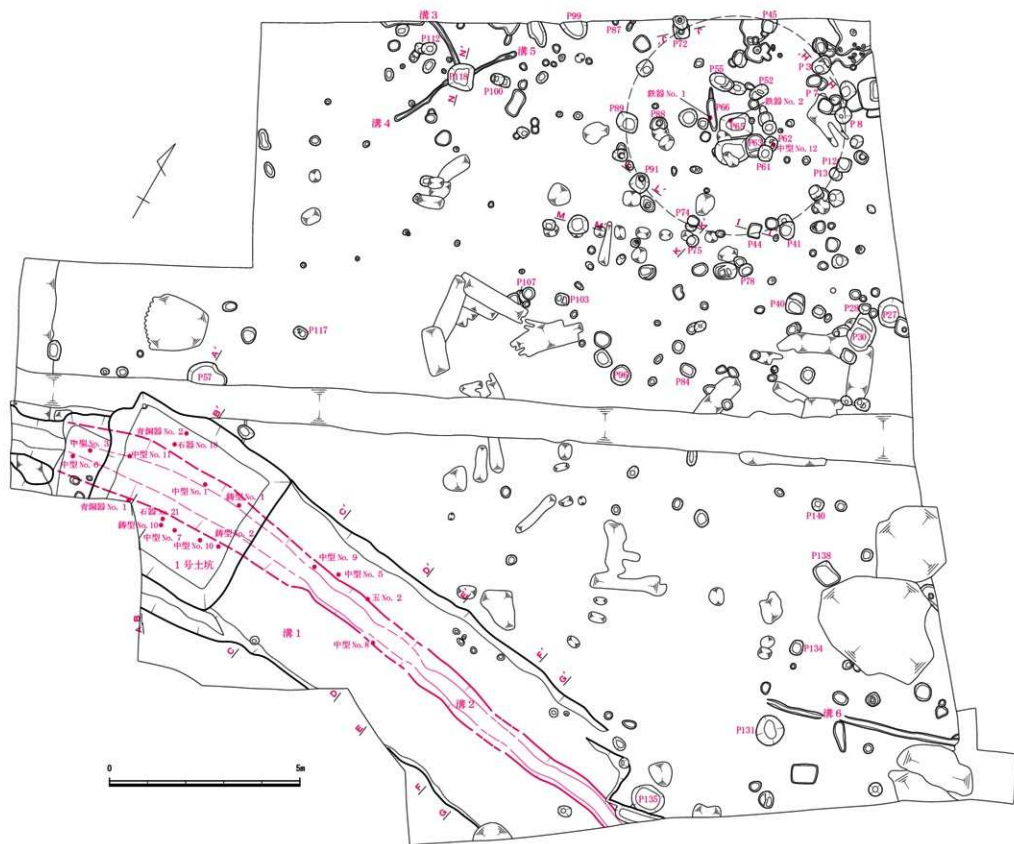
またピット群の南西側には、大型のピットに3条の小溝が接続する。これも削平された堅穴建物跡と考えられないだろうか。

#### 2 遺構

##### (1) 土坑

##### 1号土坑 (図版2・3、第4・5図)

1号土坑は、後述する1号溝の西部に検出した。南西部は調査区外まで延びるために、完掘はでき



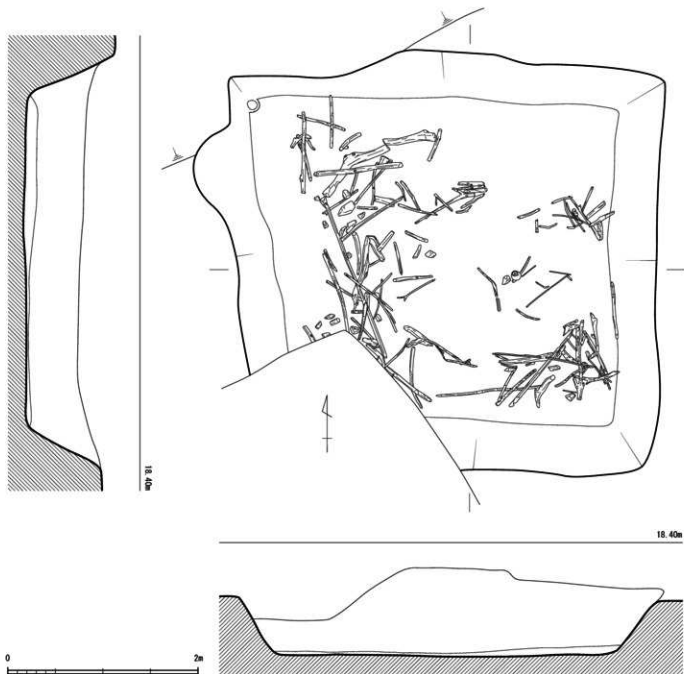
第3圖 須玖坂本B遺跡1次調査遺構配置圖 (1/100)



ていない。土坑として報告するが、1号溝との平面形、土層、出土遺物の比較では、1号土坑と1号溝との間に新旧関係はない。このため1号溝の底面の一部を深く掘削したものと考えられる。なお中央部は2号溝に切られる。

平面形は4.5 m × 4.35 m前後の方形で、北西コーナー部付近は丸みを持ち広がる。検出面からの深さは1.16 m。底面はほぼ水平で、壁面は60°前後の傾斜を持つ。湧水のため、底面には木器や木片などが残存する。

出土遺物は、多くの弥生土器の他に、石器、木器、青銅器鋳型、中型、貨泉等青銅器が出土する。



第4図 1号土坑実測図 (1/40)

また桃等の種子と考えられるものも出土した。

## (2) 溝

### 1号溝 (図版4・5-(2)、第3・6図)

1号溝は、調査区南部に20.5m程度を検出した。東西方向に延びる溝で、幅は4.1～5.15m。検出面からの深さは、最も残りの良い1号土坑南付近では60cm、最も残りの悪い東部は8cmだが、底面の標高にさほど違いはない。2号溝により切られたり、調査区際であったりするために細密な検討はできないが、西端部は張出状になっている。また、削平のために断定はできないが、東端部も張出状になる可能性がある。なお、西端部の張出状部に近接して、1号土坑がある。

出土物は、多くの弥生土器と共に、石器、青銅器中型、管玉等が出土する。

### 2号溝 (図版3・5-(2)、第3・5・6図)

2号溝は、1号溝と重複し、東西方向に19.7m程度を検出した。なお、2号溝は、調査当初1号溝の埋土の差という認識で調査しており、西部は平面で捉えていないために、断面図からの復元を行った。幅は0.6～1.6mに復元でき、深さは15～50cm程度。底面はほぼ水平。

出土物は、土器等が出土するが、弥生土器は1号溝に帰属するものであろう。

### 3号溝 (第3図)

3号溝は、調査区北西部のP118に接続する小溝で、同じくP118に接続する4・5号溝と同様の性格を持つ可能性がある。北西から南東に延び、1.3m程度を検出した。幅は13cm前後で、深さは7.5cmと浅い。

図化できる遺物は出土していない。

### 4号溝 (第3図)

3・5号溝同様にP118に接続する小溝で、南西から北東方向へ1.7mを検出した。幅は7～13cm程度で、深さは4cm以下である。

図化できる遺物は出土していない。

### 5号溝 (第3図)

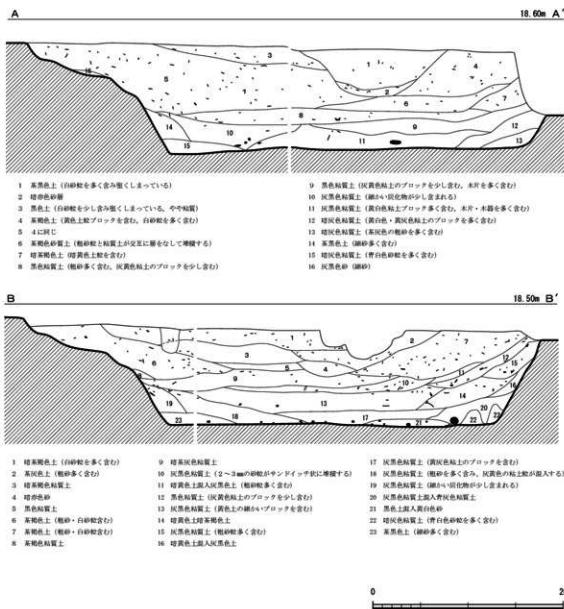
上述したようにP118に接続する。北東から南西方向へ1.25mを検出した。幅は7～16cm程度で、深さは4cm以下の小溝である。

弥生土器が出土する。

### 6号溝 (第3図)

調査区東隅付近で略東西方向に5.1m程度を検出した。幅は15～20cm程度の小溝で、深さは6cm以下と浅く、一部は消滅する。

図化できる遺物は出土していない。



第5図 溝等断面土層実測図① (1/40)

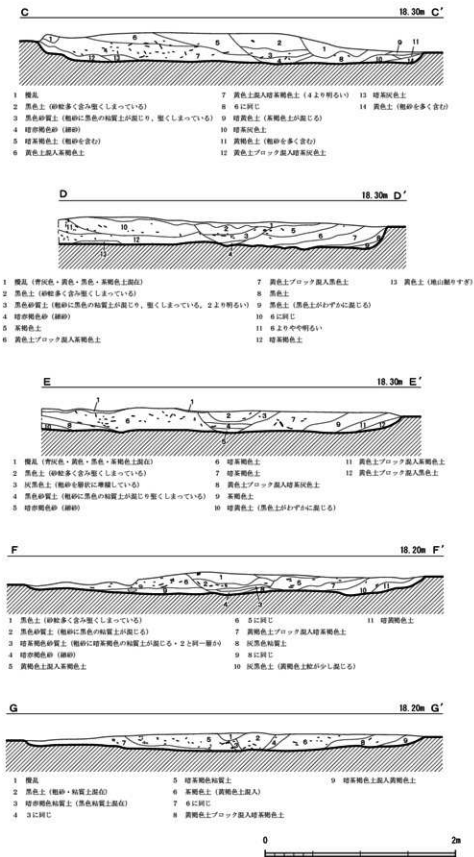
### (3) ピット

調査区の北部を中心に多数のピットを検出した。これは、現在の地形が南から北へ向けて低くなっていることや溝の残存状況からも分かるように、南側が大きく削平されていることに起因するものと考えられる。

ピットの中には大小があるが、大型のピットには柱痕を検出したものがあり、後述するように堅穴建物や掘立柱建物の柱穴になるものが含まれると考えられる。

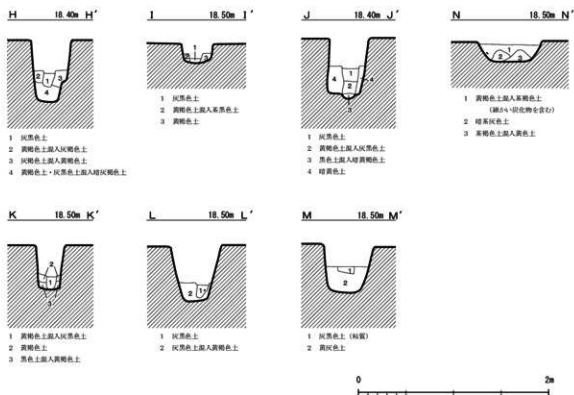
北部ピット群 (図版5-(3)・(4)、第8図)

調査区の北部には、大型のP 65を中心に、直径6m程度の範囲にピットが集中する。これらの中



第6図 溝等断面土層実測図② (1/40)





第7図 溝等断面土層実測図③ (1/40)

でも破線で示した円の上には、大型ビットが同じような間隔で並び、しかも、P 3・44・72・75・91は柱痕が認められる。

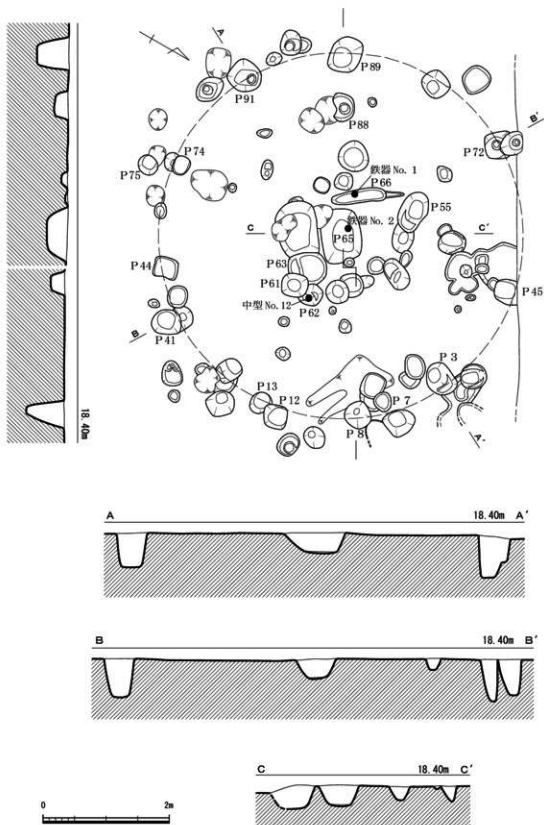
以上のことから、当ビット群は削平を受けた円形の堅穴建物跡で、柱穴しか残存していないと考えた。直径6m前後に主柱穴が存在するため、本来の建物の規模は7～8m程度であろう。

### 3 遺物

#### (1) 土器 (図版6～12-(1)、第9～18図、表1)

##### 1号土坑出土土器 (1～109)

1～109は弥生土器である。1～20は壺。1・2は複合口縁壺で、1は頸部が縮まり、頸部と体部の境には断面三角突帯が付く。2は口縁部の破片資料。一次口縁と二次口縁の境には、稜を持つ。外面は丹塗り。3・4は袋状口縁壺で、3は口縁下に突帯を付し、外面は丹塗り。4は口縁部の破片資料。厚みがあり、やや雑な印象を受ける。5は頸部から外反する口縁部を持つ壺。6・7は無頸壺。6は小型品で扁球状の体部に短い口縁部が付き、底部は凸レンズ状。7は外面に丹を施す小ぶりの資料。口縁部の外端部をやや下方へ下げ、口縁下に断面台形の突帯を付す。8～16は口縁部で、傾きや口径から壺と判断した。8～12は断面が鋤先状を呈するもので、10・12は内側の突出度は弱く、



第8図 北部ピット群実測図 (1/60)

上面は外傾する。9は外端部に刻目を施す。13・14は内口縁が鋭く突出し、14は上面が窪む。15は口縁部上面が内傾し、外口縁の厚みは薄い。16は上面が水平な資料で、厚みがあり、外口縁は短く突出する。15・16ともに内側への突出度は低い。17は壺の頸部から肩部の資料で、1条の三角突帯を付す。頸部は突帯から外反し、肩部はなで肩を呈する。18は瓢形土器の肩部下の突帯部資料。19・20は底部。19は平底で、20は上底。

21～65は甕の口縁部。21～29は、断面形が「く」字に近い資料で、21・22・24は口縁部の上面が丸みを持ち、23はやや強く屈曲する。残存状況から22・23の胴部はやや丸みを持つと考えられる。29は小型品で、口縁部は緩やかに屈曲し、上面を窪ませる。30～41は口縁下に断面三角突帯を付す資料。41の突帯は非常に貧弱で、37は突帯が剥落する。30は断面「く」字状で、端部をやや肥厚させる。31は口縁部を匙面状に成形する中型品であろう。32は断面形が「T」字状の口縁部。33～41は断面形が逆「L」字状の口縁部。口縁部上面は、33～35・37・38・41はやや内傾し、36・39は水平、40はやや窪みを持つ。42～57は口縁下に突帯を付さないもの。42・43は破片資料で、内面を突出させ、外端部を丸く成形する口縁部。上面は42が外傾し、43は水平。44は内口縁をやや突出させる断面「T」字状のもの。45・47は口縁部がやや内傾し、上面が窪むもの。48・49は内口縁の突出が弱く、上面が水平なもの。50・51は口縁部片が外に短く突出し、口縁部上面は50が丸みを持ち、51は若干窪む。52～54は口縁部が内傾し、胴部がやや膨らむ資料。55は外側に伸び、やや垂下する口縁部。56は内傾し、内側を小さく突出する資料。57は内端部を突出させ、外端部を肥厚させ丸く仕上げる口縁部。

58～60は大型の甕。58は口縁部が「く」字状をなし、断面三角突帯を付す。胴部に丸みを持つものであろう。59は外傾する口縁部片。内端部は肥厚し丸みを持ち、外端部は面を持つ。60は胴部に丸みを持つ個体。口縁部は水平で外端部は突出する。

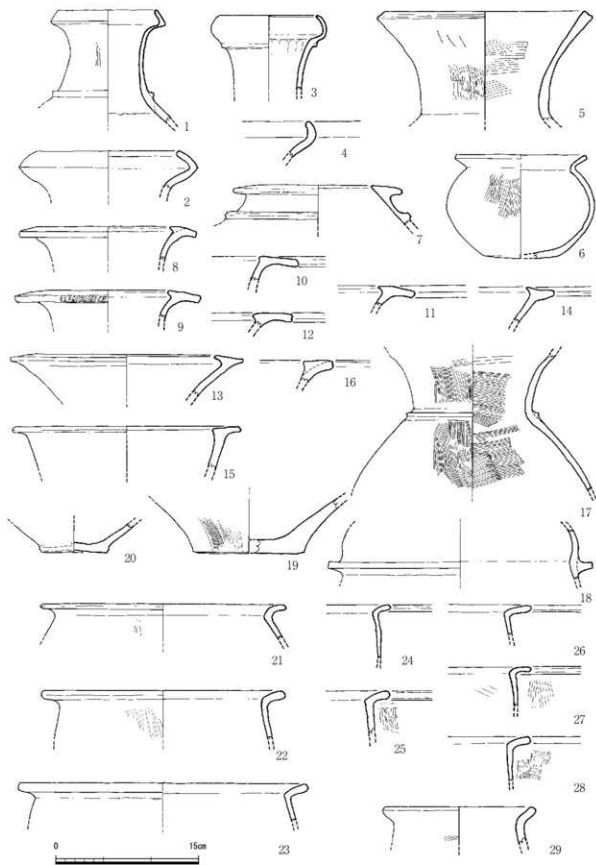
61～62は刻目突帯文土器の甕で、すべて小片。61・62は胴部上部で逆「く」字に反転する資料。両者ともに口縁端部外面の突帯と、後者の屈曲部突帯に刻目を持つ。63・64は刻目突帯を持つ屈曲部。65は口縁部に刻目を持つ突帯。

66～95は底部で、甕が主体ではあるが、壺なども含まれる。66は胴部下半が残存する。丸底に近いが、小さな底部がある。67は丸底で、器壁が厚い資料。68～69は凸レンズ状の底部をもつ資料。70～88は平底ないし僅かに上底を呈し、底部の器壁が薄いもの。85は底部に焼成後に、外面からであろうか穿孔を施す。89～95は底部の器壁が厚く、平底ないし僅かに上底を呈する資料。91は壺の可能性があろう。

96～98は甕の蓋。97・98のツマミはやや張る。

99～102は鉢の口縁部。99は半球形の体部から口縁部が短く屈曲する資料。100は体部の器壁が薄く、外反する口縁部を持つもの。101は体部の上部が内湾気味に直立し、口縁部へといたる資料。102は例卵形の体部を持つと考えられ、「く」字状に口縁部を屈曲させる。

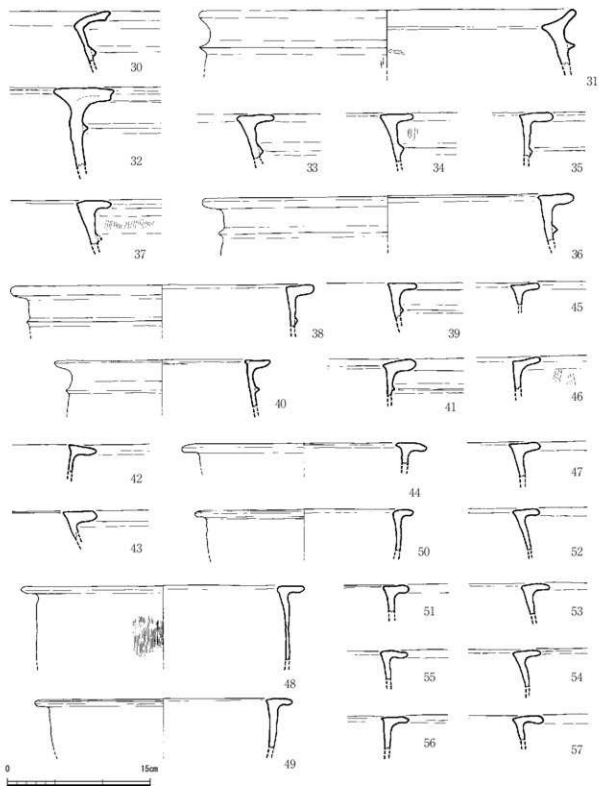
103～105は高坏。103・104は坏部が屈曲し、外反する口縁部にいたる資料。口縁端部は丸く成形し、103の外反度は弱い。105はやや小型の鑿先口縁の高坏。磨減が著しいが、本来は丹が施されて



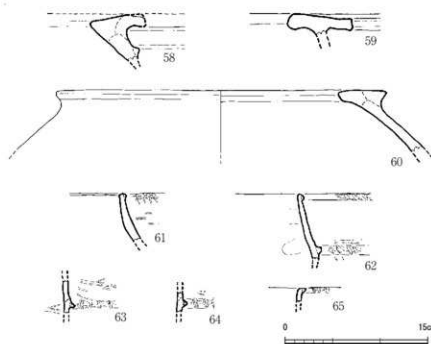
第9图 1号土坑出土土器实测图① (1/4)

いたと考えられる。

106～108は器台。106と107は薄い作りの口縁部と脚裾部。108は口縁部を欠損する資料。厚手で、外面調整も粗い。109は脚台部。甕や鉢が上部に接合するのであろう。



第10図 1号土坑出土土器実測図②(1/4)



第11図 1号土坑出土土器実測図③(1/4)

110～186は弥生土器である。110～124は壺。110～112は複合口縁壺。110は頸部から長く外反する口縁部を持つ資料。強く屈曲し、口縁端部は肥厚する。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯を付す。111は頸部が短く、口縁部の屈曲に丸みを持つもの。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯を付す。112は屈曲度が強い口縁部の破片。113～119は鋤先口縁を持つもの。113は口縁部の上面が水平で、外側への突出は弱い。114は口縁端部に面を持ち、刻目を施す資料。115は上面が外傾し、外口縁が突出するもの。116は内側を嚙状に突出させ、外側はやや長めに突出させるもの。117は口縁下に小さな断面三角形の突帯を持つもの。118は115の口縁部の形状に類似する破片資料。119は内側が殆ど突出しないもの。120・121は瓢形土器突帯部付近。120の肩部はなで肩で、突帯は高く上辺を窪ませる。121の突帯は断面三角形で、突出度は低い。122～124は底部。122は平底で、底部の厚みがある資料。124は器壁が薄く、上底で、123は両者の中間的なもの。

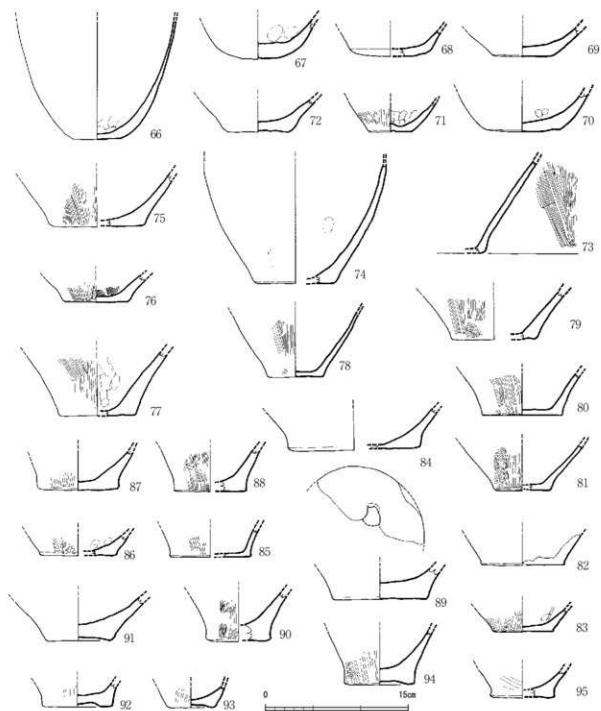
125～150は甕の口縁部。125～132は断面が「く」字状を呈するもの。125は口縁部がやや外反し端部を丸く成形するもの。126は端部をやや欠損するが、丸く仕上げる資料。127は口縁部が直線的にのびる資料で、端部は面を持つ。128は127と同じような個体。129は口縁部が外反し、端部を丸く成形するもの。130は口縁部が直線的にのび、胴部最大径が口径と差がないと考えられる資料。131・132は中型品であろう。口縁下には断面三角形の突帯を付す。133は大甕の口縁部で、断面三角形の小ぶりの突帯を付す。134は口縁部上面が内傾し、端部は丸く成形する。断面三角形の突帯を付す。135は口縁部が垂下する資料。136・137は胴部に丸みを持つ大甕。136は口縁部の上面はほぼ水平で、内口縁は強く張り出す。外口縁は面を持つ。137は口縁部上面がやや内傾する資料で、内口縁はやや突出する。138～146は口縁部が逆「L」字の資料。口縁部上面は、138～140は内傾し、141～143は水平、144～146は外傾する。139・144の上面はやや窪ませる。146には断面三角形の突帯を付す。

147～150は突帯文土器の甕の口縁部。147は刻目を工具により施すもの。148・150は外端部に突帯を貼り付ける小片。149は胴部の上部から屈曲し、口縁部にいたる形態の甕であろう。

151～171は底部。151～155は底部が凸レンズ状をなす資料。156・157は上底状の底部で、やや

1号溝出土土器(110～188)

110～186は弥生土器である。110～124は壺。110～112は複合口縁壺。110は頸部から長く外反する口縁部を持つ資料。強く屈曲し、口縁端部は肥厚する。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯を付す。111は頸部が短く、口縁部の屈曲に丸みを持つもの。頸部と肩部の境には断面三

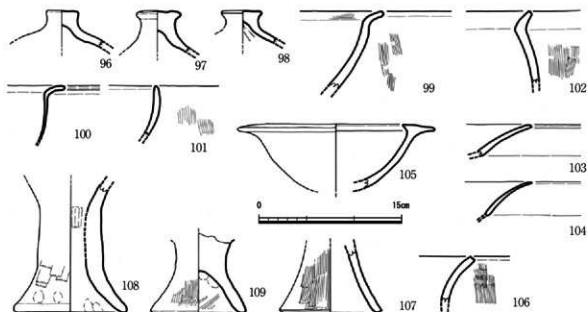


第12図 1号土坑出土土器実測図④(1/4)

外側へ広がるために、脚台のような形状を呈する。158～164・168・169・171は平底ないし若干上底気味の底部。161・163・168・169は底部の器壁が厚い。165～167・170は底部が上底で、器壁が厚い。

172は甕の蓋で、天井部は窪む。

173～178は高坏。173・174は口縁部で、鋤先状を呈するもの。174は磨滅のため器壁が薄くなる。口縁下に断面三角形の突帯を付す。175～178は脚部。175は裾部に円形のスカシ孔を有する。176



第13図 1号土坑出土土器実測図⑤ (1/4)

は脚柱部で、内面にはシボリ痕が目立つ。177は坏部の剥落が観察できる。178は低い脚部と推定できる資料。台付鉢などの脚台になる可能性もある。

179は鉢。扁球形の体部に短い口縁部が「く」字状に接続する。

180～186は器台。180はくびれ部を上位に持ち、口径よりも脚部径の方が大きい。181・182は器高の低いもの。181は口径と脚部径に殆ど差がない資料。182は口縁部よりも脚部径が大きい資料で、内面には指頭痕が目立つ。183は下半部の資料で、脚柱部は直立する。184は上半部の資料。口縁部は殆ど外反しない。185は所謂杓形器台。上面の一方が突出し、そこから傾く。円形の穿孔が一つ施される。186は筒形器台の鐙部付近。磨滅のため内外面の調整は不明だが、丹を施していたと考えられる。

187・188は混入品。187は2号溝に帰属する土師器の高坏。188は陶質土器の筒形器台の口縁部。内外面に自然軸が認められる。

#### 5号溝出土土器 (189)

189は大甕の口縁部で、断面形は「T」字に近い。内口縁の端部は丸く成形し、外口縁の端部は面を持つ。磨耗のため調整は不明。

#### P3出土土器 (190・191)

190は壺の口縁部。内口縁は突出し、外口縁は短く、面を持つ。191は器壁が厚い底部片。

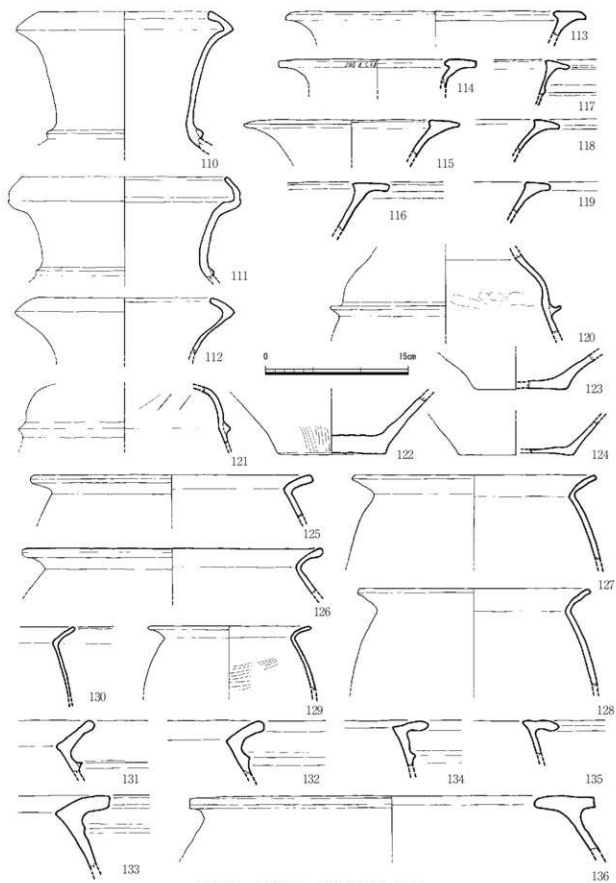
#### P12出土土器 (192)

192は甕の口縁部で、内口縁は尖り、上面は内傾する。

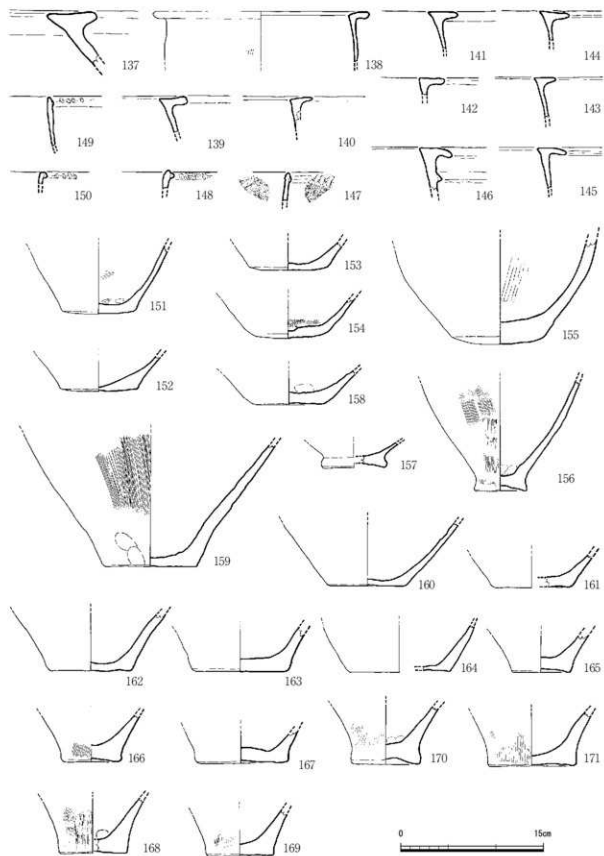
#### P13出土土器 (193・194)

193は壺の体部で、口唇状の突帯を最大径付近とその上部に貼り付ける。194は甕の口縁部で、上面は外傾し窪む。突出度のない断面三角形の突帯を付す。

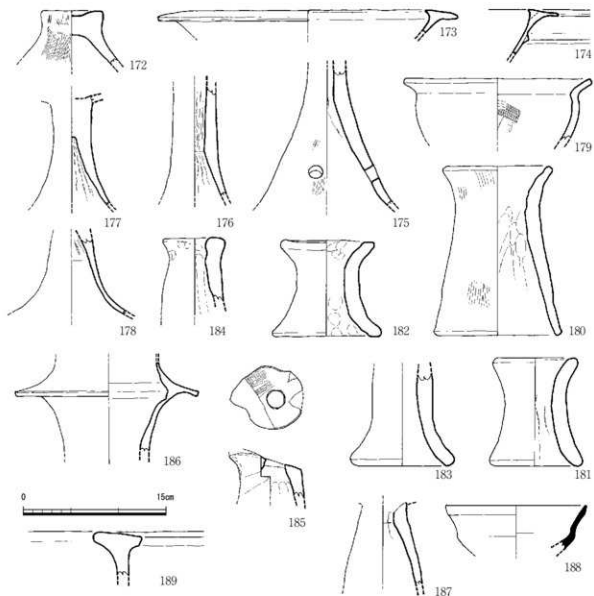




第14图 1号清出土土器实测图①(1/4)



第 15 图 1 号清出土器实测图② (1/4)



第16図 1号溝出土土器実測図③・5号溝出土土器実測図(1/4)

P 27 出土土器 (195・196)

195は壺の体部で、最大径の下に断面台形の突帯を付し、刻目を施す。196は口縁部の破片資料で、壺の可能性はある。端部は面をなす。

P 28 出土土器 (197)

197は甕の口縁部。外端部は丸く成形し、上面は内傾する。

P 30 出土土器 (198～202)

198・199は壺。198は口縁部で、上面は水平。199はやや上底気味の底部。両者ともに外面はヘラミガキを施す。200～202は甕。200は口縁部で、外端部はやや肥厚し丸みを持つ。上面は内傾する。201も口縁部で外端部は丸みを持ち、上面はやや内傾する。202は甕の底部。底部が小さいために不安定な感がある。

**P 41 出土土器 (203・204)**

203は甕の胴部下半から底部が残存する資料。平底を呈し、器壁は薄い。204は鉢の口縁部片。断面形が逆「L」字をなし、上面は水平。

**P 45 出土土器 (205)**

205は甕の口縁部。内口縁をやや突出させ、外端部は丸い。上面はやや内傾する。

**P 55 出土土器 (206・207)**

206は壺の底部であろう。凸レンズ状をなし、器壁は中央部が薄い。207は甕の口縁部。外口縁は外側に積み上げるように作り出される。

**P 57 出土土器 (208・209)**

208・209は甕の口縁部。208は上面が内傾し、外端部は丸く成形する。断面三角形の突帯を付す。209は断面形が逆「L」字をなす資料。

**P 65 出土土器 (210・211)**

210・211は甕の口縁部。210は胴部から短く外反する口縁部を持つ。211は断面逆「L」字状の資料。上面は内傾する。

**P 78 出土土器 (212～214)**

212・213は、断面形が逆「L」字を呈する甕の口縁部。両者ともに上面はやや内傾し、外口縁は外側に短く突出させ丸い。214は甕の底部上底で、器壁は厚い。

**P 84 出土土器 (215)**

215は甕の口縁部片。上面は内傾し、内口縁は鋭く突出する。外口縁は上方へ積み出すように成形し、端部は丸い。

**P 87 出土土器 (216)**

216は甕の底部。上底状を呈し、底部中央部の器壁が薄い。

**P 88 出土土器 (217)**

217は甕の口縁部片で、断面形は逆「L」字状を呈する。

**P 89 出土土器 (218～220)**

218・219は甕の口縁部。218は上面が水平で、外口縁を突出させ、内口縁はやや短く突出させるため、断面形が「T」字に近いもの。219は上面が内傾し、中ほどを窪ませる資料。220は甕の底部で、上底。底部中央の器壁は薄い。

**P 91 出土土器 (221)**

221は断面形が逆「L」字を呈する甕の口縁部。

**P 96 出土土器 (222～227)**

222～225は甕の口縁部。222～224は断面形が逆「L」字状のもので、口縁部上面はやや内傾する。222・224は内側を突出させる。225は大甕で、内側が大きく突出し、外側は若干突出させ端部に面を持つ。上面は外傾する。226・227は高坏の口縁部。226は内側の突出度に比べ、外側は小さい感がす

る。227 は内側を鋭く突出させ、外口縁端部には面を持つ。

P 99 出土土器 (228)

228 は高坏の口縁部。227 と同様、内口縁は鋭く突出させ、外口縁の端部は面を持つ。

P 100 出土土器 (229・230)

229・230 は甕の底部。229 は平底で、230 は若干上底。

P 103 出土土器 (231)

231 は断面形が逆「L」字を呈する甕の口縁部。内側をやや突出させ、外口縁端部は丸く成形、上面は内傾する。

P 107 出土土器 (232～234)

232 は断面形が逆「L」字を呈する甕の口縁部。外口縁端部を丸く成形し、上面は内傾する。233・234 は底部。233 は甕であろう。平底で2cmほど直立してから胴部へと外傾する。234 は凸レンズ状の底部片。

P 112 出土土器 (235)

235 は器台。鼓形で、くびれ部は中位よりやや上にある。口径は脚部径に比べやや小さい。外面の調整はナデ。

P 117 出土土器 (236)

236 は甕の口縁部で、上面は水平で、内外ともに突出する。

P 118 出土土器 (237)

237 は壺の体部で、最大径よりも若干上に突帯を1条付す。突帯の断面形は三角形に近い台形。表面は磨減するが、外面にはヘラミガキが残る。

P 131 出土土器 (238・239)

238・239 は甕の口縁部。断面形が逆「L」字を呈し、内傾する。239 の上面は窪む。

P 134 出土土器 (240)

240 は甕の口縁部の破片資料で、上面は丸みを持つ。

P 135 出土土器 (241～243)

241・242 は断面が逆「L」字を呈する甕の口縁部。241 は内口縁がやや突出し、外口縁は長い。242 は外口縁に丸みを持つ資料で、上面は僅かに内傾する。243 は器台で、脚部を欠く。くびれ部は上位にあり、僅かに外反する口縁部へと続く。

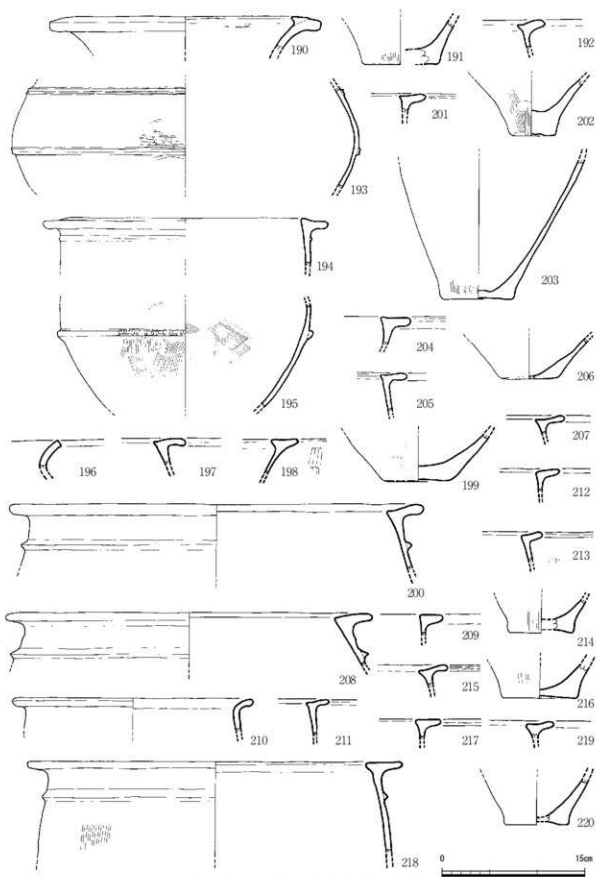
P 138 出土土器 (244)

244 は壺の口縁部と考えた。口径に比して、内口縁、外口縁が小さいため、疑問も残るが頸部の傾きから壺とした。

P 140 出土土器 (245)

245 は器台の脚部で、端部は下方に突出する。器壁は厚い。

P 151 出土土器 (246)



第17図 ビット出土土器実測図① (1/4)

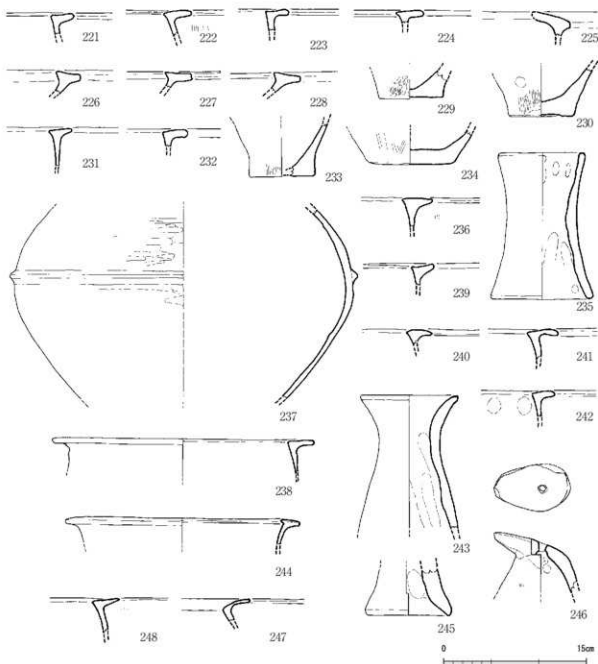
246 は杵形器台。上面に円形の穿孔を有す。

P 162 出土土器 (247)

247 は甕の口縁部と考えたが、疑問もある。断面形は「く」字に近く、口縁部の上面はやや丸みを持ち、器壁は薄い。

P 167 出土土器 (248)

248 は断面が逆「L」字を呈する甕の口縁部で、やや内傾する上面にはハケメが残存する。



第 18 図 ビット出土土器実測図② (1/4)

表1 1次調査出土土器観察表

( )は復元品

番号	埋国 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤頸部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
1	第9国 図版6	壺	1号土坑 最下層	①105	—	口縁部 ほぼ完存	調整は外面ハタ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰赤褐色～褐色、内面灰褐色。	
2	第9国 図版6	壺	1号土坑	①(150)	—	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	丹塗り
3	第9国 図版6	壺	1号土坑	①1025	—	口縁部3/4	調整は外面不明、内面ヨコナデ・微調整。 胎土は精白。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	丹塗り
4	第9国 図版6	壺	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は赤色粒・微砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
5	第9国 図版6	壺	1号土坑 最下層	①(213)	—	口縁部1/3	調整は内外面ともにヨコナデ・ハタ目・ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
6	第9国 図版6	無頸壺	1号土坑 最下層	①(140) ②110 ③79	—	全体1/2	調整は外面ヨコナデ・ハタ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
7	第9国 図版6	無頸壺	1号土坑 上層	①(180) 突帯部径(198)	—	口縁部1/3	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は精白。焼成は良好。 色調は外面灰赤褐色、内面灰赤褐色～淡赤色。	丹塗り
8	第9国 図版6	壺	1号土坑	①(189)	—	口縁部1/5	調整は外面ヨコナデ・ナデ、内面ヨコナデ。 胎土は微砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄褐色。	
9	第9国 図版6	壺	1号土坑 上層	①(198)	—	口縁部1/5	調整は外面割込みあり、内面ナデ。 胎土は精白。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	丹塗り
10	第9国 図版6	壺	1号土坑 上層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は砂粒・微砂粒を少量、雲母をやや少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰色～褐色。	
11	第9国 図版6	壺	1号土坑 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒をやや多く、砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面黄褐色～褐色、内面黄褐色。	丹塗り
12	第9国 図版6	壺	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は赤褐色をやや多く、細砂粒・赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰赤褐色～褐色、内面褐色。	丹塗り
13	第9国 図版6	壺	1号土坑 下層	①(240)	—	口縁部1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は精白。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面明褐色～褐色、口縁部灰褐色。	丹塗り
14	第9国 図版6	壺	1号土坑 下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒・雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～灰褐色～暗褐色、内面淡灰褐色。	
15	第9国 図版6	壺	1号土坑	—	—	口縁部1/8	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
16	第9国 図版6	壺	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は内外面ヨコナデ・ナデ。 胎土は雲母をやや多く、砂粒・赤色粒をやや少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに灰～暗灰色。	
17	第9国 図版6	壺	1号土坑 最下層	突帯部径(141)	—	頸部1/2	調整は外面ハタ目・ヨコナデ、内面ハタ目。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
18	第9国 図版6	甗型 土器	1号土坑 上層	突帯部径(282)	—	胴部1/3	調整は外面ナデ・ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は精白。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面明褐色。	丹塗り
19	第9国 図版6	壺	1号土坑	③(119)	—	底部1/3	調整は外面ハタ目・ナデ、内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く、赤色粒を少量、微細な雲母・角閃石を やや含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～淡褐色、内面淡黄褐色。	
20	第9国 図版6	壺	1号土坑 最下層	③(71)	—	底部1/2	調整は外面ハタ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰赤褐色、内面赤褐色。	丹塗り
21	第9国 図版6	甗	1号土坑 下層	①(260)	—	口縁部1/8	調整は外面ハタ目、内面不明。 胎土は砂粒を少量、微砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面灰褐色。	
22	第9国 図版6	甗	1号土坑 最下層	①(260)	—	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ・ハタ目、内面ヨコナデ。 胎土は精白。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面黄褐色。	ス又付着
23	第9国 図版6	甗	1号土坑	①(308)	—	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ・ハタ目、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
24	第9国 図版6	甗	1号土坑 下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡灰褐色、内面淡褐色～淡黄褐色。	



番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
25	第9図	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。微細な器母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	スズ付着?
26	第9図	甕	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
27	第9図	甕	1号土坑下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不直。 色調は外面灰褐色、石灰色、内面白灰色。	
28	第9図	甕	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。器母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
29	第9図	甕	1号土坑最下層	① (16.2)	—	口縁部 1/8	調整は外面ともにヨコナデ・ハケ目、内面ヨコナデ・ナデ。 胎土は粘土。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色—黄褐色。	
30	第10図	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成はやや不直。 色調は外面淡灰褐色—褐色—灰褐色、内面淡黄褐色。	
31	第10図 図版6	甕	1号土坑下層	① (40.0) 突帯部径 (39.7)	—	口縁部 1/5	調整は内外面ともにヨコナデ・ハケ目。 胎土は微細粒・微細な器母を少量含む。赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
32	第10図 図版6	甕	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒。赤色粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
33	第10図 図版6	甕	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は微細粒・赤色粒を多く含む。砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明灰褐色—明褐色、内面明褐色。	
34	第10図	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は微細粒・微細な器母を含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色—灰褐色、内面は灰褐色。	
35	第10図	甕	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不直。 色調は外面白灰褐色—褐色、内面白灰色。	
36	第10図 図版6	甕	1号土坑下層	① (39.5) 突帯部径 (35.9)	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は粘土。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
37	第10図 図版7	甕	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面不明、口縁部ヨコナデ。 胎土は微細粒・微細な器母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色—淡灰白色。	
38	第10図	甕	1号土坑下層	① (32.3) 突帯部径 (28.8)	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナデ、内面ナデ。 胎土は粘土。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
39	第10図	甕	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。器母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
40	第10図 図版7	甕	1号土坑下層	① (23.0) 突帯部径 (20.6)	—	口縁部 1/4	調整は不明。 胎土は粘土。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	丹塗?
41	第10図	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は粘土。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
42	第10図	甕	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色—褐色。	丹塗?
43	第10図	甕	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
44	第10図	甕	1号土坑上層	① (26.1)	—	口縁部 1/8	調整は内外面ともにナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は微細粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面黄褐色、口縁部灰褐色。	
45	第10図	甕	1号土坑下層	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は微細な器母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色—淡褐色、内面淡灰褐色—淡灰色。	
46	第10図 図版7	甕	1号土坑下層	—	—	口縁部片	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は微細粒・微細な器母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
47	第10図 図版7	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 胎土は微細粒・微細な器母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面灰褐色—灰褐色。	
48	第10図 図版7	甕	1号土坑最下層	① (30.0)	—	口縁部 1/4	調整は外面ヨコナデ・ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面黄褐色。	
49	第10図	甕	1号土坑下層	① (27.5)	—	口縁部 1/8	調整は外面不明、内面ナデ、口縁部ヨコナデ。 胎土は微細粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	

番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤髑髏部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
50	第10回国版7	甕	1号土坑下層	① (233)	—	口縁部1/5	調整は内外面ともにナナ。口縁部はコナナ。粘土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
51	第10回国	甕	1号土坑下層	—	—	口縁部片	調整は外面コナナ、ハナ目、内面ナナ、口縁部はコナナ。粘土は細砂粒を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色～黒灰色、内面灰褐色。	
52	第10回国	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナナ。粘土は細砂粒、赤色粒を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
53	第10回国	甕	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は不明。粘土は赤色粒、細砂粒を多く、微細な金雲母を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
54	第10回国	甕	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ、内面不明。粘土は細砂粒、微細な白雲母、赤色粒を少量含む。焼成は良好。色調は外面明褐色、内面灰色。	
55	第10回国	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は不明。粘土は細砂粒、赤色粒、微細な金雲母を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
56	第10回国版7	甕	1号土坑下層	—	—	口縁部片	調整は外面不明、内面コナナ。粘土は赤色粒、砂粒を少量、雲母、角閃石をやや少量含む。焼成は不良。色調は外面灰褐色～黒灰色、内面灰褐色～褐色。	
57	第10回国	甕	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナナ。粘土は細砂粒、赤色粒を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
58	第11回国	甕	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにコナナ。粘土は砂粒、赤色粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色～黒灰色、内面灰褐色～褐色。	
59	第11回国	甕	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ、内面不明。粘土は細砂粒、赤色粒、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面明褐色、内面明褐色。	
60	第11回国版7	甕	1号土坑最下層	① (350)	—	口縁部1/8	調整は外面ナナ、内面不明。粘土は細砂粒、金雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
61	第11回国版7	安帯文土器	1号土坑上層	—	—	口縁部片	調整は外面目紋条帯、内面不明。粘土は細砂粒、微細な金雲母を含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色～黄灰色、内面黄褐色。	
62	第11回国版7	甕	1号土坑最下層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ、目紋条帯、内面目紋条帯。粘土は砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
63	第11回国	甕	1号土坑	—	—	安帯部片	調整は外面安帯部目片・目紋条帯、内面目紋条帯。粘土は砂粒、細砂粒を少量、雲母、角閃石をやや少量含む。焼成は不良。色調は外面暗灰褐色～黒灰色、内面暗褐色。	
64	第11回国	甕	1号土坑	—	—	安帯部片	調整は外面安帯部目片・コナナ・目紋条帯、内面ナナ。粘土は砂粒、雲母、角閃石を少量含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色～黒褐色、内面灰褐色。	
65	第11回国	甕	1号土坑下層	—	—	口縁部片	調整は外面目片、内面不明、口縁部ナナ。粘土は砂粒、雲母、角閃石をやや少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに褐色。	
66	第12回国版7	底部	1号土坑上層	③ (52)	—	底部3/4	調整は外面不明、内面ナナ、筋線あり。粘土は粘砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
67	第12回国版7	底部	1号土坑上層	—	—	底部1/2	調整は外面ナナ、内面ナナ、筋線。粘土は砂粒をやや多く、角閃石、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面明褐色、内面明褐色。	
68	第12回国	底部	1号土坑下層	③ (74)	—	底部1/8	調整は不明。粘土は砂粒を多く含む。焼成は不良。色調は内外面ともに褐色～白灰色。	
69	第12回国版7	底部	1号土坑下層	③ 64	—	底部完存	調整は内外面ともにナナ。粘土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面黄褐色～灰褐色、内面黒褐色。	
70	第12回国版7	底部	1号土坑上層	③ (78)	—	底部1/2	調整は外面不明、内面筋線。粘土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は外面明褐色～灰褐色、内面明褐色。	
71	第12回国版7	底部	1号土坑	③ (47)	—	底部1/2	調整は外面ハナ目・ナナ、内面筋線あり。粘土は細砂粒、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに灰褐色。	
72	第12回国	底部	1号土坑上層	③ (66)	—	底部1/2	調整は不明。粘土は細砂粒、赤色粒、微細な金雲母を含む。焼成は良好。色調は外面明褐色～灰褐色、内面明褐色。	
73	第12回国	底部	1号土坑下層	—	—	底部片	調整は外面ハナ目、内面不明。粘土は細砂粒を多く、微細な金雲母を含む。焼成は良好。色調は外面明褐色、内面明褐色～灰褐色～黒褐色。	
74	第12回国版7	底部	1号土坑上層	—	—	底部片1/3	調整は外面ハナ目、内面筋線あり。粘土は砂粒を多く、細砂粒を含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色～淡褐色、内面灰黄褐色～淡灰褐色。	

番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部高・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
75	第12図 図版7	底部	1号土坑	③	(10.0)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒、赤色粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～黒褐色、内面黄褐色。	
76	第12図 図版7	底部	1号土坑 下層	③	7.2	底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ハケ目。 胎土は砂粒、赤色粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面とも黄褐色～黒褐色。	スス付着?
77	第12図 図版7	底部	1号土坑 下層	③	(8.3)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ、工具痕・節線あり。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面とも黄褐色。	
78	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③	(5.8)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～黄褐色、内面灰褐色～黒褐色。	
79	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③	(9.0)	底部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は節線粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～灰褐色、内面明灰褐色。	
80	第12図 図版8	底部	1号土坑 最下層	③	(8.6)	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は節線粒、雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面黒褐色。	スス付着
81	第12図 図版8	底部	1号土坑	③	(6.0)	底部1/4	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。節線・雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は外面灰褐色～灰褐色、内面灰褐色。	
82	第12図 図版8	底部	1号土坑 最下層	③	(10.2)	底部1/4	調整は外面工具痕ナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。節線・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面黒褐色。	
83	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③	(6.6)	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目、節線・ナデ。 胎土は節線粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
84	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③	(14.2)	底部1/3	調整は不明。底部穿孔あり。 胎土は砂粒、雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面灰褐色～黒褐色、灰褐色～暗褐色。	穿孔あり
85	第12図 図版8	底部	1号土坑	③	(8.8)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。節線粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
86	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③	(8.3)	底部1/8	調整は外面ハケ目、内面ナデ、節線あり。 胎土は砂粒をやや多く含む。節線・雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
87	第12図 図版8	底部	1号土坑	③	8.65	底部完存	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。節線・雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色。	
88	第12図 図版8	底部	1号土坑	③	(7.6)	底部1/5	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は節線粒をやや多く含む。雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面灰褐色～黒褐色。	
89	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③	(10.0)	底部3/4	調整は不明。 胎土は重砂粒を多く含む。節線粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面明褐色。	
90	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③	(7.0)	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～黒褐色、内面明褐色。	
91	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③	(7.0)	底部3/4	調整は外面ナデ、節線あり。内面ナデ。 胎土は砂粒、赤色粒を多く含む。内面石をやや多く含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに黄褐色。	
92	第12図 図版8	底部	1号土坑 下層	③	7.4	底部完存	調整は外面ハケ目、ココナデ、ナデ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。節線粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面灰褐色～黒褐色、内面灰褐色～灰褐色。	
93	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③	(5.4)	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は節線粒を少量含む。雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面明灰褐色～黒褐色。	
94	第12図 図版8	底部	1号土坑 上層	③	7.4	底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は節線粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面灰黄褐色、内面黄褐色。	
95	第12図 図版8	底部	1号土坑 最下層	③	(6.9)	底部1/4	調整は外面工具痕?・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒、雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
96	第13図 図版8	蓋	1号土坑 最下層	ツマミ部径	3.45	ツマミ部 のみ完存	調整は外面ナデ、ココナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒、雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～黒褐色、内面黄褐色。	丹塗り
97	第13図 図版8	蓋	1号土坑 上層	ツマミ部径	4.8	ツマミ部 3/4	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒、雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
98	第13図 図版8	蓋	1号土坑 上層	ツマミ部径	4.3	ツマミ部 のみ完存	調整は外面ナデ、内面ナデ、シガリ痕・アフリ。 胎土は節線粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色～灰褐色、内面明褐色。	
99	第13図	鉢	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は外面ココナデ・ハケ目、内面ハケ目・ナデ。 胎土は重砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色、内面明褐色。	

番号	埴田図取	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部径・胴部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
100	第13図	鉢	1号土坑 下層	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色。	
101	第13図	鉢	1号土坑 下層	—	—	口縁部片	調整は外面ナデ、ハケ目、内面ナデ。 粘土は砂粒、細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰色、内面灰褐色。	
102	第13図	鉢	1号土坑	—	—	口縁部片	調整は外面コナデ、ハケ目、内面コナデ、ナデ。 粘土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外ともに灰色。	
103	第13図	高坏	1号土坑 上層	—	—	口縁部片	調整は外面不明、内面コナデ。 粘土は砂粒を少量、赤色粒・微細な雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面黒色～白灰色～淡褐色、内面淡褐色。	
104	第13図	高坏	1号土坑 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は赤色粒・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色～橙褐色。	
105	第13図 図取8	高坏	1号土坑 下層	① (140)	—	坏部 1/5	調整は不明。 粘土は細砂粒、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色。	
106	第13図	器台	1号土坑 下層	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面コナデ。 粘土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに灰褐色～褐色。	
107	第13図	器台	1号土坑 最下層	③ (109)	—	脚部部 1/5	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 粘土は細砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色、内面淡褐色。	
108	第13図 図取8	器台	1号土坑 上層	③ (122)	—	脚部部 1/3	調整は外面縦状工具によるナデ、微細雲母、内面ナデ。 粘土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面灰褐色。	
109	第13図 図取8	脚台部	1号土坑 最下層	⑤ 101	—	脚台部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ、ハケ目、微細雲母。 粘土精良。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色～茶褐色。	
110	第14図 図取8	壺	1号土坑 最下層	① (1830) 突部部径 (167)	—	口縁部 1/3	調整は外面不明、内面ハケ目。 粘土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色。	
111	第14図 図取8	壺	1号溝	① (218)	—	突部部 1/8	調整は外面ナデ、内面コナデ、ナデ。 粘土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色～淡褐色。	
112	第14図 図取8	壺	1号溝 下層	① (234)	—	口縁部 1/5	調整は不明。 粘土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面褐色～灰色～黒灰色、内面褐色。	
113	第14図	壺	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナデ。 粘土は砂粒をやや多く、赤色粒・雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面灰色～黄褐色、内面灰褐色。	
114	第14図 図取9	壺	1号溝 下層	① (210)	—	口縁部 1/8	調整は外面粗入目、内面コナデ。 粘土精良。焼成は良好。 色調は外面赤灰色、内面赤褐色。	
115	第14図 図取9	壺	1号溝	① (230)	—	口縁部 1/4	調整は不明。 粘土は赤色粒をやや多く、砂粒・粗砂粒を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面白褐色、内面淡黄褐色。	
116	第14図 図取9	壺	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は外面コナデ、内面不明。 粘土は砂粒を多く含む。微細な雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外ともに淡褐色。	
117	第14図	壺	1号溝	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は砂粒、細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外ともに橙褐色、口縁部明褐色。	
118	第14図 図取9	壺	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は砂粒・微細な雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～褐色。	
119	第14図	壺	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面コナデ。 粘土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色～褐色。	
120	第14図	瓢形 土器	1号溝 上層	突部部径 (245)	—	体部 1/8	調整は外面突部部コナデ、内面ナデ、微細雲母。 粘土は砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面褐色、内面淡褐色。	丹塗り?
121	第14図	瓢形 土器	1号溝	突部部径 (225)	—	胴部 1/8	調整は外面不明、内面粗入目ナデ。 粘土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色～灰褐色、内面灰褐色～暗茶褐色。	
122	第14図 図取9	底部	1号溝 上層	③ 117	—	底部完存	調整は外面ハケ目、ナデ、内面不明。 粘土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～茶褐色、内面黄褐色。	
123	第14図	壺	1号溝	—	—	底部片	調整は不明。 粘土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面灰茶褐色。	
124	第14図 図取9	壺	1号溝 下層	—	—	底部片	調整は内外ともにナデ。 粘土は赤色粒を少量、細砂粒・雲母を含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～褐色、内面褐色。	

番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm) ①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部高・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
125	第14図 図版9	甕	1号溝 上層	① (30.2)	口縁部 1/6	調整は不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面黄褐色。	
126	第14図	甕	1号溝 上層	① (32.0)	口縁部 1/6	調整は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色～暗褐色。	
127	第14図 図版9	甕	1号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面褐色。	
128	第14図 図版9	甕	1号溝 下層	① (24.2)	口縁部 1/5	調整は不明。 胎土は雲母粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面赤褐色。	
129	第14図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ハタ目。 胎土は砂粒、赤色粒をやや多く、角閃石を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに灰色～暗灰色。	
130	第14図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整不明。 胎土は砂粒、粗砂粒、赤色粒、雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
131	第14図 図版9	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヨコナテ。 胎土精白。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
132	第14図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面ナテ。 胎土は雲母粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
133	第14図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒、赤色粒を少量、雲母を含む。焼成は不良。 色調は外面黄褐色～褐色～暗褐色、内面黄褐色。	
134	第14図	甕	1号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は砂粒、微細な雲母、雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色、内面茶褐色、口縁部暗茶褐色。	
135	第14図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒、雲母をやや含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
136	第14図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ。 胎土は雲母粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
137	第15図 図版9	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は雲母粒を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄褐色。	
138	第15図 図版9	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は外面ハタ目、内面不明。 胎土は砂粒、粗砂粒を少量、雲母を含む。焼成は不良。 色調は外面淡黄褐色～褐色、内面淡黄褐色。	
139	第15図	甕	1号溝 下層	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
140	第15図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は雲母粒を多く、赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色～褐色。	
141	第15図	甕	1号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒、粗砂粒を少量含む。焼成は不良。 色調は外面黄褐色～褐色、内面褐色。	
142	第15図	甕	1号溝	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒、赤色粒を多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄褐色～褐色。	
143	第15図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、ナテ、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色。	
144	第15図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は粗砂粒を少量、赤色粒をごく少量、雲母を含む。 焼成は不良。 色調は外面黄褐色～暗褐色、内面黄褐色。	
145	第15図 図版9	甕	1号溝	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は粗砂粒、微細な雲母を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面黄褐色、口縁部暗褐色。	
146	第15図	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡赤褐色。	
147	第15図 図版9	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は外部部のみ。雲母、内面赤褐色。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～茶褐色、内面黄褐色。	
148	第15図 図版9	甕	1号溝 上層	—	口縁部片	調整は外面部のみ。内面不明。 胎土は砂粒を少量、赤色粒をごく少量含む。焼成は不良。 色調は外面黄褐色、内面白褐色。	
149	第15図 図版9	甕	1号溝	—	口縁部片	調整は外面横紋ナテ、雲母、内面ナテ、ヨコナテ。 胎土は粗砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～暗褐色、内面黄褐色。	

番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部径・胴部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
150	第15回国版9	甕	1号溝		—	口縁部片	調整は外面黒目・赤色、内面不明。 胎土は砂粒・細砂粒を少量、黒点を含む。 色調は外面灰褐色～灰白色、内面黄褐色。	
151	第15回国版9	底部	1号溝 最下層	③ (7.6)		底部3/4	調整は外面不明、内面ハケ目・ナデ、微調整。 胎土は砂粒を少量、角閃石を含む。焼成は良好。 色調は外面灰白色、内面黄褐色。	
152	第15回国版9	底部	1号溝 下層	③ (8.2)		底部1/2	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な黒点を少量含む。焼成はやや不具合。 色調は外面褐色～灰白色、内面黄褐色。	
153	第15回国版	底部	1号溝	③ (8.2)		底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
154	第15回国版10	底部	1号溝 最下層	③ 7.9		底部完存	調整は外面不明、内面ナデ・ハケ目・微調整。 胎土は黒砂粒を多く、赤色粒・微細な黒点を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面灰褐色～灰色、内面黄褐色。	
155	第15回国版10	底部	1号溝	③ 10.1		底部完存	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
156	第15回国版10	底部	1号溝 下層	③ 5.6		底部 ほぼ完存	調整は外面ハケ目・ヨコナデ・底部微調整、内面ナデ・微調整。 胎土は砂粒を多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不具合。 色調は外面淡黄褐色、内面黄褐色～淡褐色。	
157	第15回国版10	底部	1号溝 下層	③ (7.0)		底部1/3	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は黒砂粒を多く、黒点を少量含む。焼成はやや不具合。 色調は外面褐色～淡黄褐色、内面灰褐色。	
158	第15回国版10	底部	1号溝 最下層	③ (7.4)		底部2/3	調整は外面不明、内面微調整あり。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な黒点を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色～淡灰色～灰色。	
159	第15回国版10	底部	1号溝 下層	③ 10.1		底部完存	調整は外面ハケ目・ナデ、内面不明。 胎土は黒砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	
160	第15回国版10	底部	1号溝 下層	③ (8.1)		底部3/4	調整は外面不明、内面ナデ・微調整。 胎土は砂粒を少量、黒点を含む。焼成は不具合。 色調は内外面ともに淡黄褐色～灰色。	スズ付着
161	第15回国版	底部	1号溝		—	底部片	調整は不明。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
162	第15回国版10	底部	1号溝	③ (8.75)		底部3/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は黒砂粒・赤砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面白褐色、内面黄褐色。	丹塗り
163	第15回国版10	底部	1号溝 上層	③ (10.4)		底部3/4	調整は不明。 胎土は黒砂粒。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色～灰白色。	
164	第15回国版10	底部	1号溝		—	底部片	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は微細な黒点を、細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明黄褐色、内面黄褐色。	
165	第15回国版10	底部	1号溝 上層	③ (6.25)		底部3/4	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は黒砂粒。焼成は良好。 色調は外面淡赤褐色、内面赤褐色。	
166	第15回国版10	底部	1号溝 下層	③ 6.3		底部完存	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒、赤色粒を少量含む。焼成は不具合。 色調は外面灰色～褐色、内面淡黄褐色。	
167	第15回国版	底部	1号溝 上層	③ (10.0)		底部2/3	調整は外面不明、内面ナデ・微調整。 胎土は砂粒、赤色粒を少量、黒点を含む。焼成は不具合。 色調は外面灰色、内面褐色。	
168	第15回国版	底部	1号溝 上層	③ (7.2)		底部2/3	調整は外面ハケ目・ナデ・微調整、内面ナデ・微調整。 胎土は砂粒をやや多く、微細な黒点を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～淡褐色、内面暗灰褐色～淡灰白色。	
169	第15回国版10	底部	1号溝 下層	③ (7.3)		底部1/3	調整は外面ハケ目、内面ナデ・微調整。 胎土は黒砂粒を多く含む。焼成はやや不具合。 色調は外面褐色、内面黄褐色。	
170	第15回国版10	底部	1号溝 下層	③ (7.4)		底部1/2	調整は外面ハケ目後一部ナデ調、内面ナデ・微調整。 胎土は砂粒をやや多く、微細な黒点を少量含む。焼成はやや不具合。 色調は内外面ともに黄褐色～淡灰白色～淡褐色。	
171	第15回国版10	底部	1号溝 上層	③ (9.4)		底部2/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は黒砂粒。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色、内面黄褐色。	
172	第16回国版10	蓋	1号溝		フタミ部のみ完存		調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～暗黄褐色、内面は褐色。	
173	第16回国版	高坏	1号溝		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は黒砂粒・赤色粒・微細な黒点を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色、口縁部明黄褐色。	
174	第16回国版	高坏	1号溝 下層		—	口縁部片	調整は不明。 胎土は黒砂粒・赤色粒・微細な黒点を少量含む。焼成は不具合。 色調は外面淡黄褐色～灰色、内面淡黄褐色。	

番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
175	第16図 図版10	高坏	1号溝 下層	—	—	脚部片	調整は外面ハケ目、内面シロリ肌。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～灰褐色、内面灰白色。	スカーシ孔あり
176	第16図	高坏	1号溝 上層	—	—	脚部片	調整は外面不明、内面シロリ肌。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不具。 色調は外面褐色～淡黄褐色、内面褐色～淡黄褐色。	
177	第16図	高坏	1号溝 下層	—	—	脚部片	調整は外面不明、内面シロリ肌。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は不具。 色調は外面淡黄白色、内面淡黄褐色。	
178	第16図	高坏? 台付鉢?	1号溝 下層	—	—	脚部片	調整は外面不明、内面シロリ肌・工具痕?。 胎土は砂粒を少量、赤色粒をやや多く含む。焼成は不具。 色調は外面黄褐色、内面褐色。	
179	第16図	鉢	1号溝 下層	① (20.0)	—	口縁部1/5	調整は外面不明、内面ハケ目。 胎土は黄閃石を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	
180	第16図 図版10	器台	1号溝 最下層	① (11.7) ② 17.95 ③ (13.6)	—	全体の1/3	調整は外面不明、内面磨眼肌・ナデ?。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～赤褐色、内面黄褐色。	
181	第16図 図版10	器台	1号溝 上層	① 9.0 ② 11.48 ③ (9.9)	—	全体の2/3	調整は外面不明、内面シロリ肌。 胎土は微砂粒・赤砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
182	第16図 図版10	器台	1号溝 上層	① 10.0 ② 10.2 ③ 10.6	—	ほぼ 完存	調整は外面不明、内面磨眼肌。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
183	第16図 図版11	器台	1号溝 最下層	③ 11.2	—	下半部のみ 1/4	調整は不明。 胎土は赤砂粒を多く含む。焼成は不具。 色調は内外面ともに黄褐色。	
184	第16図 図版11	器台	1号溝	① (6.1)	—	口縁部1/3	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面赤褐色。	
185	第16図 図版11	器台	1号溝	① (7.6)	—	口縁部3/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面磨眼肌。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰白色。	
186	第16図 図版11	筒形 器台	1号溝 上層	突帯部径 (19.5)	—	胴部3/4	調整は不明。 胎土は粘土。焼成は良好。 色調は内外面ともに赤褐色。	丹塗り?
187	第16図 図版11	土師器 高坏	1号溝 上層	① (15.0)	—	口縁部1/5	調整は外面磨眼ナデ、内面凹ナデ?。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰白色～黄褐色。	
188	第16図 図版11	陶質土器 器台	1号溝 上層	—	—	脚部片	調整は外面不明、内面ナデ・磨眼肌?。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～黄色、内面褐色。	
189	第16図	壺	5号溝	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～褐色、内面黄褐色。	
190	第17図 図版11	壺	P 3	① (29.0)	—	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ。 胎土は砂粒を多く、雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰白色～褐色、内面黄褐色。	
191	第17図	底部	P 3	③ (7.8)	—	底部1/8	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を少量、雲母を含む。焼成は不具。 色調は外面褐色～暗褐色、内面黄褐色。	
192	第17図	壺	P 12	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は不具。 色調は内外面ともに黄褐色～褐色。	
193	第17図	壺	P 13	突帯部径 (37.2)	—	胴部1/5	調整は外面ナデ・ハケ目・赤目、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量、細砂粒・赤色粒を多く、雲母を含む。 焼成は良好。 色調は外面黄褐色～暗褐色、内面黄褐色。	
194	第17図 図版11	壺	P 13	① (30.4)	—	口縁部1/4	調整は外面ナデ、内面不明。 胎土は砂粒・赤目を多く含む。焼成は不具。 色調は外面灰白色～黄褐色、内面灰白色～灰褐色。	
195	第17図	壺	P 27	突帯部径 (27.3)	—	胴部1/4	調整は外面ハケ目、ヨコナデ、突帯部磨目、内面ハケ目。 胎土は砂粒・赤目を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
196	第17図	壺?	P 27	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不具。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色～黄褐色。	
197	第17図	壺	P 28	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・内面ナデ。 胎土は砂粒を多く、黄閃石を含む。焼成は不具。 色調は外面褐色～褐色、内面灰白色～褐色。	
198	第17図 図版11	壺	P 30	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナデ・ミヅコナデ、内面不明。 胎土は砂粒・雲母をやや多く、赤色粒・黄閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色～褐色。	
199	第17図 図版11	壺	P 30	③ (7.2)	—	底部1/2	調整は外面ミヅコナデ、内面不明。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面黄褐色。	

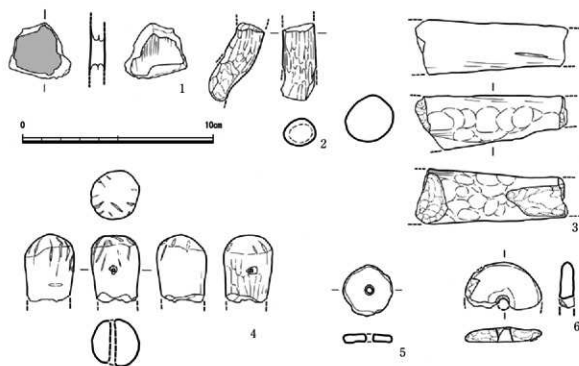
番号	埋込 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤髹部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
200	第17回国版11	甕	P 30	① (44.0)	突帯部径 (41.6)	口縁部1/5	調整は外面ヨコナテ。内面不明。 粘土は砂粒・細砂粒を中々多く、赤色粒を少量、雲母を含む。 焼成は良好。 色調は外面黄褐色～橙褐色、内面灰白色～黒灰色。	
201	第17回国版11	甕	P 30	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は砂粒を少量、雲母を含む。焼成は中々不良。 色調は外面灰褐色～黒灰色、赤灰色、赤灰色、内面灰褐色～黒灰色。	
202	第17回国版11	底部	P 30	③ 5.0	—	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナテ。 粘土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
203	第17回国版11	甕	P 41	③ (7.4)	—	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 粘土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
204	第17回国版11	鉢	P 41	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ。 粘土は砂粒を中々多く、雲母を含む。焼成は中々不良。 色調は外面灰褐色～橙褐色、内面黄褐色。	
205	第17回国版11	甕	P 45	—	—	口縁部片	調整は内面不明、口縁部ヨコナテ。 粘土は砂粒を多く、細砂粒・赤色粒を少量含む。焼成は中々不良。 色調は外面灰褐色～橙褐色、内面橙褐色。	
206	第17回国版11	壺	P 55	③ (7.4)	—	底部1/4	調整は不明。 粘土は細砂粒、赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色～黒灰色。	
207	第17回国版11	甕	P 55	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面ナテ。 粘土は砂粒を多く、細砂粒を少量、雲母を含む。 焼成は中々不良。 色調は外面灰褐色～灰白色、内面灰褐色～赤褐色。	
208	第17回国版11	甕	P 57	① (39.1)	—	口縁部1/5	調整は外面ヨコナテ。内面不明。 粘土は砂粒・細砂粒を中々多く、雲母を含む。焼成は中々不良。 色調は外面灰褐色～黄褐色～褐色、内面灰白色～暗灰色。	
209	第17回国版11	甕	P 57	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ。内面不明。 粘土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。 焼成は中々不良。色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
210	第17回国版11	甕	P 65	① (25.8)	—	口縁部1/8	調整は内外面ともに不明、口縁部ヨコナテ。 粘土は細砂粒、雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
211	第17回国版11	甕	P 65	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ。内面不明。 粘土は砂粒を多く、赤色粒を少量、雲母を含む。 焼成は中々不良。 色調は外面灰褐色～褐色、内面灰褐色。	
212	第17回国版11	甕	P 78	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は砂粒、微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色～白褐色。	
213	第17回国版11	甕	P 78	—	—	口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明。 粘土は細砂粒を多く、砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに橙褐色。	
214	第17回国版11	甕	P 78	—	—	底部片	調整は外面ナテ・ハケ目、内面ナテ。 粘土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色。	
215	第17回国版11	甕	P 84	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶褐色。	
216	第17回国版11	甕	P 87	—	—	底部片	調整は外面ナテ・ハケ目、内面ナテ。 粘土は細砂粒、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～橙褐色、内面明茶褐色。	
217	第17回国版11	甕	P 88	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナテ。 粘土は細砂粒、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面明茶褐色。	
218	第17回国版12	甕	P 89	① (39.8)	突帯部径 (36.8)	口縁部1/4	調整は外面ヨコナテ・ハケ目、内面不明。 粘土は細砂粒、赤色粒、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～茶褐色、内面灰褐色～灰茶褐色。	
219	第17回国版12	甕	P 89	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ。 粘土は細砂粒、微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面明茶褐色。	
220	第17回国版12	甕	P 89	—	—	底部片	調整は外面ナテ・ハケ目、内面ナテ。 粘土は細砂粒、赤色粒、微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面灰褐色。	
221	第18回国版12	甕	P 91	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色、内面明茶褐色。	
222	第18回国版12	甕	P 96	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ・ハケ目、内面不明。 粘土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～黄灰色、内面橙褐色～白灰色。	
223	第18回国版12	甕	P 96	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は細砂粒、微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面明茶褐色。	
224	第18回国版12	甕	P 96	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ。 粘土は細砂粒、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶褐色。	



番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部部・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
225	第18図	甕	P 96	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナナ。内面不明。 胎土は砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～灰褐色。内面黒灰褐色。	
226	第18図	高坏	P 96	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を多く含む。微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黒褐色。内面黒褐色。	
227	第18図	高坏	P 96	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナナ。内面不明。 胎土は細砂粒・赤土粒。微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色。内面黒灰褐色。	丹塗り
228	第18図	高坏	P 99	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黒褐色。	
229	第18図	甕	P 100	③ (6.9)	—	底部3/4	調整は外面ハナヅリ・ナナ。内面ナナ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色。内面明茶褐色～茶褐色。	
230	第18図 図版12	甕	P 100	③ 6.8	—	底部実存	調整は外面ハナヅリ。内面ナナ。 胎土は精貝。焼成は良好。 色調は外面灰褐色。内面灰黄色。	
231	第18図	甕	P 103	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黒褐色。	
232	第18図	甕	P 107	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色～茶褐色。内面明茶褐色。	
233	第18図	甕	P 107	—	—	底部片	調整は外面ナナ。ハナヅリ。内面ナナ。 胎土は微細な金雲母を少量含む。細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面褐色。内面明茶褐色～明茶褐色。	
234	第18図 図版12	底部	P 107	③ (9.2)	—	底部1/3	調整は外面ハナヅリ。内面黒褐色。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面明茶褐色。内面黒灰褐色。	
235	第18図 図版12	器台	P 112	① (9.1) ② 15.5 ⑤ (10.9)	—	全体の1/2	調整は外面ナナ。内面ナナ。黒褐色。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～淡褐色。内面灰褐色～橙褐色。	
236	第18図 図版12	甕	P 117	—	—	口縁部片	調整は外面ハナヅリ・ヨコナナ。内面ヨコナナ。 胎土は砂粒・細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色。内面灰褐色。	
237	第18図 図版12	甕	P 118	突帯部径 (37.0)	—	胴部1/5	調整は外面ハナヅリ・ヨコナナ。内面不明。 胎土は赤土粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄褐色。	
238	第18図 図版12	甕	P 131	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰黄褐色。	
239	第18図	甕	P 131	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色。内面明茶色。	
240	第18図	甕	P 134	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面灰白色～明褐色。内面明褐色。	
241	第18図	甕	P 135	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ。内面不明。 胎土は砂粒・微細な金雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～明茶褐色。内面明茶褐色。	
242	第18図	甕	P 135	—	—	口縁部片	調整は外面不明。内面黒褐色あり。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明茶褐色。内面茶褐色。	
243	第18図 図版12	器台	P 135	① (10.2)	—	全体の1/2	調整は外面不明。内面ナナ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～淡褐色。内面淡茶灰褐色。	
244	第18図	甕	P 138	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な金雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～灰茶褐色。内面黒褐色。	
245	第18図 図版12	器台	P 140	⑤ (9.2)	—	全体の1/3	調整は外面不明。内面黒褐色。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色。内面灰褐色～橙褐色。	
246	第18図 図版12	杏形 器台	P 151	—	—	全体の2/3	調整は外面ナナ・ハナヅリ。内面ナナ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡黄褐色～赤褐色。内面黄灰褐色～赤褐色。	穿孔あり
247	第18図	甕	P 162	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明灰褐色。	
248	第18図	甕	P 167	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明灰褐色。	

(2) 土製品等 (図版12-(2)、第19図、表2)

1・2・3は1号土坑、4・6は1号溝、5はP52の出土品。1は、内面に水銀朱が付く朱付着土器の小片で、傾きは不明。通常の土器との区別がつかず、所謂、朱鍋かどうかは分からない。2は土製品とするよりも、土器の把手とした方が良くもしいない。外面は丁寧に磨かれ、赤色顔料が塗布される。断面観察では、芯の周りに粘土を巻き付けて成形した様子が観察できる。3も把手。円錐状にも復元できるために、細形銅矛か中細形銅矛の中型の可能性を考えたが、外面にハケメや指頭痕が残ること、直径が3cmあるため、細形銅矛・中細形銅矛の中型としては大きすぎることから、土製品などの把手と判断した。胎土は精製で雲母を含み、丹塗土器に近い。



第19図 土製品等実測図 (1/2)

表2 1次調査出土土製品等観察表

番号	挿図 図版	種別	出土位置	法量 (cm)			残存状態	色調	調整及び特徴	備考
				長さ	幅	厚さ				
1	第19回国版12	朱付着土器	1号土坑	30	3.3	0.8	小片	内外面ともに暗灰褐色	調整はハケ目残らず、面研削。胎土は精製、雲母含む。地成は良好。	内面に朱付着
2	第19回国版12	把手	1号土坑	4.1	1.9	1.5	把手部 1/3	淡褐色 (丹は暗赤色)	調整はヘウミダキ。胎土は細粒・赤色粒子含む。雲母が目立つ。地成は良好。	丹塗り
3	第19回国版12	把手	1号土坑	8.05	2.95	2.45	把手部 3/4	白褐色	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ。胎土は細粒含む。地成は良好。	
4	第19回国版12	土製 勾玉?	1号溝	3.55	2.6	2.55	1/2?	淡褐色~灰褐色	調整はヘウミダキ。胎土は細砂粒含む。地成は良好。	縦割 丹塗り?
5	第19回国版12	紡錘車	P52	外径 2.7	孔径 0.3	0.5	完形	表面黄褐色、裏面 淡赤褐色	調整は不明。胎土は細砂粒含む。地成は良好。	土器片を 再加工
6	第19回国版12	紡錘車	1号溝	外径 (4.1)	孔径 (0.6)	0.8	1/2	表裏ともに灰褐色	調整は外面ナデ、内面ナデ。胎土は細砂粒含む。地成は良好。	

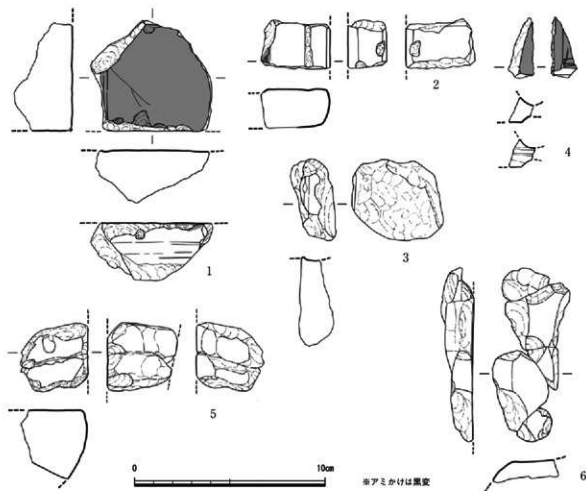
4は円柱状を呈する土製品で、焼成前穿孔を有す。外面はヘラミガキ、先端部は丸く仕上げ、雑に線刻が施される。土製勾玉の可能性を考えれば、線刻は丁字頭を表現したものか。5・6は紡錘車。5は小型品で土器を打ち欠き再加工したもの。6は復元径4.1cmの資料で、穿孔は棒状工具により実測図下方から上方に施したと考えられる。

### (3) 青銅器生産関連遺物

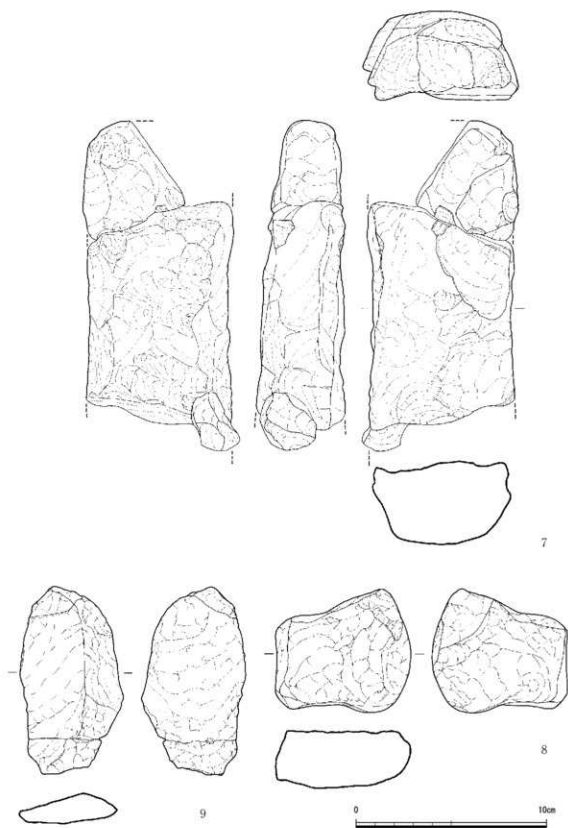
#### ① 石製鋳型類 (図版13・14, 第20～22図, 表3)

鋳型や鋳型の製作過程を示す剥片22点を報告する。なお、4を除く21点は北部九州で通有の石英長石斑岩製である。1～3は1号土坑、4・5・10は1号溝、6上半部はP3、6下半部・9・12・21はP8、14～16はP27、17・18・19・20はP61、7・8・13はP62、11は表土、22は攪乱出土。製品と考えられないものは、殆どがピット出土である。

1～4は破片ながら、型や黒変が確認できるために鋳型と分かるもの。1は銅牙ないし銅戈鋳型の鋒下と考えられる資料。実測図左に鑄と考えられる直線的な彫り込みが確認でき、黒変する。下面は、



第20図 石製鋳型類実測図① (1/2)



第 21 图 石製鏃型類実測图② (1/2)

鋳型面と直角で、平滑に調整するため、連結式鋳型の可能性がある。2は、左側縁部に、僅かながら型と黒変が残存する資料。厚さ21cmで、本来の横断面形は逆台形に近いと考えられる。厚みなどから考えると古式の武器型の可能性があり、刃部と考えられる。3は、樋部と脊部と考えられる型が残存し、黒変が認められる。銅矛鋳型の可能性があろう。4は武器型の両面鋳型で、滑石系の石材を使用する。表面は銅矛袋部、裏面は銅剣の可能性があり、脊部と翼部が残存する。裏面には刻線があるが鋳出した製品の文様になるかは不明。表・裏面ともに黒変する。下面は表・裏面からの擦切りにより切断される。他の鋳型か、他の製品に転用しようとしたのであろう。

5・6は型や黒変は見られないが、本来は鋳型であった可能性が強い資料。5は横断面が蒲鉾形に復元できるため鋳型と考えた。側面は打割による調整。下面を砥石として再利用するため、鋳型が破損後に砥石に転用したのであろう。6は、4片が接合し、上2片はP3、下2片はP8から出土した。面が確認できるために鋳型の未製品か、欠損したものであろう。

7・8は鋳型の未製品であらう。7は3片が接合したが、左下端に接合した剥片は、形を整えるための粗割により剥がれた剥片と考えられる。すべての面が粗割のままで、研がれて平滑にされた面はない。長さに対して幅が狭いことや、横断面形が蒲鉾形か逆台形を呈することから、銅剣等の武器型の鋳型を製作しようとしたと考えられる。鋳型の製作途中で破損したために廃棄されたのであろう。8は厚みのある破片資料で、7と同様平滑な面は持たない。7と8はP62から出土し、表面の雰囲気などは非常に類似する。このため7と8は接合しないが、同一個体の可能性がある。

10は大形であるが、青銅器の型や黒変等は見られない。本来の鋳型の裏面と一方の側面が残存すると考えた。厚みがあるため広形銅矛か広形銅戈の鋳型であったと考えられる。割れた表面の一部や裏面には、敲打痕があるため再加工を試みたと考えられる。

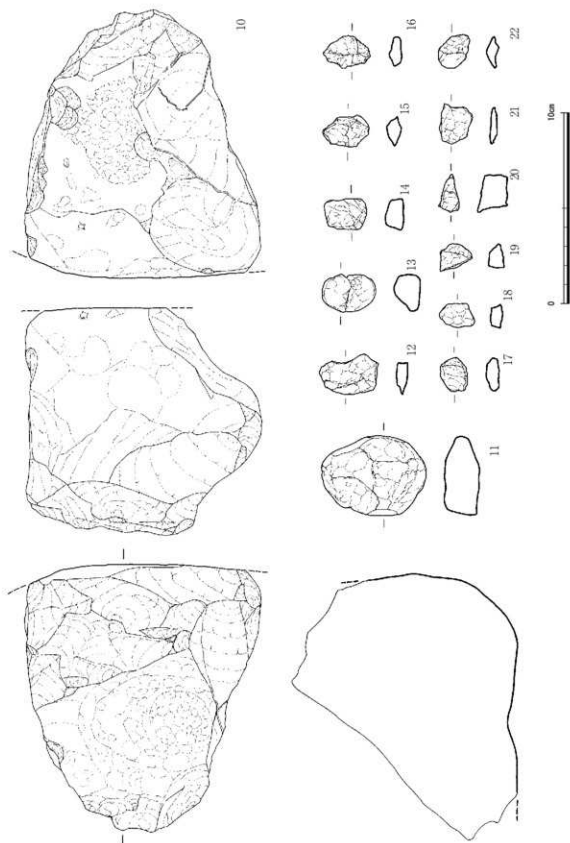
9・11～22は石英長石斑岩の剥片。9は大ぶりの剥片で、3片が接合した。11はやや大ぶりの剥片。表土から出たため著しく風化する。左側面は残存する可能性がある。12～22は小形の剥片で、13のように2片が接合したものもある。これら以外にもP27からは小片4点が出土する。

## ② 中型 (図版15、第23図、表4)

中型は、所謂鋳物砂と呼ばれる粒の細かい砂を胎土とし、雲母を含むことがある。出土遺構は、1～4・7・10は1号土坑、5・6・8・9・11・13は1号溝、12はP62である。

1～12は銅矛中型。1・2のように鋒側に近いものから、11・12のような湯口部もある。その他は中間であらう。横断面形が丸いものが多く、これらは細形銅矛か中細形銅矛の中型である可能性が高い<sup>(1)</sup>。一方、10のように横断面形が凸レンズ状をなす個体は、中広形銅矛か広形銅矛の中型であらう。湯口部の資料は、11が「X」字形を呈するのに対して、12は「十」字形を呈する。11は下面の中央に窪みを持つ<sup>(2)</sup>。12は細形銅矛等の古式の型式の中型と考えられる。

13は小銅鐸の中型。上面の型持ちは欠損するが、舞部は半分程残存する可能性がある。横断面形は凸レンズ状に復元できる。



第 22 圖 石製器形類圖③ (1/2)

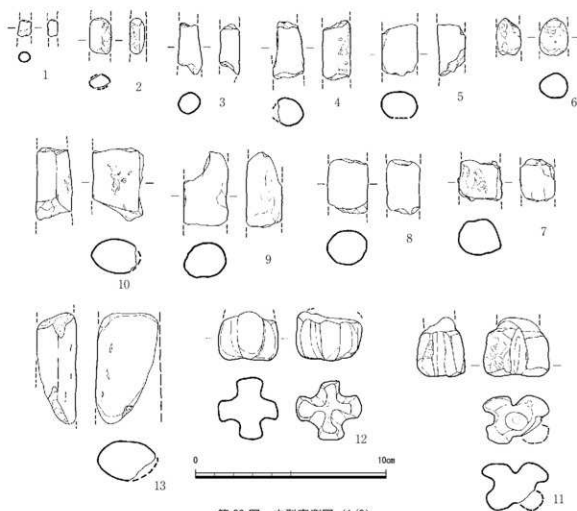
表3 1次調査出土石製鑄型観察表

番号	押図 図版	種別	出土位置	法量 (cm)			石材	備考
				長さ	幅	厚さ		
1	第20図 図版13	銅子鑄型?	1号土坑	5.85	6.4	3.05	石英長石斑岩	黒変, 連結鑄型?
2	第20図 図版13	武器形鑄型?	1号土坑	2.6	3.7	2.05	石英長石斑岩	黒変
3	第20図 図版13	銅子鑄型?	1号土坑	5.85	6.4	3.05	石英長石斑岩	黒変
4	第20図 図版13	銅子鑄型 銅剣鑄型	1号溝	3.2	1.35	1.5	滑石系	黒変
5	第20図 図版14	—	1号溝	3.6	3.6	3.65	石英長石斑岩	砥石に転用
6	第20図 図版14	—	P3・P8	9.2	4.1	1.75	石英長石斑岩	P3の2片とP8の2片が接合
7	第21図 図版13	未製品	P62	17.45	8.3	4.7	石英長石斑岩	3片が接合
8	第21図 図版14	未製品	P62	6.5	7.2	3.1	石英長石斑岩	7の同一個体?
9	第21図 図版14	網片	P8	10.0	5.5	1.65	石英長石斑岩	3片が接合
10	第22図 図版13	未製品	1号溝	12.5	14.25	1.21	石英長石斑岩	敲打痕あり
11	第22図 図版14	網片	表土	5.6	4.2	1.8	石英長石斑岩	
12	第22図 図版14	網片	P8	3.2	2.15	0.6	石英長石斑岩	
13	第22図 図版14	網片	P62	2.9	2.05	1.45	石英長石斑岩	2片が接合
14	第22図 図版14	網片	P27	2.2	1.7	1.0	石英長石斑岩	P27には他に4小片あり
15	第22図 図版14	網片	P27	2.45	1.7	0.8	石英長石斑岩	P27には他に4小片あり
16	第22図 図版14	網片	P27	2.5	1.75	0.7	石英長石斑岩	P27には他に4小片あり
17	第22図 図版14	網片	P61	1.5	1.8	0.7	石英長石斑岩	
18	第22図 図版14	網片	P61	1.9	1.3	0.7	石英長石斑岩	
19	第22図 図版14	網片	P61	1.7	1.45	0.9	石英長石斑岩	
20	第22図 図版14	網片	P61	1.15	2.05	1.6	石英長石斑岩	
21	第22図 図版14	網片	P8	1.8	2.15	0.4	石英長石斑岩	
22	第22図 図版14	網片	攪乱	1.65	1.8	0.7	石英長石斑岩	

## ③ 増嶋/取瓶 (図版16, 第24図, 表5)

7点を図化した。この他にも小片や可能性のある資料がある。1・3～6は1号溝、2・7は1号土坑から出土した。

1・2は口縁部。1は小片のため傾きには疑問がある。端部の内外面に真土が確認できるが、特に内面が顕著である。2も口縁部の内外に真土を貼る資料。傾きは不確かである。3は胴部の破片資料で、上部の器壁が薄くなることから口縁下の可能性がある。内面には真土を貼るが、被熱のためカビがある。4・5は胴部の破片で、内面には真土を貼る。3と同様、上部の器壁が薄いため、口縁部下の可能性がある。6は外面が外反するため、脚台部直上の破片と考えられる。内面には厚く真土を貼り付ける。調査者は、5と近接して出土するため、同一個体の可能性を考えたが、両者ともに小片であり断定はできない。7は増嶋/取瓶から剥落した銅滓で、裏面には、僅かに増嶋/取瓶内面の器面が残存する。傾きや天地は不明だが、厚みのある銅滓の付着を考えれば、内底部であろう。



第 23 図 中型実測図 (1/2)

(4) 青銅器 (図版 17 - (1)、第 25 図)

2点の青銅器が1号土坑から出土した。青銅器の原料や加工具の可能性もあり、青銅器生産関連遺物かもしれないが、青銅器として報告する。

1は貨泉で、右周縁部等を欠く。外縁外径227mm、外縁内径19.9mm、内郭外径9.5mm、内郭内径6.9mm、外縁厚1.7mm、文字面厚1.25mm。色調は灰緑色。左下も欠くが鑄造欠陥の可能性があり、一部に果が確認できる。1点だけの出土であるため断定できないが、当遺跡から多数の青銅器生産関連遺物が出ることを考慮すれば、青銅器の原材料の可能性もあろう。

2は武器形青銅器を転用した小形工具と考えた<sup>(3)</sup>。鉈の可能性も考えたが、横断面形が三日月型にならず、表・裏面の形状に差が見られないことから鑿と考えた。最大長3.2cm、最大幅0.65cm、最大厚0.38cm。色調は淡緑褐色。片刃の刃部を作り出す。実測図右側縁に本来の青銅器の刃部が確認でき、左側縁には細かい沈線を有する。この沈線は表裏の同じ場所に確認できるため、本来の武器形青銅器の樋に関するものか、再生時に切断するための擦切りなのかは分からない。青銅器鑄型の彫り込みか、



表4 1次調査出土中型類観察表

番号	採国 図版	種別	出土位置	計測値 (cm, g)				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
1	第23回国版15	銅矛	1号土坑	0.9	0.7	0.55	0.2	灰白色	無	硬化	
2	第23回国版15	銅矛	1号土坑	1.9	1.15	0.75	1.5	灰白色	有 赤黒褐色	やや硬化	
3	第23回国版15	銅矛	1号土坑	2.7	1.2	1.2	3.4	暗茶灰色	無	軟質	
4	第23回国版15	銅矛	1号土坑	3.05	1.4	1.5	7.4	淡茶灰色	無	軟質	
5	第23回国版15	銅矛	1号溝	2.7	1.9	1.45	8.0	黄褐色	有 赤褐色	軟質	
6	第23回国版15	銅矛	1号溝	1.95	1.5	1.35	2.9	淡灰色～黄灰色	無	やや軟質	
7	第23回国版15	銅矛	1号土坑	2.3	2.3	1.9	8.5	黄白色～茶褐色	無	軟質	
8	第23回国版15	銅矛	1号溝	2.85	2.1	1.9	12.0	黄灰色	無	軟質	
9	第23回国版15	銅矛	1号溝	3.9	2.25	1.9	15.4	黄灰色	無	やや軟質	
10	第23回国版15	銅矛	1号土坑	3.35	2.4	1.9	17.6	黄褐色～橙褐色	有 暗緑色	やや軟質	
11	第23回国版15	銅矛	1号溝	3.15	3.5	2.55	19.8	淡灰色～黄灰色	無	やや硬化	溝口部
12	第23回国版15	銅矛	P62	2.6	3.55	3.2	19.0	灰褐色	無	やや軟質	溝口部
13	第23回国版15	小銅錘	1号溝	5.9	3.35	2.15	29.4	橙灰色	無	軟質	錘部は1/2 残存?

青銅器の細かい仕上げに使用されたのであろうか。

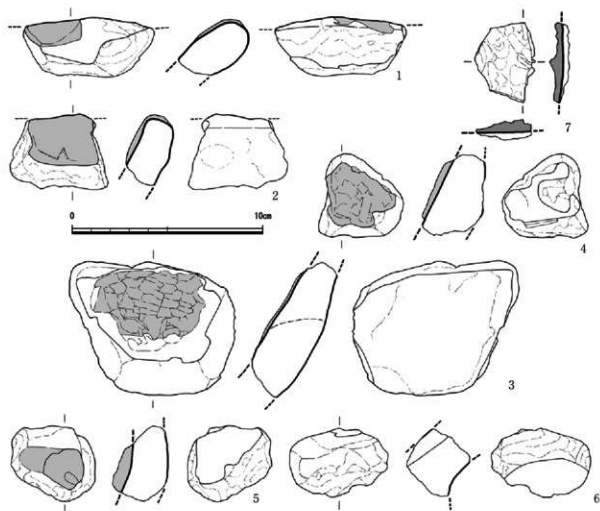
#### (5) 鉄器 (図版17-(3)、第26図)

1はP 66から出土した小ぶりの刀子。2片は接合しないが出土状況から同一個体である。1-1は最大長4.48cm、最大幅0.82cm、最大厚0.2cm。1-2は最大長2.79cm、最大幅0.68cm、最大厚0.2cm。下方に向かって、幅と厚みを減じる。

2はP 65から出土した鑄造鉄斧の再加工品で、側面を利用したものか。鑄造鉄斧袋部にある2条の突帯が残存し、片刃の刃部を作り出す。

#### (6) 玉類 (図版17-(2)、第27図)

1は1号溝から出土した緑灰色の石製の管玉で、緑色凝灰岩製か。最大長0.84cm、最大幅0.4cm、最大厚0.38cm、孔径0.15cm。外面は面取りが施されるため、横断面形は十角形を呈する。2はP 30から出土した青緑色のガラス管玉。最大長0.87cm、最大幅0.5cm、最大厚0.4cm、孔径0.2cm。



第24図 埴埴/取瓶実測図 (1/2)

※アマミかけは真土

表5 1次調査出土埴埴/取瓶観察表

番号	埴埴 図版	出土位置	調整・色調・付着物等		胎土	焼成	備考
			外面	内面			
1	第24図 図版16	1号溝	調整はナデか、色調は淡褐色～黒褐色	調整は不明、色調は淡褐色～黒褐色、真土あり	粗砂粒を多く含む、スサあり	良好	口縁部
2	第24図 図版16	1号土坑	調整は真土のため不明、色調は明灰色	調整は真土のため不明、色調は明灰色	砂粒を含む	良好	口縁部
3	第24図 図版16	1号溝	調整はナデか、色調は黒褐色～黄褐色	調整は不明、色調は黄褐色、白灰色～灰色の真土あり、比熱によるヒビ	粗砂粒を多く含む	良好	
4	第24図 図版16	1号溝	調整はナデ、色調は淡褐色	調整は真土のため不明、色調は黄灰色	砂粒を多く含む	良好	
5	第24図 図版16	1号溝	調整はナデ、色調は赤褐色	調整は真土のため不明、色調は黄褐色	粗砂粒を多く含む	良好	口縁部直下？ 6と同一？
6	第24図 図版16	1号溝	調整は不明、色調は赤褐色	調整は不明、色調は淡赤褐色～黄褐色	粗砂粒を含む	良好	野台部直上？ 5と同一？
7	第24図 図版16	1号土坑	剥離のため不明	調整は不明、赤褐色～黄褐色	砂粒を含む	良好	内面に青銅が付着

(7) 木製品 (図版17-(4)・18-(1)、第28図)

今回、1号土坑から出土した3点の木製品<sup>(4)</sup>を報告するが、調査時の写真や図面を確認すると他

にも木製品と考えられる個体がある。調査から時間が経っており、保管場所を見つけないことができなかった。これらの資料については、明らかになれば後日報告したい。

1は壁材である木舞の可能性が考えられる直線的な木製品で、杉製。最大長2033cm、幅0.9～2.8cm、厚さ2.8cm。下方は細くなり曲がるが、出土時は直線的であった。表面は面取りされるため、横断面形は多角形状。

2は背負子の杵の下部と考えられる資料で、爪がある。最大長29.6cm、最大幅14.9cm、厚さ1.5～3.2cm。全体的に削りで加工し、下端部の外側は丸く仕上げる。上部部が短く尖るのは、再加工をして別のものに転用しようとした結果か。材質は不明。

3は火鑽白で、3箇所に表面が炭化する火鑽孔が確認でき、孔は裏面まで貫通する。最大長4.4cm、最大幅2.1cm、最大厚1.4cm、火鑽孔径は1.0～1.15cmで、本来の形状は、長いと考えられるが復元できない。木材は不明。

(8) 石器 (図版18-(2)～20、第29～33図、表6)

打製石器16点、磨製石器14点、砥石12点、その他2点を報告する。法量や出土地点については一覧表を参照していただきたい。

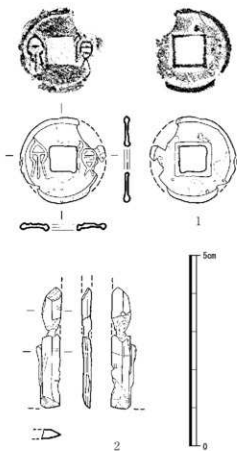
1～16は打製石器。1～12は石鏃。1は先端と脚を欠くが、長脚になろう。2は裏面の剥離がやや雑な資料。

3は下半を欠くが、細身の鏃身を持つ資料。細かい剥離が施される。

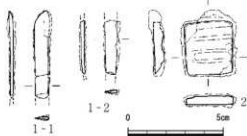
4・5は平面形が五角形に近いもの。4は表裏ともに剥離が雑なもので、裏面は主要剥離面を残す。5は先端が突出するため石鏃の可能性も考えたが厚みや挟りから石鏃とした。6～9は脚部の挟りが浅い資料。10～12は平面形が丸みを帯びる石鏃で、脚部の挟りは小さい。特に、11・12

は三角形に近い形状を呈する小型品。

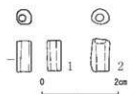
13は小型の石槍か。周縁からの剥離により成形されており、厚みがあるため横断面形は菱形を呈する。14は台形棒石器で、右側縁と下部を欠損する。左側縁には主要剥離面からの剥離が施される。15は上方が尖る桃実形を呈するスクレイパー。表面は左側に比べ、右側の剥離が大きく粗雑な印象がある。裏面は周縁部には剥離を施すが、中央部は主要剥離面を残す。16は打面を有す石核で、表



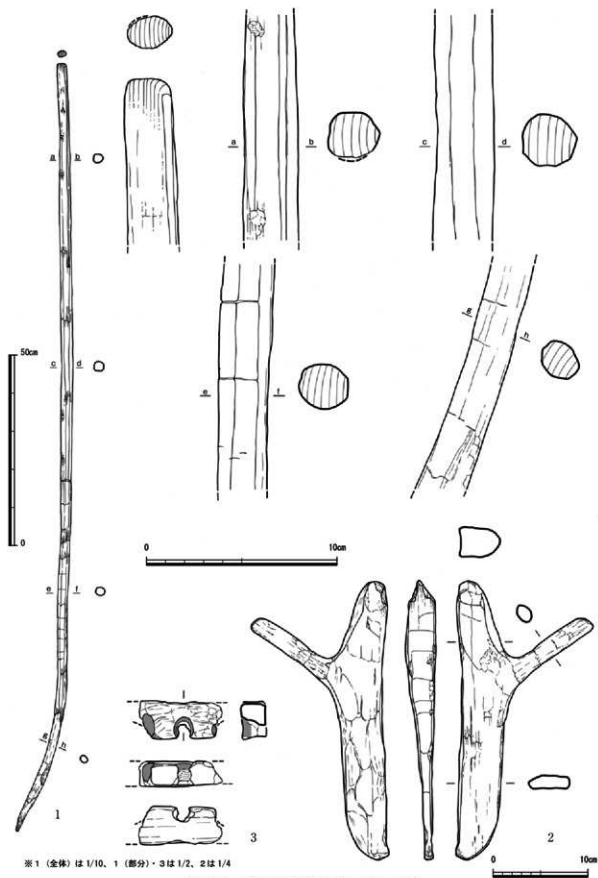
第25図 青銅器実測図(1/1)



第26図 鉄器実測図(1/2)



第27図 玉類実測図(1/1)



※1 (全体) は 1/10、1 (部分)・3は 1/2、2は 1/4

第 28 図 木製品実測図 (1/2・1/4・1/10)

面の下部には自然面を残す。裏面には主要剥離面が残る。

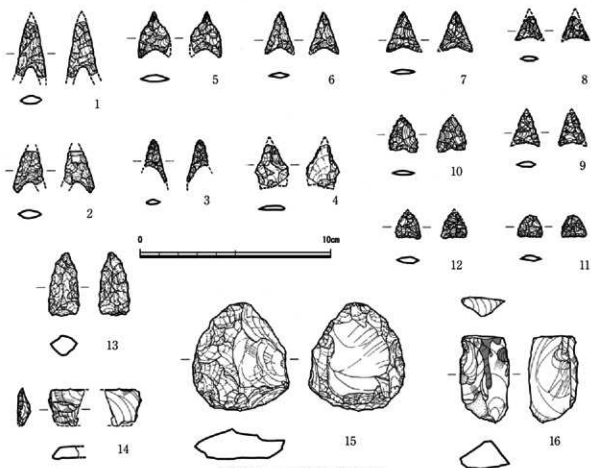
17～30は磨製石器。17は柳葉形磨製石鏃で、丁寧な研ぎを施す。18は下辺に調整痕があることから、扁平な磨製石鏃と考えた。鋒は丸みを帯びるために磨滅している可能性がある。

19～21は石剣。19は扁平な石剣の鋒部で、鑄はない。石材にもよるのか磨滅しており丸みを帯びる。20は剣身の破片資料で、表裏には鑄を有する。このため横断面形は菱形。21は大形品の鋒下部で、両面に鑄がある。厚みがあり、断面は菱形。

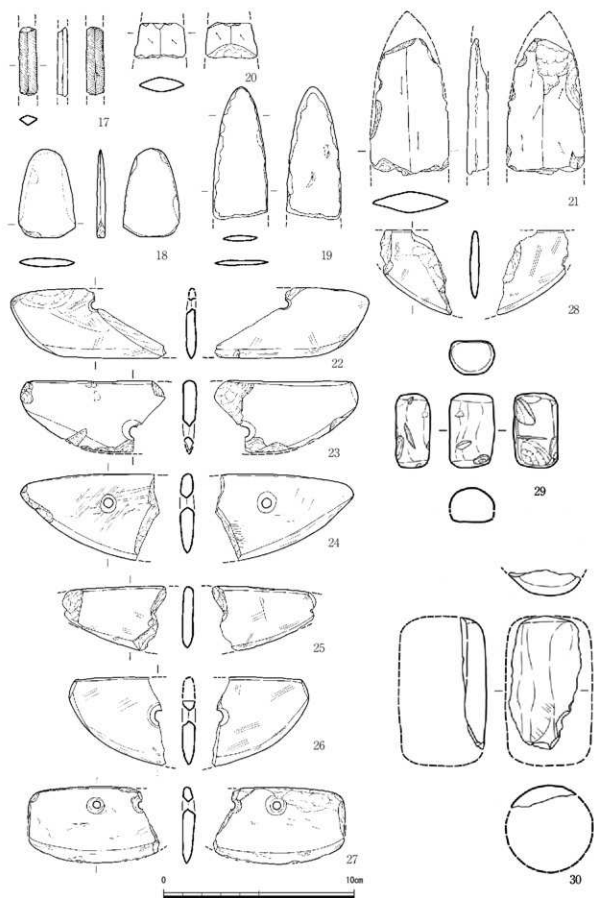
22～28は石庖丁。何れも破片資料であるが、背部と刃部の間隔が短く扁平なものや、刃が直線的なもの、孔と刃部の間隔が狭いものが多いことから、使い込まれ研ぎ直しが行われたことが分かる。27は平面形が半月状ではなく、長方形に近い資料。

29・30は槌と考えられる資料<sup>(5)</sup>。29はほぼ完形品で、横断面形は薄錐形を呈する。石材は淡赤褐色の滑石系の石。30は大形の槌の破片資料。石材は緑灰色の滑石系の石。円柱状に復元すれば、復元径は4.6 cm程度になる。

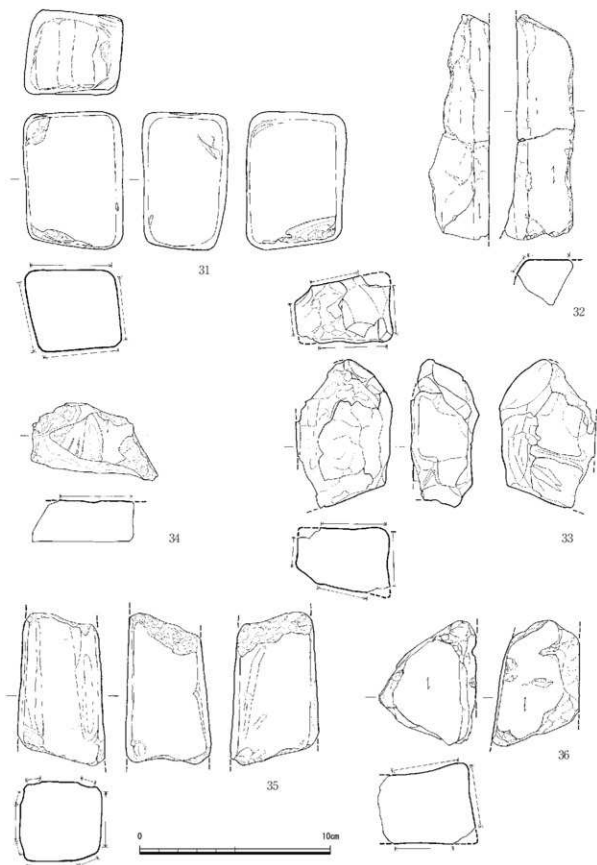
31～42は砥石。31は固い印象を受ける石材で完形品。6面すべてを砥石として使用する。上面には金属による痕跡か、平行する線が見られる。32は下半部が欠損する資料で、手持ち砥石か。33はほぼ完形品で、全面を砥石として使用するが、石材がもろいために剥落し欠損部がある。裏面には、



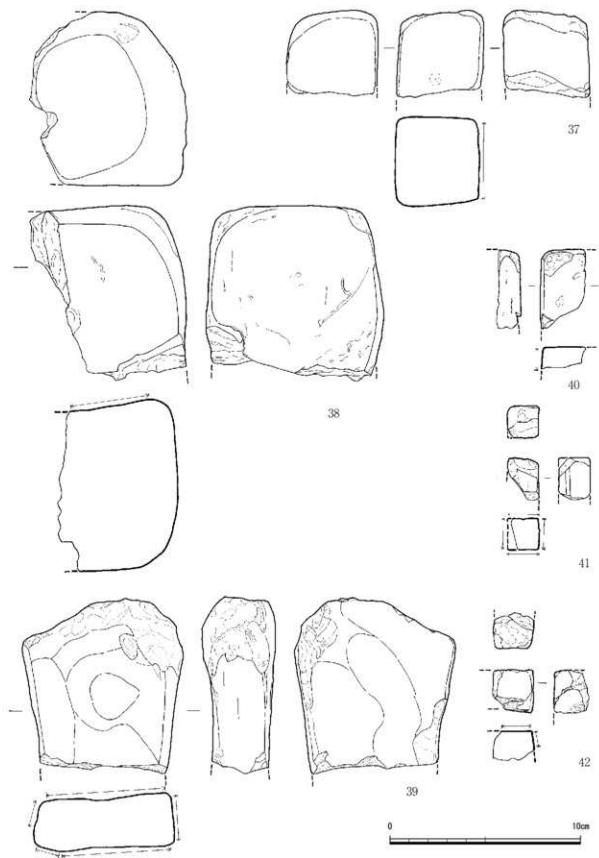
第29図 石器実測図① (1/2)



第30图 石器実測図② (1/2)

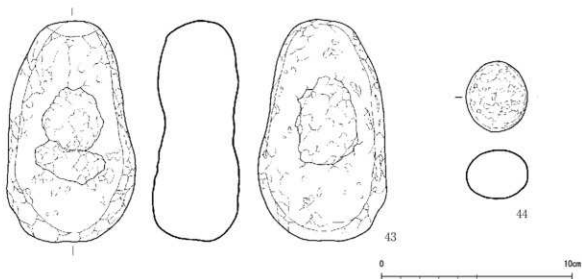


第31图 石器实测图③ (1/2)



第32图 石器类测图④ (1/2)





第33図 石器実測図⑤ (1/2)

溝状の研ぎ跡がある。34は1面のみに使用が確認できる資料。浅い溝状の窪みや、刻線状の金属による痕跡がある。35は4面を砥石として使用する。上面と左側面の両側縁側は玉などを研いだのであろうか、溝状の研ぎ跡が確認できる。36は3面を使用するもの。37は3面を使用するが、下半部を欠損すると思われる資料。38は花崗岩製のために固い。表面は窪むために、砥石として利用されたことが分かるが、上面や右側面も僅かながら使用された可能性がある。39は4面を使用する砥石で下部は欠損する可能性がある。表面は丸く窪む。40は表面、上面、左側面が残存する資料で、これらの面は砥石として使用される。41は四角柱状に復元できる小型の砥石。3面を使用する。42も小型品で、2面を砥石として使用する。

43はくぼみ石で、表面、裏面ともに窪みが確認できる。44は扁球状を呈する礫で、小型の磨石の可能性を考えた。

#### 註

- (1) 中型の横断面形について下記の報告書で検討を行った結果、断面形は、丸から凸レンズ状へと変遷することが分かった。これは、製品である細形銅矛から広形銅矛への袋部の断面形態と概ね一致する。  
井上義也 2012「V考察 1 青銅器生産関連遺物」『須玖岡本遺跡5-坂本地区5・6次調査の報告及び考察-』春日市文化財調査報告書第66集 春日市教育委員会
- (2) 中型の湯口部端面の窪みについては、上記文献で検討したことがある。
- (3) 青銅器については武末純一氏（福岡大学）、村松洋介氏（佐賀県立名護屋城博物館）から貴重な御意見をいただいた。
- (4) 木製品の器種や樹種については、山口譲治氏（福岡市経済観光文化局）、小林義彦氏（福岡市経済観光文化局）から御教示をいただいた。
- (5) 権については武末純一氏（福岡大学）から御教示をいただいた。

表6 1次調査出土石器観察表

番号	発掘 層位	種別	出土位置	測定				石材	残存
				長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)		
1	第29層 ⅡB18	石鏃	溝1	2.9	1.6	0.5	1.9	安山岩	一部欠損
2	第29層 ⅡB18	石鏃	P40	2.2	1.6	0.5	1.4	安山岩	一部欠損
3	第29層 ⅡB18	石鏃	溝1	2.3	1.2	0.3	0.4	黒曜石	脚部欠損
4	第29層 ⅡB18	石鏃	土坑1	2.3	1.75	0.25	1.5	安山岩	一部欠損
5	第29層 ⅡB19	石鏃	溝1	2.45	1.65	0.4	1.0	黒曜石	一部欠損
6	第29層 ⅡB18	石鏃	土坑1	2.25	1.55	0.3	0.6	安山岩	完形
7	第29層 ⅡB18	石鏃	遺構検出時	2.1	1.7	0.25	0.6	黒曜石	一部欠損
8	第29層 ⅡB18	石鏃	溝1	1.25	1.45	0.25	0.6	黒曜石	一部欠損
9	第29層 ⅡB18	石鏃	土坑1	1.8	1.4	0.3	0.6	黒曜石	一部欠損
10	第29層 ⅡB18	石鏃	土坑1	1.9	1.6	0.25	0.7	黒曜石	一部欠損
11	第29層 ⅡB18	石鏃	溝1	1.2	1.3	0.3	0.4	黒曜石	完形
12	第29層 ⅡB18	石鏃	土坑1	1.45	1.35	0.35	0.6	黒曜石	一部欠損
13	第29層 ⅡB18	石槍?	土坑1	3.3	1.65	1.1	6.1	安山岩	完形
14	第29層 ⅡB18	台形鏃石器	P27	2.0	1.95	1.65	2.4	黒曜石	一部欠損
15	第29層 ⅡB18	石器	溝1	5.7	5.1	1.6	55.2	安山岩	完形
16	第29層 ⅡB18	石核	P96	4.6	2.6	1.5	17.2	黒曜石	完形
17	第30層 ⅡB19	石鏃	溝1	3.6	9.5	0.55	2.8	泥岩	一部欠損
18	第30層 ⅡB19	磨製石剣	土坑1	4.7	3.0	0.5	9.8	砂岩	一部欠損
19	第30層 ⅡB19	磨製石剣	P65	7.0	2.9	0.35	9.0	砂岩	欠損
20	第30層 ⅡB19	磨製石剣	土坑1	1.9	2.2	0.8	5.2	泥岩	欠損
21	第30層 ⅡB19	磨製石剣	土坑1	7.2	4.1	1.15	43.3	鮫紋岩	欠損
22	第30層 ⅡB19	石包丁	溝1	8.2	3.75	0.7	19.2	泥岩	1/2程度
23	第30層 ⅡB19	石包丁	土坑1	7.7	3.8	0.8	28.9	砂岩	2/3程度
24	第30層 ⅡB19	石包丁	土坑1	7.3	4.55	0.75	34.6	凝灰岩	2/3程度
25	第30層 ⅡB19	石包丁	溝1	5.5	3.3	0.6	17.8	凝灰岩	1/3程度
26	第30層 ⅡB19	石包丁	溝1	5.1	4.7	0.7	23.0	凝灰岩	1/3程度
27	第30層 ⅡB19	石包丁	溝1	4.1	6.9	0.7	35.8	カクセン石片岩	2/3程度
28	第30層 ⅡB19	石包丁	溝1	3.8	4.5	0.5	8.7	凝灰岩	1/4程度
29	第30層 ⅡB19	石核	土坑1	3.9	2.4	1.8	35.2	滑石	一部欠損
30	第30層 ⅡB19	石核	溝1	7.9	4.6	4.6	37.8	滑石	1/4程度
31	第31層 ⅡB20	砥石	溝1	7.3	5.3	4.4	342.8	アブライト	完形
32	第31層 ⅡB20	砥石	溝1	11.9	3.6	2.4	125.7	泥岩	欠損
33	第31層 ⅡB20	砥石	土坑1	7.8	5.0	3.6	148.7	砂岩	一部欠損
34	第31層 ⅡB20	砥石	溝1	4.05	6.75	2.2	67.5	砂岩	一部欠損
35	第31層 ⅡB20	砥石	溝1	8.1	4.65	4.25	254.9	砂岩	欠損
36	第31層 ⅡB20	砥石	溝1	6.6	5.1	3.6~4	148.9	砂岩	欠損
37	第32層 ⅡB20	砥石	溝1	4.6	4.6	4.9	16.73	砂岩	欠損
38	第32層 ⅡB20	砥石	土坑1	9.3	8.3	9.1	943.8	花崗岩	欠損
39	第32層 ⅡB20	砥石	P74	9.3	8.5	3.1	388.5	砂岩	欠損
40	第32層 ⅡB20	砥石	溝1	4.2	2.4	1.1	13.2	砂岩	欠損
41	第32層 ⅡB20	砥石	溝1	2.35	1.7	1.7	7.3	砂岩	一部欠損
42	第32層 ⅡB20	砥石	溝1	2.3	2.2	1.6	12.1	砂岩	欠損
43	第33層 ⅡB20	くほみ石	P41	11.7	6.8	3.7~4.6	632.1	花崗岩	完形
44	第33層 ⅡB20	磨石?	表土	3.7	3.3	2.6	46.5	火山岩	完形

## IV 4次調査の内容

### 1 調査の概要

1次調査の西に接する。調査区の北部は小学校のグラウンドとして整備され、南部は植栽のためグラウンドよりも数十cm高くなっている。客土など20～90cm程度除去すると褐色粘質土を基本とする地山を検出し、黒褐色系の土で埋まった遺構を検出した。1次で見られた側溝が調査区の中央から南部に確認でき、1次調査同様、植樹や工事のためと考えられる攪乱がある。

発掘調査の結果、溝4条とピットを検出した。1号溝とそれに重複する2号溝は、1次調査でも確認している。また4号溝も1号溝と重複するが、気づくのが遅れたために殆ど検出できなかった。1号溝は完掘していない。床面は緩やかに西に下がり、ところどころに段を持つ。特に、西隅では床面に木器などが残るため、1次調査の1号土坑と同様の性格を持つかもしれない。また、調査区壁面B-B'では北側から土砂が流入するのが観察できる。人為的に埋めたのか、土壘があったことを示すものであろう。3号溝は他の遺構と重複する可能性があるが、一部しか掘っていないために詳細は分からない。ピットは全体的に少なく、1つだけ柱痕を確認することができたが、削平された掘立柱建物の柱穴の1つかどうかは分からない。

1号溝を中心に弥生時代中・後期の土器や石器とともに青銅器鋳型や銅矛中型が出土する。青銅器鋳型は古い型式のもので、輸送風管は残存度が高く特筆される。

### 2 遺構

#### (1) 溝

##### 1号溝 (図版21～24、第34～36図)

1号溝は、調査区中央部やや南よりに24m程度を検出した。東西方向に延びる溝で、1次調査1号溝と同一である。開発内容が遺構に与える影響が少なかったために、2/3程度しか調査していない。東部と南西部は現代の排水溝により破壊されており、2・4号溝も1号溝の中を並走する。幅は4.5～5.2mだが、南側の上端は、重複する4号溝の上端の可能性もある。平面形でも南壁には幅0.8m程度のテラスが見られるが、これが4号溝の可能性もある。検出面からの深さは40～90cmで、床面は、所々に窪みを持ちながら、西に向かい緩やかな傾斜を持ち、西隅で20cm程度下がり段をなす。ここからは、木器や木片が大量に出土した。なお、土層B-B'では、北側からブロック混じりの埋土が流入することが分かるため、人為的に埋められた可能性がある。東隅部は、1次調査の結果から張出状になると思われ、痕跡もある。ただし、2号溝(4号溝?)や攪乱などによって破壊されているこ

とや未掘であることから、詳細は不明。

出土遺物は、多くの弥生土器と共に、石器、青銅器鋳型、青銅器中型、埴埴／取瓶、輸送風管等が出土する。

#### 2号溝（第34図）

2号溝は、1次調査2号溝と同一で、1号溝と重複する。東西方向に15.2m程度を確認した。遺構検出時には平面で認識できず、1号溝と同時に下げてしまった。このため、1号溝をある程度下げた段階で検出した。幅は1.8m前後と考えられるが、上述したように不確かである。深さは35cm前後であろう。

出土遺物は、多くの弥生土器、土師器、須恵器、陶質土器が出るが、弥生土器は1号溝に帰属するものであろう。

#### 3号溝（第34図）

3号溝は、調査区南部で18m検出し、やや弧を描く。一部を除き平面での確認のみにとどめたため、東部で幅が広がる部分があるが、他の遺構と重複する可能性がある。ここを除けば、幅は1.0～1.9m程度、深さは35cm前後であろう。

図化できる遺物は出土していないが、中世の溝の可能性はある。

#### 4号溝（第34図）

調査区南西部にある。2号溝と同様、1号溝と重複するために、当溝の存在に気付くのが遅れてしまい1.6m程しか調査できなかった。また、南壁は現代の排水溝に切られるため、幅は明らかではない。深さは15cm程度。

図化できる遺物は出土していないが、中世の溝の可能性はある。

## (2) ビット

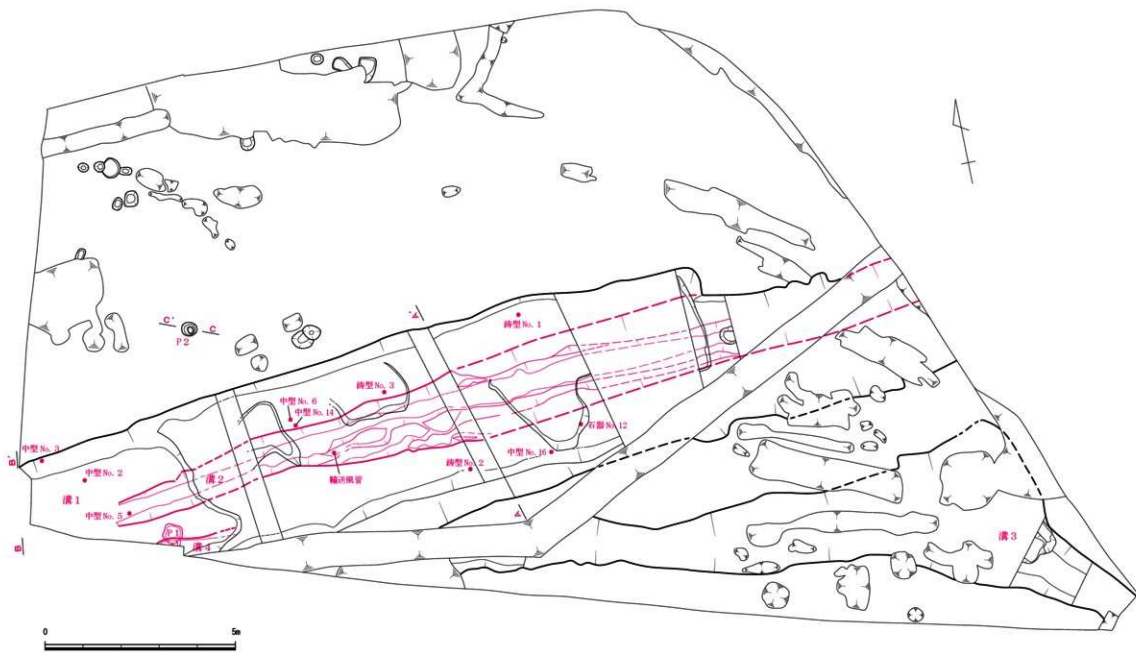
ビットは、1次同様に調査区北部を中心にあり、数えるほどしかない。P2は柱痕が検出されるため、建物の柱穴の可能性はあるが、深さ20cmのため少なくとも数十cmは削平を受ける。南側には唯一P1があるが、古墳時代の土師器が出土する。弥生時代の1号溝が大きく削平を受けている可能性があるため、P1が残存することは1号溝の削平は古墳時代に行われたと推測できる。

## 3 遺物

### (1) 土器（図版26～32-（1）、第37～45図、表7）

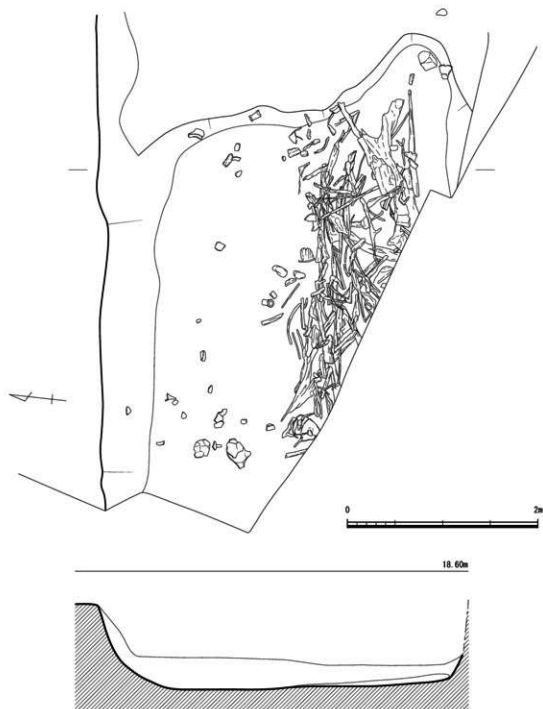
#### 1号溝出土土器（1～192）

1～37は壺。1は袋状口縁をなす壺の口縁部であるが、複合口縁に近い形状を呈する。頸部は短



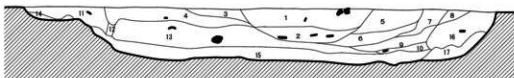
第 34 図 須玖坂本B遺跡4次調査遺構配置図 (1/100)



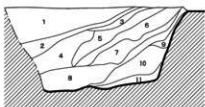


第 35 図 1号溝木製品等出土状態実測図 (1/40)

く締まらない。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯を付す。2は扁球形の体部に直立気味の短い口縁部が付く資料で、底部は凸レンズ状をなす。口縁部の端部はやや欠損するが、丸みを持つと考えた。3・4は直口壺で、頸部と肩部の境には断面が三角形の突帯を付す。倒卵形の体部が復元できる。5は直立気味に外反する壺の口縁部。端部は肥厚し、外側へ摘み出す。6は口縁部から肩部まで残存する資料。口縁部は鋤先口縁で、外側やや垂下する。頸部と肩部の境に1条の突帯を付すが、稜は鈍い。



- 1 灰白色砂礫土 (白色砂礫土を多く含む)
- 2 灰白色砂礫土 (1と同質、底部にかけて白色細砂礫、及び底部には黒褐色の砂礫、上面を多く含む)
- 3 褐色砂土 (白色の砂礫を若干含む)
- 4 灰褐色土 (白色砂礫及び、H～15層に見られる粘質土を若干含む)
- 5 灰褐色砂土 (3層と同等、白色の砂礫、衛生土層片を多く含む)
- 6 硬褐色土 (やや粘性あり、衛生土層片を若干含む)
- 7 褐色土 (白色砂礫を若干含む)
- 8 褐色土 (やや粘性あり、黄褐色の塊山ブロックを若干含む)
- 9 褐色粘質砂土
- 10 褐色粘質粘質砂土 (塊山由来の暗褐色土ブロック、衛生土層片を多く含む)
- 11 灰褐色砂土 (白色砂礫・黄褐色の塊山ブロック含む)
- 12 暗褐色粘質土 (粘質による凝り込み)
- 13 暗褐色粘質土 (黄褐色ブロックを若干含む、中央にかけて単色で粘質強くなる)
- 14 暗褐色土 (塊山ブロックを若干含む)
- 15 暗褐色粘質土 (13と同質、黄褐色の塊山ブロック・土層片や中含む) 粘質強い
- 16 暗褐色粘質砂土 (塊山由来の暗褐色ブロック・暗褐色ブロック含む)
- 17 黄褐色土 (粘質あり・かなり早い段階での埋積であるため、ほぼ塊山に同じ日、やや粗い)



- 1 褐色粘質土
- 2 黒褐色土 (暗褐色粘質土ブロック、白色礫を若干含む)
- 3 灰褐色砂土 (白色砂礫を若干含む)
- 4 褐色粘質土 (やや粘性あり、黒褐色土・黄褐色砂土ブロックを含む)
- 5 褐色粘質粘質砂土 (黄褐色土ブロック・黄褐色ブロック・灰褐色砂・白色礫を含む)
- 6 黒褐色土 (やや粘性あり、暗褐色土ブロックを若干含む)
- 7 褐色粘質土 (黒褐色土ブロック・暗褐色シルトブロックを若干含む)
- 8 暗褐色土 (粘質あり、暗褐色の粘質土ブロックを多く含む)
- 9 黄褐色土 (粘性強し、10層と同質であるが黒褐色を多く含む)
- 10 暗褐色粘質土 (塊山由来の暗褐色土を若干含む)
- 11 褐色粘質粘質砂土 (塊山由来の暗褐色土を若干含む)



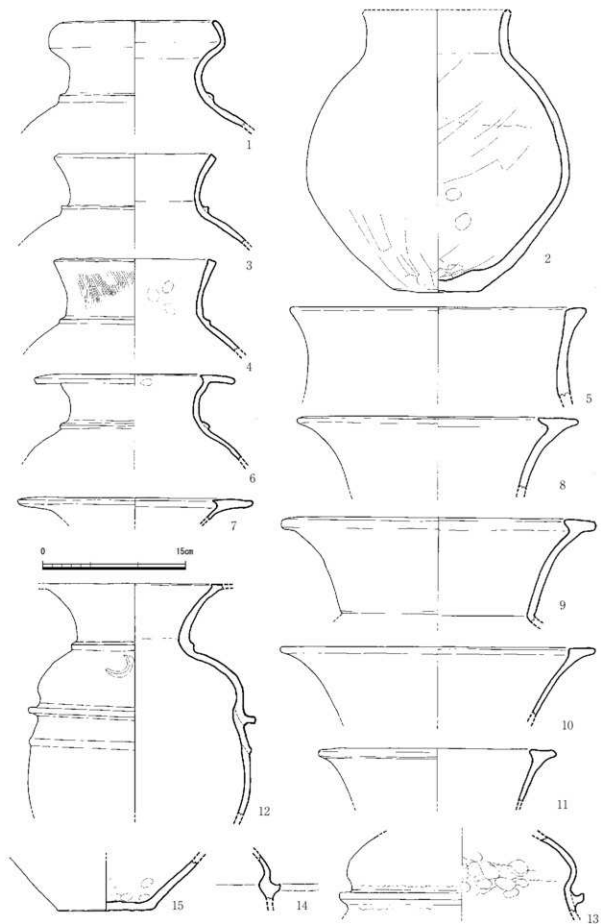
- 1 暗褐色土 (柱状、やや粘性あり)
- 2 黄褐色土 (やや粘性あり)
- 3 黄褐色土 (黄褐色フロックを若干含む)
- 4 黄褐色土 (1層と同質)
- 5 暗褐色土 (やや粘性あり)
- 6 黄褐色土 (白色の礫を若干含む、黒色ブロックを若干含む)
- 7 黄褐色土 (1・2層とはほぼ同質であるがやや粘性あり)
- 8 黄褐色土 (白色の礫を若干含む)



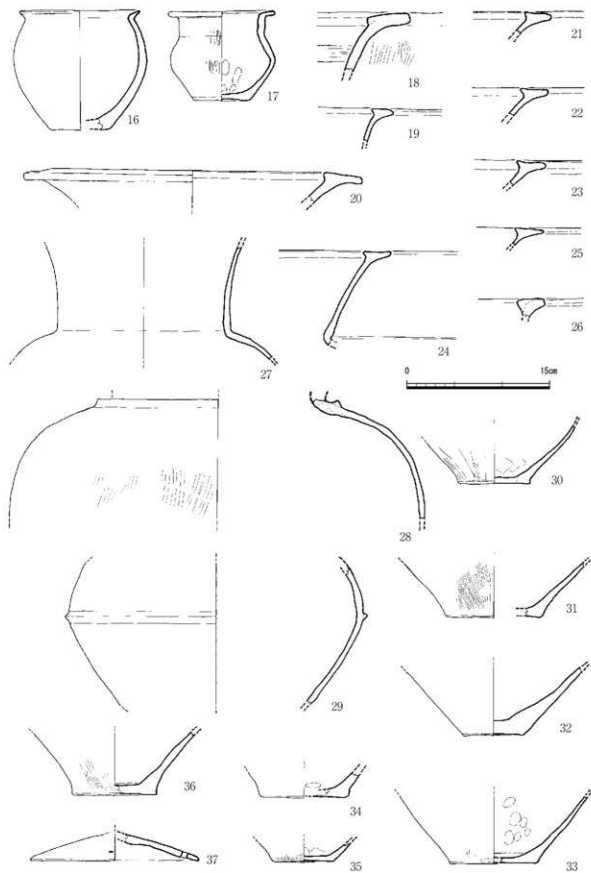
第36図 1号溝断面土層実測図 (1/40)

瓢形土器の可能性がある。7は鋤先口縁の破片資料で、上面は水平に近い。8・9も口縁部が鋤先状を呈する壺。8は上面をやや外傾させ、内側の突出度が高い。9は上面が外傾し、内口縁、外口縁ともに丸みをもつもの。10は上面がほぼ水平で、内側には殆ど突出しない口縁部。11は上面に窪みを持ち、内口縁、外口縁ともに丸みを持つ資料。12～14は瓢形土器。12は外口縁端部を欠く上半部の資料。頸部と肩部の境には断面三角形の突帯、肩部下には鈎状の突帯、その下にはシャープさに欠ける断面台形の突帯を付す。肩部に鈎状の浮文が確認できる。13・14は鈎状突帯の周辺部。両者ともに上辺を揃み上げる。15は接合しないが、12の底部の可能性が高い資料で、平底。16・17は小型品。16は体部から口縁部が短く屈曲する無形壺で最大径は体部の上位にある。17はほぼ完形品。体部から頸部が直立し、逆「L」字の口縁部にいたる。底部はやや上底。18～26は口縁部。18は上面に粘土帯を貼り付け、肥厚させた資料。やや粗い印象がある。19は内口縁も外口縁もさほど発達しない





第 37 图 1 号溝出土土器実測図① (1/4)



第38图 1号清出土土器实测图② (1/4)

もの。20は外側へやや垂下する口縁部。内側をやや尖らせる。21～24は内口縁をシャープに仕上げ、上面を窪ませる資料。24は頭部の残存度が良く、直下には肩部が接続する。25は内口縁、外口縁ともに厚みがなく、やや鋭い印象をもつもの。26は内外にさほど突出せず、丸みを持つ資料。

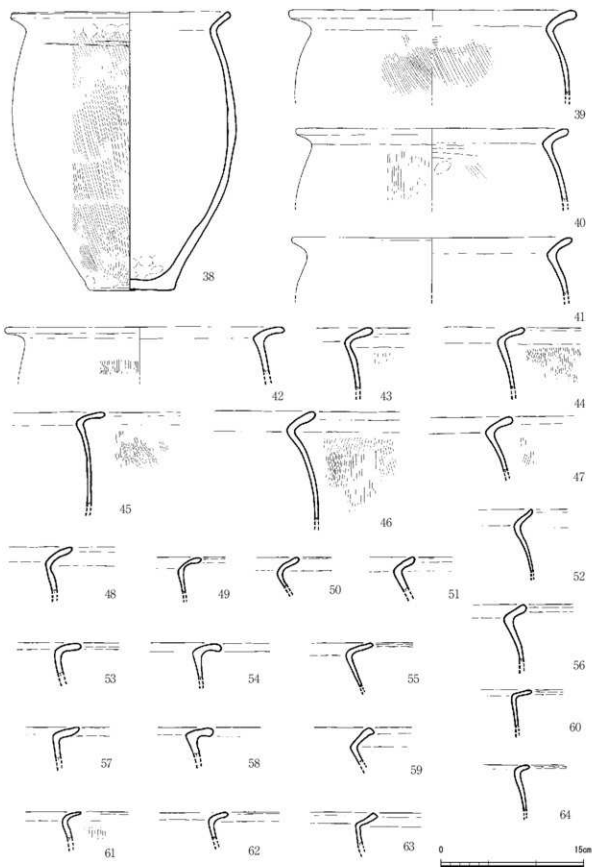
27は頭部から肩部が残存する資料。28は肩部で、丸みを持つ。頭部の接合が外れた痕跡があり、その下には断面三角形の突帯が確認できる。29は体部。最大径に断面三角形の突帯を付す。30～36は平底か、上底気味の底部。32はやや厚みがあり、底部が小さいため不安定な感がある。37は無形壺の蓋。円孔が確認できる。

38～169は甕。38は半分程が残存し、口縁部～底部までを復元した資料。口縁部は断面形が「く」字状をなし、胴部最大径はやや上位にあり口径よりもやや大きい。底部は平底。頭部下に沈線上の線刻が2条ある。39～128口縁部片。39～64は断面形が「く」字状を呈するか、それに近い口縁部。上面は丸みを帯びるものが多いが、43・44・50・51・55・56・59・60のように直線的なもの、52・63のように内湾し端部を摘み上げるものがある。65～73は口縁下に突帯を持つ資料で、やや大ぶりの感じがする。65は口縁部が短く上面の丸みが強い資料。胴部最大径は口径よりも大きいと考えられる。66は断面形が逆「L」状のもの。67は上面が内傾し、外端部に面を持つ資料。68～70は上面が匙面状をなす口縁部。68は内口縁を僅かに突出させる。69はシャープさに欠ける。70は口縁部の厚みが薄く、内口縁が突出するもの。71は内口縁が鋭く突出し、外口縁が僅かに垂下し、刻目を施す資料。口縁下には口唇状の突帯を持ち、口縁部と突帯の間には波状の暗文を施す。72は上面が水平な資料。73は上面が外傾し、外口縁の厚みが薄い資料。74～118は断面形が逆「L」状の口縁部が主体を占める。74～77は上面が外傾し、外口縁が下がる資料。77は内外の突出度が比較的高い。78～80は外口縁がやや伸びるもので、端部は丸く仕上げる。81～89は上面がほぼ水平な資料。85～87・89は内側を突出させる。88は端部が肥厚し、中央に強いナデを施す。90～115は上面が内傾する資料で、90・95・96・107・114・115はやや窪む。90・105・106・113は口縁下に断面三角形の突帯を1条、107は2条付す。外口縁の端部は丸みを持つものが多いが、101はやや尖る。116～118は上面が丸みを持つ口縁部片。

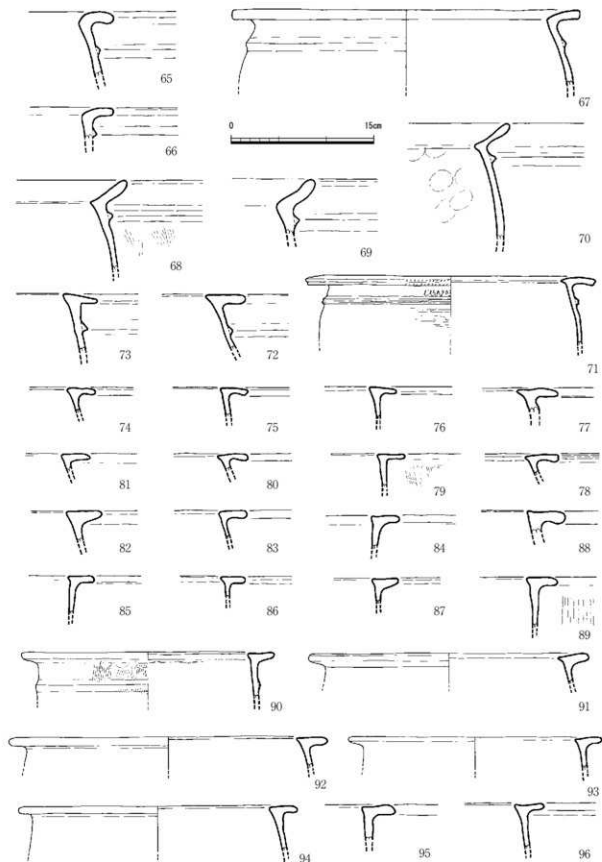
119～129は大甕。128までが口縁部で、123を除き胴部が丸みを持つタイプであろう。119・120は断面形が「く」字に近く、119は口縁下に断面三角形の突帯を付す。121～128は外口縁に比べ内口縁の突出度が高い資料で、内口縁の端部は、121～123・125が丸みを帯び、124は面を持ち、126～128は尖り気味である。129は胴部片。断面台形で突出度の高い突帯が2条巡る。

130～169は底部。一部は壺の底部かもしれない。130～136は凸レンズ状、または凸レンズ気味の底部を持つ資料。130は、器壁の厚みが一定でない。131・132は小型品。137～145・154～158は平底で、139～141・155は厚みがある。146～153はやや上底を呈する資料。159・160は底端部の内側を窪ませるもの。161～169は底部の器壁に厚みがあり、上底を呈する資料。163・164・169は特に厚い。

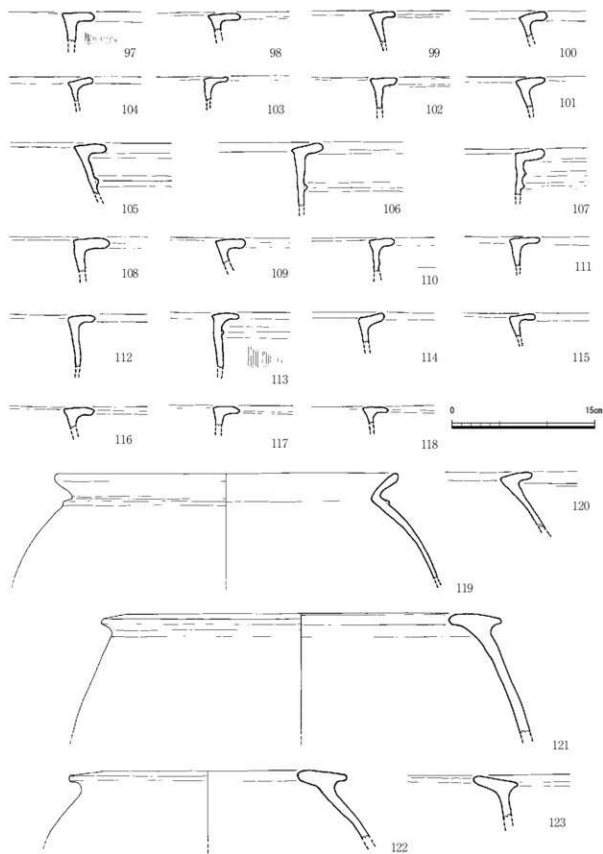
170・171は甕の蓋。170は上面が窪み、器壁が厚いもの。171は上面をツマミ状に成形する資料で、



第39图 1号清出土土器实测图③ (1/4)



第40图 1号清出土土器实测图④ (1/4)

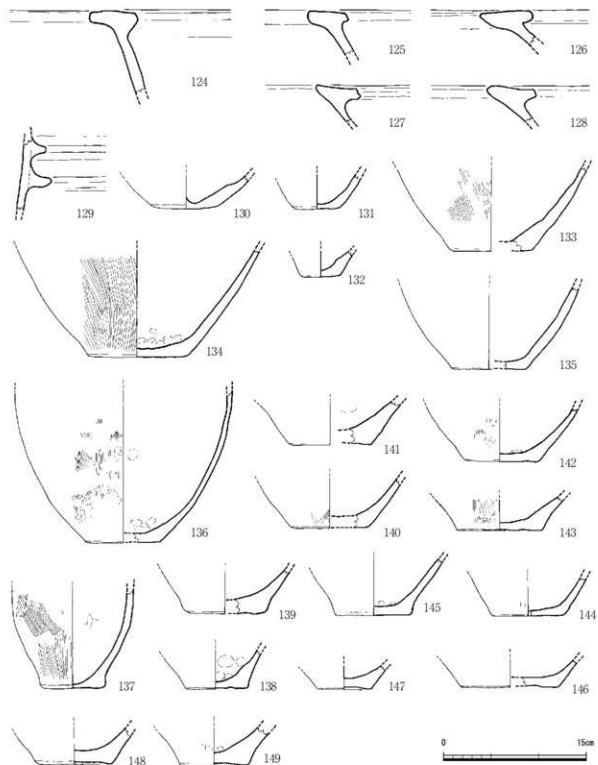


第41图 1号清出土土器实测图⑤ (1/4)

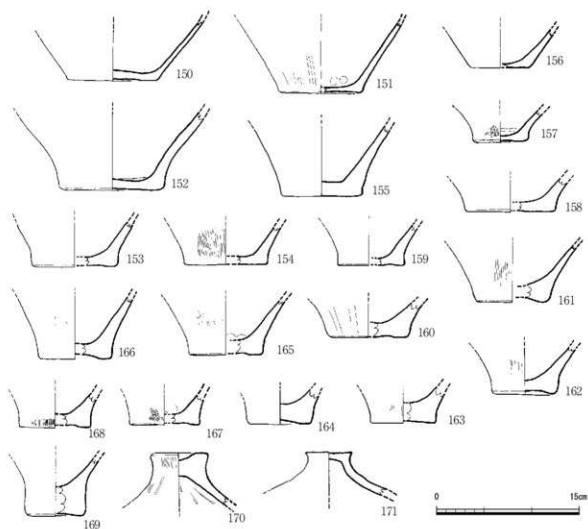
器壁は薄い。

172・173は鉢。172は最大径が胴部の中位にあり、そこからやや内傾して口縁部にいたる資料。口縁端部は尖り気味。173は口径に比して器高が低いもの。

174～185は高坏。174～180は口縁部。174は内外の端部が小さく突出し上面が窪む。175は上面



第42図 1号溝出土土器実測図⑥ (1/4)



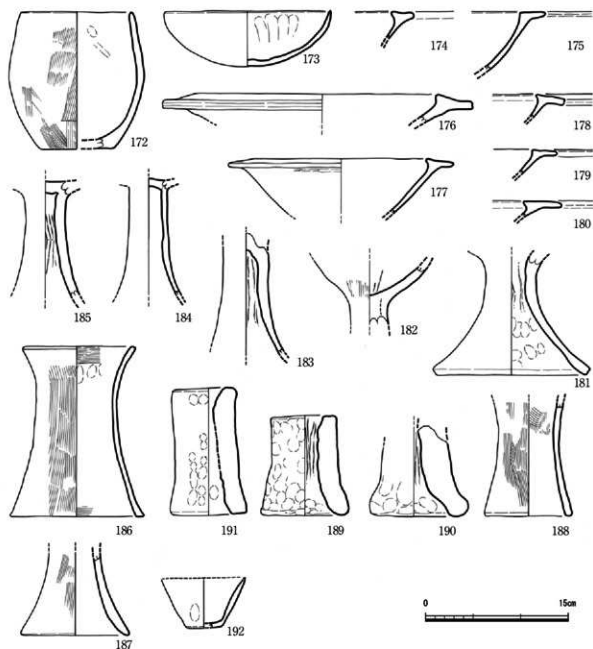
第43図 1号溝出土土器実測図⑦ (1/4)

がほぼ水平で、外側のみ突出する資料。176は上面が窪み、外傾する。外端部には面を持つ。177は口径に比して坏部がやや深い資料。178は内口縁がやや突出し、外口縁が下がり、端部に面を持つ資料。179は外口縁がやや外傾し端部に丸みを持つもの。180は内口縁を突出させ、外口縁をやや長く成形し端部に丸みを持つ資料。181～185は脚部。181は脚部の全形を復元できる資料。短い脚柱部に「ハ」字に広がる裾部が付く。端部はやや面を持つ。182は坏部から脚部にかけての資料で、確認できる範囲の脚柱部は中実。183～185は脚柱部。183・185は内面にシボリ痕がある。

186～191は器台。186～188は鼓形の器台で、器壁が薄く、外面の調整はハケメを主体とする。186はくびれ部が中位よりもやや上にある関係に復元できる資料。187は下半部の資料。188は口縁部を欠く資料で、くびれ部は中位にあらう。189～191は器壁が厚く、調整を指押しえ主体で行うもの。189は完形品で、器高が10.6cmと短小なもの。「ハ」字に広がる裾部から直立し受部にいたる。190は脚裾部で、短く「ハ」字形に広がる。調整は粗雑な印象を受ける。191は完形品で、受部と脚裾部の形に差があまりないため、筒状をなす。内面は受部、脚裾部ともに外側にやや広がる。

192は鉢形の手握土器。底部は凸レンズ状である。





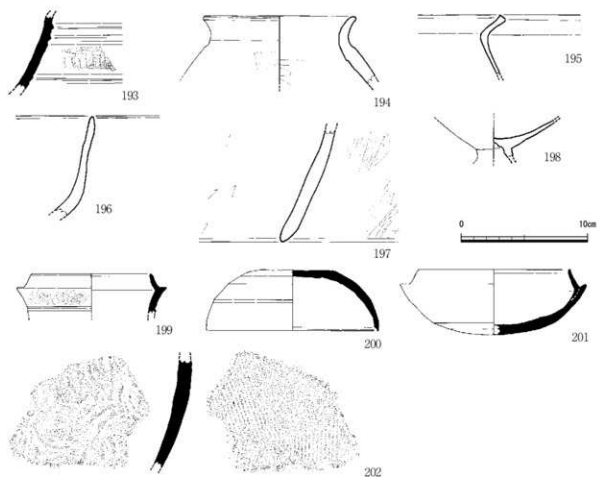
第44図 1号溝出土土器実測図⑤ (1/4)

193は2号溝などからの混入品と考えられる陶質土器の高坏形の器台。上部に2条、下部に1条の小さな突帯があり、その間には刺突文を施す。

#### 2号溝出土土器 (194～238)

194～198は土師器。194は甕の口縁部。胴部の器壁が厚く、短く外反する口縁部は端部を丸く成形する。磨減が著しいが、胴部内面は削りであろう。195は古式土師器の甕の口縁部片。傾きはやや疑問がある。196は鉢。体部は底部から外傾し、口縁部にいたる。197は瓶の底部。磨減するが内面は下から上に削りを施す。198は古式土師器の器台のくびれ部付近の資料。

199～202は須恵器。199は有蓋壺の口縁部。受部下には波状文を施す。200は坏蓋。外面に不明

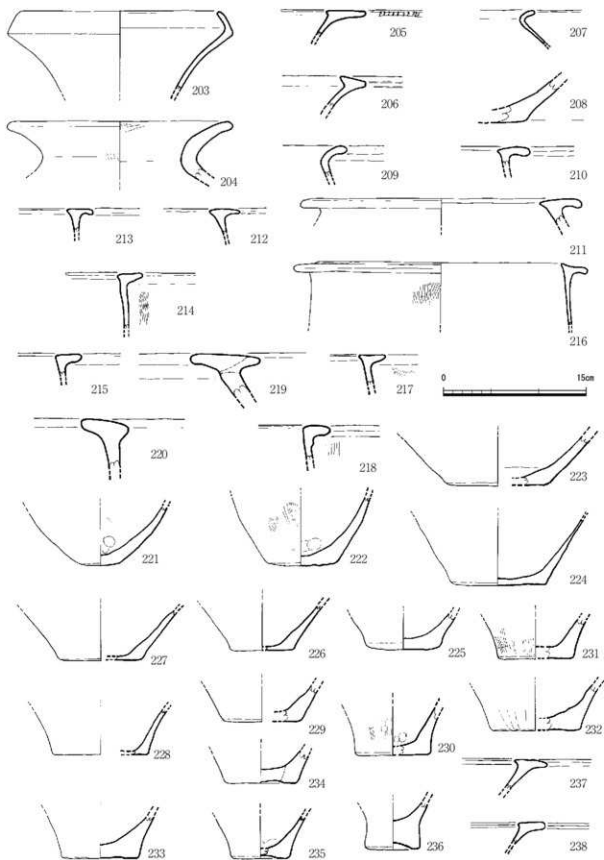


第45図 1号溝出土土器実測図⑨・2号溝出土土器実測図①(1/3)

瞭な沈線を施し、口縁部内面に段がある。201は坏身。内傾する口縁部はやや長い。体部から底部はやや丸みを帯びる。202は赤焼け須恵器の甕で、胎土に粗砂粒がやや目立つ。外面には煤が付くため煮炊きで使用されたと推測できる。胎土が粗いことなどから考えても土師器工人が須恵器を製作した可能性が考えられる。

203～238は弥生土器で、1号溝などからの混入品と考えられる。203～208は壺。203は複合口縁壺の口縁部で、屈曲部の稜は鋭い。204は広口壺の口縁部で、頸部から短く外反する。205は勳先口縁を呈する資料。上面はほぼ水平で、外端部に刻目を施す。206は上面が外傾するもの。内口縁の突出度はやや高い。207は小型の無頸壺であろう。208は壺の底部。凸レンズ状をなす。

209～218は甕の口縁部。209は断面が「く」字に近い資料。端部は丸みを持つ。210・211は内口縁が尖り、外口縁はやや発達し端部が丸いもの。212も内口縁が尖る資料で、外口縁も尖る。213は上面が水平で、外口縁が垂下するもの。214・215は上面が内傾する資料。外口縁の断面形は三角形に近い。216は内口縁が鋭く突出し、上面が外傾し端部に面を持つもの。217は上面が水平で断面が三角形に近い口縁部。218は上面や外端部が丸みを持つ資料。



第46图 2号溝出土土器実測图② (1/4)

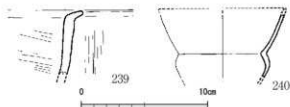
219・220は大型の甕。219は内口縁、外口縁が突出し、端部を丸く成形する。上面はやや外傾する。220は突出する内口縁の端部が面を持ち、外口縁は断面台形状に張り出す。

221～236は底部。221～225は凸レンズ状を呈するもの。221・222・225はやや厚みがある。221は底部が小さいため、丸底に近い。226～231は平底で、229～231は底部の器壁がやや厚い。232～234は底部部の内側が窪むもの。235・236は上底で、236の底部の器壁は非常に厚い。

237・238は鋤先口縁部の高坏。237は上面が外傾し、端部は尖り気味。238は上面が水平な資料。

#### P 1 出土土器 (239・240)

239は弥生土器の鉢。口縁部はやや外傾する胴部の上端を外に揃み出し成形する。屈曲部はやや不明瞭で、端部は丸く仕上げる。240は古式土師器の小型丸底甕。口縁端部と底部を欠くが、口径は明らかに体径径よりも大きい。口縁部は内湾しながら広がる。

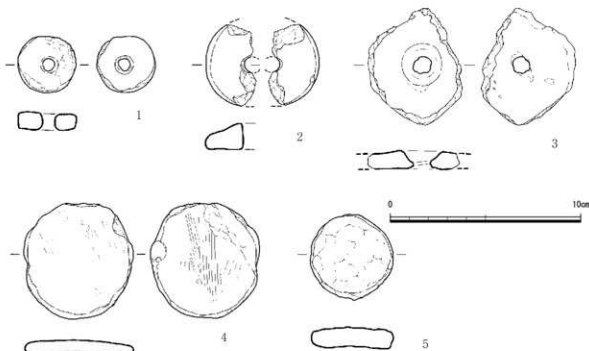


第47図 ビット出土土器実測図 (1/3)

#### (2) 土製品 (図版32-(2)、第48図、表8)

1・3～5は1号溝、2は2号溝から出土した。

1は小形の紡錘車の完形品。円盤形を呈し、孔径0.6cm。外面の調整はナデ。2も紡錘車で、1/2以上を欠損するが、截頭円錐形で孔径は0.8cm程度。外面はナデ調整。3は周縁部を欠損する紡錘車



第48図 土製品実測図 (1/2)

表7 4次調査出土土器観察表

( )は復元前

番号	埋国 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部・胴部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
1	第37国 図版26	甕	1号溝 中層	①188	③底径164	口縁部 ほぼ完存	調整は不明。 胎土は細砂をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
2	第37国 図版26	甕	1号溝 下層	③9.6④(27.8)		全体の1/3	調整は外面ナズ、工具痕ナズ。内面工具痕ナズ。 胎土は細砂・微細な雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色～黒色。内面淡灰褐色～黒褐色。	
3	第37国 図版26	甕	1号溝 下層	①(18.2)	⑤突帯部径(15.6)	口縁部 一部部1/3	調整は外面コナダ。内面不明。 胎土は細砂・微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～赤褐色。内面褐色。	
4	第37国 図版26	甕	1号溝 中層	①(17.2)	⑤突帯部径(16.0)	口縁部 一部部3/4	調整は外面コナダ。ハケ目。内面コナダ・微細砂。 胎土は細砂を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色。内面淡褐色～淡灰褐色。	
5	第37国 図版26	甕	1号溝 下層	③(31.6)		口縁部1/5	調整は内外面ともにナズ。 胎土は細砂を多く、雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗り
6	第37国 図版26	甕	1号溝 中層	①(21.2)	⑤突帯部径(15.8)	口縁部2/3	調整は不明。 胎土は細砂・微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗り
7	第37国 図版26	甕	1号溝 中層	①(25.0)		口縁部1/3	調整は外面ナズ。内面コナダ。ナズ。 胎土は細砂を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～灰褐色。内面褐色。	丹塗り
8	第37国 図版26	甕	1号溝 上層	①(30.0)		口縁部1/4	調整は不明。 胎土は細砂を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
9	第37国 図版26	甕	1号溝 中層	①(33.6)		口縁部 一部部3/4	調整は不明。 胎土は微砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰褐色。	
10	第37国 図版26	甕	1号溝 中層	①(33.6)		口縁部1/4	調整は内外面ともにコナダ。 胎土は細砂・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
11	第37国 図版26	甕	1号溝 中層	①(25.4)		口縁部1/5	調整は外面ナズ。内面不明。 胎土は細砂をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～明灰褐色。内面黒褐色～黒灰色。	
12	第37国 図版26	甕形土器	1号溝 中層	⑤突帯部径24.0		胴部2/3	調整は外面コナダ。内面コナダ。ナズ。 胎土は細砂をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～灰褐色。内面黒褐色。	
13	第37国 図版26	甕形土器	1号溝 中層	⑤突帯部径(25.9)		胴部1/5	調整は外面不明。内面ナズ。微細砂。 胎土は細砂・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡褐色。	
14	第37国 図版26	甕形土器	1号溝 中層			胴部片	調整は外面ナズ。内面不明。 胎土は細砂を少量、雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面ともに淡褐色。内面淡褐色。	丹塗り
15	第37国 図版26	甕形土器?	1号溝 最下層	③10.2		底部完存	調整は外面不明。内面ナズ。微細砂。 胎土は細砂をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～灰褐色。内面淡褐色。	
16	第38国 図版26	甕	1号溝 上層	①(12.8)②12.6 ③(6.6)		口縁部 一部部1/4	調整は内外面ともにナズ。 胎土は細砂・赤色粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～暗灰色。内面淡褐色。	
17	第38国 図版26	甕	1号溝 中層	①(11.2)③5.8④11.0		口縁部 一部部完存	調整は外面ナズ。ハケ目。内面ナズ。微細砂。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
18	第38国 図版26	甕	1号溝 下層	—		口縁部片	調整は外面ナズ。ハケ目。内面ナズ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明系灰褐色。	
19	第38国 図版26	甕	1号溝 上層	—		口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明灰褐色～暗灰色。内面暗灰色。	
20	第38国 図版26	甕	1号溝 上層	①(36.1)		口縁部1/8	調整は不明。 胎土は細砂・赤色粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
21	第38国 図版26	甕	1号溝 中層	—		口縁部片	調整は外面ナズ。内面コナダ。ナズ。 胎土は細砂・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
22	第38国 図版26	甕	1号溝 下層	—		口縁部1/8	調整は内外面ともにコナダ。 胎土は細砂を少量、微細な雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～淡灰褐色。	
23	第38国 図版26	甕	1号溝 下層	—		口縁部片	調整は内外面ともにナズ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
24	第38国 図版26	甕	1号溝 中層	—		口縁部1/5	調整は不明。 胎土は細砂・赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	

番号	韓国図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤胴部・胴部径	残存状態	調整及び特徴	備考
25	第38回国版	壺	1号溝 最下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにナデ。 粘土は砂粒、雲母を少量含む。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹塗り
26	第38回国版	壺	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにヨコナデ。 粘土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
27	第38回国版26	壺	1号溝 中層	胴部径 (27.1)	—	胴部1/3	調整は不明。 粘土は砂粒、赤色粒、微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
28	第38回国版26	壺	1号溝 中層	—	—	胴部～ 胴部1/4	調整は外面ヨコナデ、ナデ、ハケ目。内面不明。 粘土は砂粒をやや多く含む。焼成はやや不貞。 色調は外面淡褐色～灰色。内面褐色～黒褐色。	
29	第38回国版	壺	1号溝 中層	突部部径 (32.1)	—	胴部1/4	調整は外面ハケ目、ナデ、ナデ。内面不明。 粘土は細砂粒、赤色粒、微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに明茶褐色。	
30	第38回国版27	壺	1号溝 中層	③ 7.7	—	底部完存	調整は外面ハケ目、内面ナデ、ナデ。 粘土は細砂粒、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
31	第38回国版27	壺	1号溝 中層	③ (10.2)	—	底部1/4	調整は外面ハケ目、ナデ。内面不明。 粘土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～灰色。内面淡褐色。	
32	第38回国版27	壺	1号溝 下層	③ 6.6	—	底部完存	調整は内外面ともにナデ。 粘土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
33	第38回国版27	壺	1号溝 中層	③ (9.4)	—	底部1/3	調整は外面ハケ目、ナデ。内面微調整。 粘土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～褐色。	
34	第38回国版	壺	1号溝 上層	③ (9.2)	—	底部1/3	調整は外面不明。内面ナデ、微調整。 粘土は砂粒をやや多く含む。焼成はやや不貞。 色調は内外面ともに淡褐色。	
35	第38回国版	壺	1号溝 中層	③ (6.5)	—	底部3/4	調整は外面ハケ目、ナデ、内面ナデ、微調整。 粘土は砂粒、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面淡褐色～淡褐色。	
36	第38回国版27	壺	1号溝 中層	③ (9.0)	—	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 粘土は粗砂粒をやや多く、赤色粒、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面微褐色。内面褐色。	
37	第38回国版27	壺	1号溝 中層	① (17.9)	—	口縁部1/5	調整は外面ヨコナデ、ハケ目、内面微調整。 粘土は砂粒、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡褐色。	丹塗り 穿孔あり
38	第39回国版27	甕	1号溝 最下層	① (23.3) ② 29.7 ③ 9.2 ④ 23.7	—	全体の1/2	調整は外面ヨコナデ、ハケ目。内面微調整。 粘土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡褐色。	
39	第39回国版27	甕	1号溝 中層	① (30.7)	—	口縁部1/5	調整は内外面ともにヨコナデ、ハケ目。 粘土は粗砂粒、細砂粒をやや多く、微細な雲母、角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～褐色。内面淡褐色。	
40	第39回国版27	甕	1号溝 下層	① (29.0)	—	口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目、ナデ。口縁部ヨコナデ。 粘土は砂粒、微細な雲母、角閃石をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
41	第39回国版27	甕	1号溝 中層	① (30.0)	—	口縁部1/4	調整は不明。 粘土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
42	第39回国版27	甕	1号溝 中層	① (29.8)	—	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ、ナデ、ハケ目。内面ヨコナデ。 粘土は砂粒をやや多く、赤色粒、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～褐色。内面褐色。	
43	第39回国版27	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は外面ナデ、ハケ目。内面不明。 粘土は砂粒、微細な雲母を多く含む。赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
44	第39回国版27	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ、ハケ目。内面ナデ。 粘土は粗砂粒、赤色粒、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不貞。 色調は内外面ともに褐色。	
45	第39回国版27	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は外面ナデ、ハケ目。内面不明。 粘土は砂粒を少量含む。焼成はやや不貞。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～淡褐色。	
46	第39回国版27	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/6	調整は外面ヨコナデ、ハケ目。内面不明。 粘土は砂粒、微細な雲母をやや多く、赤色粒を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～淡褐色。	
47	第39回国版27	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は外面ヨコナデ、ハケ目、内面不明。 粘土は粗砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～淡褐色。	
48	第39回国版27	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部1/5	調整は不明。 粘土は砂粒、赤色粒を少量含む。焼成はやや不貞。 色調は内外面ともに淡褐色。	
49	第39回国版	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は不明。 粘土は砂粒、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	

番号	挿入国版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部部・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
50	第39国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
51	第39国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
52	第39国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、細砂粒を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面とも淡褐色～暗褐色。	
53	第39国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
54	第39国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面褐色。	
55	第39国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
56	第39国 図版27	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部 1/6	調整は不明。 胎土は砂粒、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
57	第39国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
58	第39国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を少量、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色、内面明褐色。	
59	第39国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
60	第39国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともヨコナテ。 胎土は砂粒、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
61	第39国	甕	1号溝 最下層	—	—	口縁部片	調整は外面ナテ、ハケ目、内面ナテ。 胎土は砂粒、赤色粒、微細な赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
62	第39国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ヨコナテ、ナテ。 胎土は砂粒をやや多く、赤粒、黒石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面とも暗褐色～褐色。	
63	第39国 図版28	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナテ、ナテ、内面不明。 胎土は細砂粒、赤色粒、微細な赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面褐色。	
64	第39国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
65	第40国 図版28	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部 1/6	調整は外面ヨコナテ、ナテ、内面不明。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色。	
66	第40国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は外面ナテ、ヨコナテ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
67	第40国 図版28	甕	1号溝 下層	① (37.0) 突帯部径 (34.1)	—	口縁部 1/5	調整は内外面ともヨコナテ。 胎土は砂粒、赤色粒、微細な赤粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面とも淡褐色。	
68	第40国 図版28	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナテ、ハケ目、内面ヨコナテ、ナテ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒、微細な赤粒を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
69	第40国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は外面不明、内面ナテ。 胎土は砂粒、赤色粒、赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色。	
70	第40国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面ヨコナテ、ナテ。 胎土は砂粒、微細な赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面とも淡褐色～淡褐色。	
71	第40国 図版28	甕	1号溝 中層	① (31.0)	—	口縁部 1/4	調整は外面ハケ目、横文、ミヤキ、ヨコナテ、内面ヨコナテ、ナテ。 胎土は砂粒、赤色粒、微細な赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～赤褐色、内面褐色。	丹波力
72	第40国 図版28	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部 1/8	調整は外面ヨコナテ、内面ナテ。 胎土は砂粒を多く、微細な赤粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～淡褐色、内面暗褐色。	
73	第40国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は外面ヨコナテ、ナテ、内面ナテ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色、内面淡褐色。	
74	第40国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部 1/8	調整は内外面ともヨコナテ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な赤粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面褐色～暗褐色、内面暗褐色。	

番号	挿入国版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤唇部径・裾径	残存 状態	調査及び特徴	備考
75	第40国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調査は内外面ともにヨコナテ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～褐色、内面淡褐色～淡赤褐色。	
76	第40国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部1/5	調査は外面ナテ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色～茶褐色、内面明茶褐色～淡褐色。	
77	第40国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調査は内外面ともにナテ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
78	第40国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調査は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	丹波弓
79	第40国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調査は外面ヨコナテ・ハケ目、内面ヨコナテ・ナテ。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
80	第40国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部1/5	調査は内外面ともにヨコナテ。 胎土は赤色粒をやや多く、砂粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰褐色。	
81	第40国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調査は外面ヨコナテ、内面不明。 胎土は赤色粒をやや多く、砂粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
82	第40国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調査は不明。 胎土は赤色粒・赤色粒・角閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡灰褐色、内面淡褐色。	
83	第40国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調査は外面ヨコナテ・ナテ、内面ヨコナテ。 胎土は細砂粒を含む。 焼成は良好。 色調は外面茶褐色、内面明茶褐色。	
84	第40国	甕	1号溝 最下層	—	—	口縁部片	調査は外面不明、内面ナテ。 胎土は細砂粒・砂粒・赤色粒を少量、微細な雲母をやや多く含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡灰褐色。	
85	第40国	甕	1号溝 最下層	—	—	口縁部1/8	調査は内外面ともにナテ。 胎土は細砂粒をやや多く、砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡灰褐色。	
86	第40国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調査は内外面ともにナテ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
87	第40国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調査は内外面ともにヨコナテ。 胎土は砂粒・雲母・角閃石を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
88	第40国	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/6	調査は内外面ともにヨコナテ。 胎土は細砂粒・赤色粒を多く、砂粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡赤褐色。	
89	第40国 国版28	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部1/5	調査は外面ナテ、ハケ目、内面不明。 胎土は細砂粒を多く、微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面茶褐色～茶褐色、内面淡茶褐色。	
90	第40国 国版28	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/5	調査は外面ヨコナテ・ハケ目、内面はヨコナテ・ナテ。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～淡灰褐色。	
91	第40国 国版28	甕	1号溝 上層	① (29.8)	—	口縁部1/8	調査は外面ナテ、内面不明。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗灰色～褐色、内面灰色。	
92	第40国 国版28	甕	1号溝 中層	① (33.8)	—	口縁部1/4	調査は外面ヨコナテ、内面ナテ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
93	第40国 国版28	甕	1号溝 中層	① (27.0)	—	口縁部1/8	調査は不明。 胎土は砂粒をやや多く、雲母を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
94	第40国	甕	1号溝 中層	① (29.8)	—	口縁部1/5	調査は内外面ともにヨコナテ・ナテ。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡灰褐色。	
95	第40国 国版28	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部1/8	調査は外面ナテ、内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面暗茶褐色、内面淡茶褐色。	
96	第40国	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部1/8	調査は外面不明、内面ヨコナテ・ナテ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡赤褐色。	
97	第41国	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調査は外面ヨコナテ・ハケ目、内面ヨコナテ・ナテ。 胎土は砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
98	第41国	甕	1号溝 最下層	—	—	口縁部片	調査は外面ヨコナテ・ナテ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
99	第41国 国版28	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部1/8	調査は外面ナテ、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	



番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
100	第41図	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は内外面ともにコナナ。 胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面暗灰褐色～淡褐色。内面淡褐色白～淡褐色。	
101	第41図	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色～暗灰色。内面灰褐色。	
102	第41図	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにコナナ。 胎土は砂粒をやや多く含む。赤色粒を少量含む。 焼成は不良。 色調は外面暗褐色～褐色。内面暗褐色。	
103	第41図	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色。内面淡褐色。	
104	第41図	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色。内面淡褐色～褐色。	
105	第41図 図版28	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/5	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。赤色粒を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
106	第41図 図版28	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/5	調整は内外面ともにコナナ。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
107	第41図	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/6	調整は内面コナナ。内面コナナ。 胎土は砂粒をやや多く含む。微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
108	第41図 図版28	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は外面コナナ。内面不明。 胎土は細砂粒を多く含む。赤色粒を少量含む。 色調は外面暗褐色。内面黒褐色。	
109	第41図	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ。内面不明。 胎土は砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～淡灰色。	
110	第41図	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部1/8	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色～淡褐色。	
111	第41図	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ。内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色。内面灰褐色。	
112	第41図	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
113	第41図	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ。小片目。内面ナナ。 胎土は細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
114	第41図	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は外面コナナ。内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く含む。微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
115	第41図	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ。内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母を含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～灰色。内面赤色。	
116	第41図	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに灰褐色。	
117	第41図	甕	1号溝 最下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにコナナ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
118	第41図	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は外面コナナ。ナナ。内面ナナ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに白褐色。	
119	第41図 図版28	甕	1号溝 中層	① (36.4) 突帯部径 (34.5)	—	口縁部1/4	調整は不明。 胎土は砂粒をやや多く含む。微細な雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～淡褐色。	
120	第41図 図版28	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部1/6	調整は外面ナナ。内面不明。 胎土は細砂粒・赤色粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
121	第41図 図版28	甕	1号溝 中層	① (42.4) 突帯部径 (34.5)	—	口縁部1/6	調整は外面コナナ。内面不明。 胎土は細砂粒をやや多く含む。赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は外面淡褐色～淡褐色～淡灰色。内面淡褐色。	
122	第41図 図版29	甕	1号溝 下層	① (28.0)	—	口縁部1/5	調整は外面コナナ。ナナ。内面ナナ。 胎土は砂粒をやや多く含む。赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗灰褐色～褐色。内面暗褐色。	
123	第41図	甕	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
124	第42図 図版29	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部1/8	調整は外面不明。内面コナナ。 胎土は細砂粒をやや多く含む。赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は外面淡褐色～淡褐色。内面淡褐色～淡褐色。	

番号	補国 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤胴部径・裾部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
125	第42回国 図版29	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は外面ナナ、内面不明。 胎土は砂粒・磁粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～灰色、内面淡灰褐色。	
126	第42回国 図版29	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにココナテ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は中々不具。 色調は外面淡褐色～淡黄褐色、内面淡黄褐色。	
127	第42回国 図版29	甕	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は外面ココナテ、内面不明。 胎土は砂粒を中々多く含む。焼成は中々不具。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
128	第42回国 図版29	甕	1号溝 下層	—	—	口縁部片	調整は内外面ともにココナテ。 胎土は砂粒を中々多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面淡黄褐色。	
129	第42回国 図版29	甕	1号溝 中層	—	—	胴部片	調整は外面ココナテ、内面不明。 胎土は砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～灰褐色、内面淡灰褐色。	
130	第42回国 図版29	底部	1号溝 下層	③(74)	—	底部3/4	調整は内外面ともにナテ。 胎土は砂粒を中々多く含む。雲母を少量含む。焼成は中々不具。 色調は外面淡褐色～褐色、内面淡褐色。	
131	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(51)	—	底部3/4	調整は不明。 胎土は磁粒を多く含む。赤色粒を少量含む。焼成は不具。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
132	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(42)	—	底部 ほぼ完存	調整は外面不明、内面ナテ。 胎土は磁粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面淡灰褐色。	
133	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(90)	—	底部1/3	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は磁粒を中々多く含む。赤色粒を少量含む。焼成は中々不具。 色調は外面淡褐色～褐色、内面淡灰褐色。	
134	第42回国 図版29	底部	1号溝 下層	③108	—	底部完存	調整は外面ハケ目・工具痕、内面ナテ・磨研痕。 胎土は砂粒を中々多く含む。磁粒・微細な雲母・角閃石を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色、内面淡灰褐色。	
135	第42回国 図版29	底部	1号溝 上層	③(80)	—	底部1/5	調整は内外面ともにナテ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面淡灰褐色。	
136	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(80)	—	底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナテ・磨研痕。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は中々不具。 色調は外面黄褐色～淡黄褐色、内面淡灰褐色。	
137	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(70)	—	底部1/2	調整は外面ハケ目・ナテ、内面ナテ・ナテ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～褐色、内面淡灰褐色。	
138	第42回国 図版29	底部	1号溝 上層	③6.1	—	底部 ほぼ完存	調整は外面不明、内面磨研痕。 胎土は砂粒・赤色粒を多く含む。焼成は中々不具。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面淡灰褐色。	
139	第42回国 図版29	底部	1号溝 上層	③(90)	—	底部1/3	調整は外面ナテ、内面不明。 胎土は磁粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～褐色、内面淡灰褐色～灰褐色。	
140	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(82)	—	底部1/5	調整は外面ハケ目、内面ナテ。 胎土は砂粒を中々多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面淡灰褐色～淡黄褐色。	
141	第42回国 図版29	底部	1号溝 下層	③(88)	—	底部1/5	調整は外面不明、内面ナテ・磨研痕。 胎土は磁粒・微細な雲母を少量含む。焼成は中々不具。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
142	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(80)	—	底部3/4	調整は外面ハケ目、内面磨研痕。 胎土は砂粒を中々多く含む。赤色粒を少量含む。焼成は中々不具。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
143	第42回国 図版29	底部	1号溝 下層	③(90)	—	底部1/2	調整は外面ハケ目帯ナテ・内面ナテ。 胎土は砂粒を中々多く含む。赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
144	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(78)	—	底部1/2	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は磁粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡黄褐色。	
145	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③8.2	—	底部完存	調整は外面不明、内面ナテ・磨研痕。 胎土は磁粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面淡灰褐色。	
146	第42回国 図版29	底部	1号溝 下層	③(106)	—	底部1/4	調整は外面不明、内面ナテ。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡黄褐色。	
147	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③5.9	—	底部完存	調整は外面不明、内面ナテ。 胎土は磁粒を少量含む。赤色粒を中々多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色～褐色、内面淡黄褐色。	
148	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(84)	—	底部3/4	調整は内外面ともにナテ。 胎土は磁粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡灰褐色、内面淡褐色。	
149	第42回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(74)	—	底部3/4	調整は外面ハケ目・ナテ、内面ナテ・磨研痕。 胎土は磁粒・赤色粒を少量含む。微細な雲母を含む。 焼成は良好。 色調は外面黄褐色、内面淡灰褐色。	丹徳寺

番号	神国 図版	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部高・胴部径	残存 状態	調整及び特徴	備考
150	第43回国 図版29	底部	1号溝 中層	③9.6		底部 ほぼ完存	調整は内外面ともにナデ。 胎土は雑砂粒を多く、赤色粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色～黒灰色、内面灰色～暗褐色。	
151	第43回国 図版29	底部	1号溝 中層	③(9.0)		底部1/2	調整は外面ハケ目、内面磨面。 胎土は雑砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色、内面淡褐色～暗褐色。	
152	第43回国 図版29	底部	1号溝 下層	③(11.0)		底部1/2	調整は内外面ともにナデ。 胎土は雑砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
153	第43回国 図版29	底部	1号溝 上層	③(9.2)		底部1/3	調整は不明。 胎土は雑砂粒を多く、赤色粒を含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色～茶色、内面白褐色。	
154	第43回国	底部	1号溝 最下層	③(8.8)		底部1/3	調整は外面ハケ目、ナデ、内面不明。 胎土は雑砂粒をやや多く、赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
155	第43回国 図版30	底部	1号溝 上層	③8.4		底部完存	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒を多く、黄閃石を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗褐色～暗褐色～褐色、内面暗灰色。	
156	第43回国 図版30	底部	1号溝 下層	③(6.4)		底部1/2	調整は不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	丹波り?
157	第43回国	底部	1号溝 中層	③5.9		底部完存	調整は外面ハケ目、ナデ、内面ナデ。 胎土は雑砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡灰色。	
158	第43回国 図版30	底部	1号溝 中層	③(9.6)		底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は雑砂粒・微細な雲母を多く、赤色粒を少量含む。焼成は不良。 色調は外面暗褐色、内面赤褐色。	
159	第43回国	底部	1号溝 上層	③(7.1)		底部1/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒を多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面赤褐色～黒灰色、内面暗褐色。	
160	第43回国	底部	1号溝 下層	③(8.4)		底部1/4	調整は外面ハケ目、ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
161	第43回国	底部	1号溝 中層	③(7.6)		底部1/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色。	
162	第43回国 図版30	底部	1号溝 中層	③(7.0)		底部3/4	調整は外面ハケ目、内面不明。 胎土は砂粒・赤閃石を含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色。	
163	第43回国	底部	1号溝 中層	③(6.8)		底部1/4	調整は外面ハケ目、ナデ、内面不明。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
164	第43回国	底部	1号溝 中層	③(6.6)		底部3/4	調整は内外面ともにナデ。 胎土は砂粒をやや多く、微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色～褐色。	
165	第43回国	底部	1号溝 下層	③(7.9)		底部1/4	調整は外面ハケ目、ナデ、内面ナデ・磨面。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面暗褐色～褐色、内面暗褐色～茶褐色。	
166	第43回国 図版30	底部	1号溝 下層	③(7.6)		底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 胎土は砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色。	
167	第43回国	底部	1号溝 中層	③(7.5)		底部1/3	調整は外面ハケ目、ナデ、内面ナデ・磨面。 胎土は雑砂粒・赤色粒・微細な雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
168	第43回国	底部	1号溝 下層	③(7.6)		底部1/3	調整は外面ハケ目、ナデ、内面ナデ。 胎土は砂粒・赤色粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面淡褐色、内面淡褐色。	
169	第43回国	底部	1号溝 上層	③(6.6)		底部1/2	調整は不明。 胎土は砂粒・微細な雲母をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡褐色～淡褐色、内面淡褐色。	
170	第43回国 図版30	蓋	1号溝 上層	フタミ部径(6.15)		フタミ部 3/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ナデ・工具磨。 胎土は雑砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに茶褐色。	
171	第43回国 図版30	蓋	1号溝 下層	フタミ部径5.0		フタミ部 完存	調整は不明。 胎土は砂粒・赤色粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
172	第44回国 図版30	鉢	1号溝 上層	①(12.0) ②14.5 ③(8.0) ④(14.4)		全体の1/2	調整は外面ハケ目・ナデ、内面ナデ・磨面。 胎土は雑砂粒をやや多く、微細な雲母・赤色粒を少量含む。 色調は内外面ともに淡褐色。	
173	第44回国 図版30	鉢	1号溝 中層	①(17.8) ②5.85		全体の1/4	調整は外面不明、内面ナデ。 胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
174	第44回国	高坏	1号溝 下層	—		口縁部1/8	調整は外面不明、内面ココナデ。 胎土は砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面暗褐色、内面淡褐色。	

番号	挿入 図取	種別	出土 位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部・裾径	残存 状態	調整及び特徴	備考
175	第44図	高坏	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡灰褐色。	丹塗り
176	第44図	高坏	1号溝 上層	① (254)	—	口縁部 1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 粘土は微細な土泥粒を少量、細砂粒を含む。焼成は良好。 色調は内外ともに茶褐色。	
177	第44図 図取30	高坏	1号溝 中層	① (240)	—	口縁部 1/8	調整は外面ナデ、内面不明。 粘土は微細な土泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに茶褐色。	丹塗り
178	第44図	高坏	1号溝 上層	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は細砂粒・微細な泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに緑褐色。	
179	第44図	高坏	1号溝 中層	—	—	口縁部片	調整は不明。 粘土は砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡緑褐色～淡灰褐色。内面淡緑褐色。	
180	第44図	高坏	1号溝 中層	—	—	口縁部 1/8	調整は外面不明、内面ヨコナデ・ナデ。 粘土は砂粒・泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色。	丹塗り
181	第44図 図取30	高坏	1号溝 中層	⑤ (168)	—	脚部 1/4	調整は外面不明、内面シボリ磨、磨擦痕。 粘土は粗砂粒を多く、微細な泥粒・角石を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面淡緑褐色。内面淡緑褐色～淡灰褐色。	
182	第44図	高坏	1号溝 下層	—	—	坏部 3/4	調整は外面不明、内面ナデ、工痕あり。 粘土は粗砂粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外ともに淡褐色。	
183	第44図 図取30	高坏	1号溝 中層	—	—	脚部 1/2	調整は外面ナデ・ナデ、内面シボリ磨。 粘土は細砂粒・赤色粒・泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに自然色～黄灰褐色。	丹塗り
184	第44図 図取30	高坏	1号溝 上層	—	—	全体の 1/2	調整は外面ナデ、内面不明。 粘土は砂粒・微細な泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに茶褐色。	
185	第44図	高坏	1号溝 上層	—	—	全体の 1/2	調整は外面不明、内面ナデ・シボリ磨。 粘土は粗砂粒・微細な泥粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は内外ともに淡褐色。	
186	第44図 図取30	器台	1号溝 下層	① 121 ② 180 ⑤ 141	—	全体の 3/4	調整は外面ナデ・ハケ目、内面ハケ目・ナデ・指擦痕。 粘土は砂粒・泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～褐色。内面灰褐色。	
187	第44図 図取30	器台	1号溝 下層	⑤ (116)	—	脚部 1/4	調整は外面ハケ目、内面ナデ。 粘土は砂粒を少量、泥粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色。	
188	第44図 図取30	器台	1号溝 下層	⑤ (94)	—	全体の 1/3	調整は外面ハケ目見ナデ、内面ハケ目・ナデ。 粘土は砂粒をやや多く、微細な泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色～淡緑褐色。	
189	第44図 図取30	器台	1号溝 中層	② 106 ⑤ 94 受部径 7.1	—	完形	調整は外面ナデ、内面ナデ・シボリ磨。 粘土は粗砂粒・微細な泥粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡緑褐色。	
190	第44図 図取31	器台	1号溝 最下層	⑤ 106	—	全体の 1/3	調整は外面不明、内面シボリ磨。 粘土は粗砂粒を多く含む。焼成は不良。 色調は外面淡灰褐色～淡褐色。内面淡褐色。	
191	第44図 図取31	器台	1号溝 最下層	① 66 ② 134 ⑤ 8.1	—	完形	調整は内外ともにナデ・指擦痕。 粘土は細砂粒・微細な泥粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色。	
192	第44図	手捏	1号溝 中層	③ (38)	—	底部 1/3	調整は内外ともにナデ。 粘土は泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外ともに淡褐色。	
193	第45図 図取31	陶質土器 器台	1号溝 上層	—	—	坏部片	調整は外面ヨコナデ・磨突、内面ヨコナデ。 粘土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色。内面灰褐色。	
194	第45図 図取31	甕	2号溝	① (122)	—	口縁部 1/4	調整は外面ハケ目・ヨコナデ、内面ヨコナデ・ハケ目スリ。 粘土は砂粒・赤色粒・泥粒を少量含む。焼成はやや不良。 色調は外面褐色～黒褐色。内面灰褐色。	スス付着
195	第45図	甕	2号溝	—	—	口縁部片	調整は内外ともにヨコナデ。 粘土は砂粒・赤色粒・泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面褐色。内面淡褐色。	
196	第45図 図取31	鉢	2号溝	—	—	口縁部片	調整は外面ナデ、内面ヨコナデ。 粘土は砂粒・赤色粒・微細な泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面灰褐色～褐色。内面灰褐色。	
197	第45図	瓶	2号溝	—	—	底部片	調整は外面ナデ、内面ハケ目、底部ヨコナデ。 粘土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。 色調は外面褐色～褐色。内面黄褐色。	
198	第45図 図取31	器台	2号溝	—	—	くびれ部 1/4	調整は不明。 粘土は砂粒・微細な泥粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面明褐色。内面淡褐色。	
199	第45図 図取31	甕	2号溝	① (110) 受部径 (122)	—	口縁部 1/5	調整は外面ヨコナデ・淡状、内面ヨコナデ。 粘土は細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄褐色～褐色。内面灰褐色。	

番号	挿入図版	種別	出土位置	法量 (cm)	①口径②器高 ③底径④胴部最大径 ⑤脚部・裾部径	残存状態	調整及び特徴	備考
200	第45回国版31	坏蓋	2号溝最下層	① (13.8) ② 4.8		全体の1/4	調整は外面回転ヘキサゴナル・ヨコナテ、内面内直。胎土は砂粒をやや多く、微砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色～黒灰色、内面灰褐色。	
201	第45回国版31	坏身	2号溝	① (15.0) ② 5.2 ③ 5.0		全体の1/3	調整は外面回転ヘキサゴナル・ヨコナテ、内面ヨコナテ。胎土は微砂粒を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
202	第45回国版	甕	2号溝	—		胴部片	調整は外面タテナリ、内面内直。胎土は微砂粒をやや多く、赤色粒を少量含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色～黒褐色、内面黄褐色。	ヌス付着?
203	第46回国版31	壺	2号溝	① (24.0)		口縁部1/6	調整は不明。胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
204	第46回国版31	壺	2号溝	① (24.1)		口縁部1/3	調整は外面ハケ目、内面ハケ目・タテナリ。胎土は砂粒を多く含む。焼成は不良。色調は内外面ともに淡褐色～淡黄褐色。	
205	第46回国版	壺	2号溝	—		口縁部片	調整は外面ハケ目、内面不明。胎土は砂粒を少量、微細な白雲母をやや多く含む。焼成は不良。色調は内外面ともに淡橙赤色。	丹塗り
206	第46回国版	壺	2号溝	—		口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ。胎土は微砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
207	第46回国版	壺	2号溝	—		口縁部片	調整は不明。胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成はやや不良。色調は内外面ともに淡褐色～淡赤色。	丹塗り
208	第46回国版31	壺	2号溝	—		底部1/4	調整は不明。胎土は微砂粒を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに暗黒灰褐色。	
209	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整はヨコナテ、内面不明。胎土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。色調は内外面ともに黄褐色。	
210	第46回国版	壺	2号溝	—		口縁部片	調整は不明。胎土は砂粒・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
211	第46回国版	甕	2号溝	① (30.0)		口縁部1/8	調整は外面ヨコナテ・ナテ、内面ナテ。胎土は砂粒をやや多く、微砂粒を少量含む。焼成はやや不良。色調は外面灰褐色、内面黄褐色。	
212	第46回国版31	甕	2号溝	—		口縁部1/8	調整は不明。胎土は砂粒・雲母を少量、微砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色、内面暗褐色。	
213	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整は不明。胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。色調は内外面ともに褐色～淡黄褐色。	
214	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整は外面ヨコナテ・ナテ後ハケ目、内面ヨコナテ。胎土は砂粒・赤色粒・雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色～暗褐色、内面灰褐色。	
215	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。胎土は微砂粒・赤色粒を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
216	第46回国版31	甕	2号溝	① (31.3)		口縁部1/4	調整は外面ヨコナテ・ハケ目、内面ヨコナテ・ナテ。胎土は微砂粒を多く、赤色粒・微細な白雲母をやや多く含む。焼成は良好。色調は外面暗褐色～黒灰色、内面黄褐色。	
217	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整は外面ヨコナテ・ハケ目、内面ヨコナテ。胎土は砂粒をやや多く含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色。	
218	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整は外面ヨコナテ・ハケ目、内面ヨコナテ。胎土は砂粒を多く、雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに黄褐色～灰褐色。	
219	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整は外面ヨコナテ、内面不明。胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。色調は内外面ともに黄褐色。	
220	第46回国版	甕	2号溝	—		口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ。胎土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡黄褐色。	
221	第46回国版31	底部	2号溝	③ (4.4)		底部3/4	調整は外面ナテ、内面ハケ目・ナテ、微砂粒。胎土は砂粒を多く含む。焼成はやや不良。色調は外面淡赤褐色～黒色、内面暗黄褐色。	
222	第46回国版31	底部	2号溝	③ (8.0)		底部1/2	調整は外面ハケ目、内面ナテ・微砂粒。胎土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。焼成はやや不良。色調は外面暗赤褐色、内面黄褐色。	
223	第46回国版31	底部	2号溝	③ (11.2)		底部1/4	調整は不明。胎土は砂粒・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。色調は外面灰褐色、内面灰褐色～暗褐色。	
224	第46回国版31	底部	2号溝	③ 10.0		底部完存	調整は不明。胎土は微砂粒をやや多く含む。焼成は不良。色調は外面暗褐色～淡褐色、内面黄褐色。	

番号	挿入国版	種別	出土位置	計測値 (cm)				残存状態	調整及び特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重量			
225	第46回国版32	底部	2号溝	③	(82)			底部1/2	調整は外面ヨコナテ・ナテ、内面不明。 粘土は砂粒をやや多く含む。焼成は不良。 色調は外面黄色～黄褐色、内面黄灰色。	
226	第46回国版	底部	2号溝	③	(68)			底部1/4	調整は内外面ともにナテ。 粘土は砂粒、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色。	
227	第46回国版	底部	2号溝	③	(88)			底部1/4	調整は不明。 粘土は砂粒、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色。	
228	第46回国版	底部	2号溝	③	(100)			底部1/5	調整は不明。 粘土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は外面黄灰色、内面暗褐色。	
229	第46回国版32	底部	2号溝	③	(86)			底部1/3	調整は不明。 粘土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は不良。 色調は内外面ともに黄色～灰黒色。	
230	第46回国版32	底部	2号溝	③	(81)			底部1/4	調整は外面ハケ目、内面ナテ・磨面。 粘土は砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面暗褐色、内面暗褐色。	
231	第46回国版	底部	2号溝	③	(82)			底部1/4	調整は外面ナテ・ハケ目、内面ナテ。 粘土は砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄色～黄褐色。	
232	第46回国版	底部	2号溝	③	(94)			底部1/4	調整は内面ナテ・磨面、内面不明。 粘土は細砂粒をやや多く、微細な白雲母を少量含む。 焼成は不良。 色調は内外面ともに淡褐色～黄褐色。	
233	第46回国版	底部	2号溝	③	(80)			底部1/4	調整は不明。 粘土は砂粒をやや多く、赤色粘・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は外面黄灰色、内面黄灰色。	
234	第46回国版	底部	2号溝	③	(76)			底部3/4	調整は内外面ともにナテ？ 粘土は細砂粒をやや多く含む。焼成はやや不良。 色調は外面黄色、内面黄褐色。	
235	第46回国版	底部	2号溝	③	(64)			底部1/3	調整は外面不明、内面ナテ？・磨面。 粘土は砂粒を多く、微細な白雲母を少量含む。 焼成はやや不良。 色調は外面赤褐色～黒灰色、内面暗褐色～黒灰色。	
236	第46回国版32	底部	2号溝	③	59			底部完存	調整は不明。 粘土は細砂粒、赤色粘・微細な雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに暗褐色。	
237	第46回国版	高坏	2号溝	—	—			口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ・ナテ？ 粘土は砂粒、赤色粘・雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
238	第46回国版	高坏	2号溝	—	—			口縁部片	調整は内外面ともにヨコナテ・ナテ。 粘土は砂粒、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに褐色。	
239	第47回国版32	鉢	P1	—	—			口縁部片	調整は内外面ともにナテ・ハケ目。 粘土は砂粒、雲母を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
240	第47回国版32	小型丸底埴	P1	—	—			胴部1/8	調整は外面ナテ・ヨコナテ、内面ナテ。 粘土は赤色粘をやや多く、砂粒・細砂粒を少量含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに黄色～黄灰色。	

表8 4次調査出土土製品観察表

番号	挿入国版	種別	出土位置	計測値 (cm, g)				残存状態	色調	調整及び特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重量				
1	第48回国版32	紡錘車	1号溝	3.0	3.1	1.0	98	完形	黄灰色	調整は外面ナテ。 粘土は0.5mm以下の白色砂粒子を やや多く含む。焼成は良好。	
2	第48回国版32	紡錘車	2号溝	4.3	2.4	0.8～ 1.4	144	欠損	黒灰色	粘土は1.5mm以下の白色砂粒子を やや含む。白磁粉をわずかに 含む。焼成は良好。	
3	第48回国版32	紡錘車	1号溝	6.2	5.0	0.95	243	欠損	黄色～黄灰色	調整は表面ナテ、裏は不明。 粘土は2.0mm以下の白色砂粒子を やや含む。焼成は不良。	
4	第48回国版32	土製円盤	1号溝	6.1	5.8	0.7	302	完形	黄灰色	調整はハケによるナテ。 粘土は1.0mm以下の白色砂粒子を やや含む。焼成は良好。	
5	第48回国版32	土製円盤	1号溝	4.5	4.4	1.05	241	完形	黄褐色	調整は不明。 粘土は3.0mm以下の白色砂粒子を 多く含む。焼成は不良。	

と考えた。孔は歪で表面が広い。表面にはナデを施すが、裏面は磨滅のため不明。

4・5は土製円盤。4は日常土器の破片を円盤状に打ち欠き成形しており、器面の湾曲から表面が本来の土器の外側と分かる。表・裏面ともにハケ目調整が残る。5は、4よりも小形品であるが、厚みがあるもの。器面の湾曲から表面が本来の土器の外側であるが、磨滅のため調整は不明。

### (3) 青銅器生産関連遺物

#### ① 鋳型類 (図版33-(1)、第49図、表9)

1号溝から出土した鋳型と鋳型の可能性が考えられるもの5点を報告する。

1は銅矛の耳部周辺の鋳型小片で、石材は滑石系の石。湯口からハバキ、節帯が確認でき、湯口の周辺は黒変する。耳は菱環で、節帯の途中から付く。下面には合印を刻む。

2・3は石英長石斑岩製の鋳型。2は銅矛の袋部と武器形の鋒が残存する鋳型。横断面形の形状から考えると鋒側が先に刻まれたと考えられるが、今回は銅矛袋部側を水平にして図化した。袋部の周辺には耳、節帯やハバキが確認できないことから小銅鐸鋳型の可能性も考えたが、鋒部鋳型から想定される鋳型の中心から反転すると小銅鐸にしては幅が狭いため、節帯、ハバキを欠損する袋部の下端部鋳型とした。武器形の鋒部は、反対側の銅矛袋部と向きを違えて刻まれる。型と合わせ面の一部が黒変するため、実際に铸造したことが分かる。なお、合わせ面を水平にすると、鋳型の掘り込みの中心付近とほぼ同じレベルになる。現状観察では、合わせ面が砥石などに二次利用され削られたとは考え難い。武器形の鋳型の中心部(鑄)付近で、合わせ面のレベルと近い部位は鑄の外側にある樋部が考えられる。ただし、通常の矛・剣・戈の樋は鋒の直下にないため、多極式銅剣のような特殊な製品の鋳型の可能性がある。または铸造技術の問題になるが、対になる鋳型を合わせた際に多少の隙間があったとしても铸造には問題がないのか、真土などを合わせ面に塗って高さを調整することもあるであろうか。合わせ面の黒変は楕円形を呈するが、その内側は黒変しない。この内側に真土が塗られていたのかもしれない。

3は両面に銅剣の型が刻まれる。表面は上から1.7cmに、製品にすると突起状になる部分が彫り込まれる。ここから上部が削り方、下部が元部と考えた。復元すれば削り方下端部の幅は5cm弱であろう。型とその周囲が黒変する。裏面は剣身の上部と考えられる。彫り込みの幅は、実測図の下部よりも上部が広い。上部が茎側、下部が鋒側であろう。このため表裏は互い違いの方向に彫り込まれる。横断面形は刃部から脊部に向かい浅くなるため、製品は内傾斜樋を持つ銅剣である。型とその周囲が黒変し、光沢をもつ。このため、铸造前にカーボンなどを塗布した可能性がある。

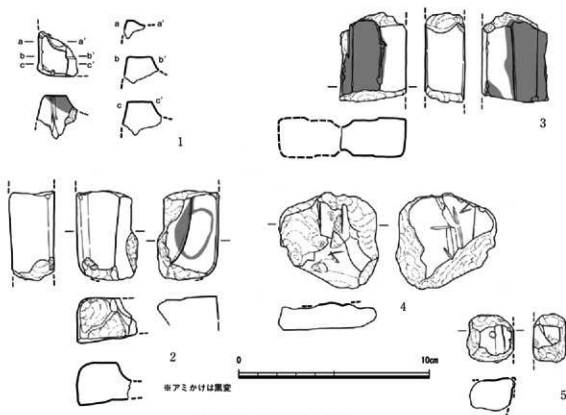
4は石英長石斑岩の破片資料。裏面は、平滑で金属器による溝状の掘り込みが見られるため、砥石として利用される。一方、上面は平行する2つの直線的な彫り込みがあり、その間は突出する。また、周囲は剥落するため本来の形状を残さないが、上述した2つの彫り込みの外側には、わずかではあるが旧状を保つ部分がある。黒変も見られず断定はできないが、以上のことから考えると、中広銅矛などの樋部ではなかろうか。そうすれば、右側が刃部、左側が脊部となろう。

5は土製鋳型の可能性のある小片の資料<sup>(1)</sup>。中型と同じ真土製で、側面には調整痕の上に塗り込めが認められる。裏面など欠損部が多いが、横断面の形状から武器形の刃部の可能性があり、欠損する左側には脊部が復元できる。

② 中型 (図版33-(2)、第50図、表9)

銅矛中型の16点と銅劍先中型1点を報告するが、この他にも図化していない小片がある。胎土は、細かい砂粒を含む真土製で、雲母が認められる例がある。2号溝出土の13を除き、1号溝から出土した。

1～16は銅矛中型。1・2などのように幅、厚みの小さい鋒側のものから15・16のように幅、厚みのある袋部までの資料がある。また、高温のため灰色系の色調を呈し、硬化や青銅などの付着物が認められる実際に使用された資料があり、製品から取り除かれた中型か鋳造時の失敗により廃棄された

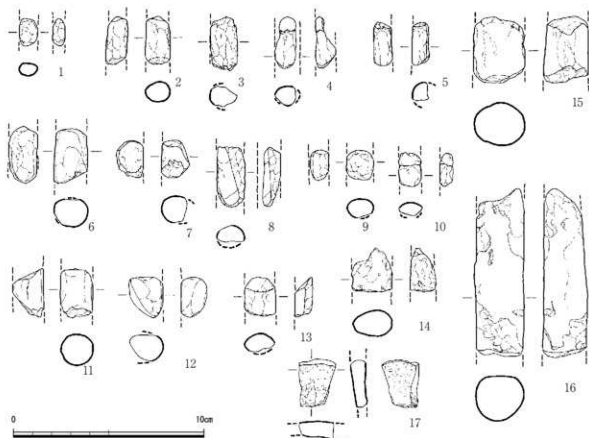


第49図 鋳型実測図 (1/2)

表9 4次調査出土鋳型観察表

番号	採国 採取	種別	出土位置	法量 (cm)			材質	備考
				長さ	幅	厚さ		
1	第49図 DG.R.33	銅矛鋳型	1号溝	2.35	2.15	2.3	滑石	細形、中細形小
2	第49図 DG.R.33	銅矛銅劍鋳型	1号溝	4.7	3.25	2.4	石英長石流岩	袋部・鋒部分
3	第49図 DG.R.33	銅劍鋳型	1号溝	4.75	3.5	2.1	石英長石流岩	中細小
4	第49図 DG.R.33	武器型鋳型	1号溝	5.1	5.3	1.5	石英長石流岩	銅矛小銅戈小
5	第49図 DG.R.33	武器型鋳型	1号溝	2.55	2.5	1.7	真土製 細かい砂粒と雲母を含む。	





第50図 中型実測図 (1/2)

表10 4次調査出土中型観察表

(計測値の幅と厚さは断面図の位置の数値)

番号	挿図 図版	種別	出土位置	計測値 (cm, g)				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特徴	備考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
1	第50図 図版33	銅矛	1号溝	1.45	1.0	0.7	0.9	灰黄色	無		
2	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.5	1.35	1.1	3.7	暗黄灰色	無		
3	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.8	1.4	1.2	4.4	黄褐色～黄灰色	無		
4	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.7	1.05	1.1	1.9	灰黄色	無		
5	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.3	0.9	0.95	2.1	黄灰色	無		
6	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.9	1.8	1.5	7.9	黄褐色	無		
7	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.0	1.5	1.45	3.5	黄灰色	無		
8	第50図 図版33	銅矛	1号溝	3.2	1.0	0.9	3.5	黄灰色	無		
9	第50図 図版33	銅矛	1号溝	1.6	1.4	1.0	1.9	黄灰色	無		
10	第50図 図版33	銅矛	1号溝	1.8	1.2	0.7	1.5	黄灰色	無		
11	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.6	1.75	1.65	5.4	淡黄灰色～灰色	無		
12	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.1	1.85	1.4	2.9	黒色	無	スス付着	
13	第50図 図版33	銅矛	2号溝	2.1	1.7	1.0	2.9	黄灰色	無		
14	第50図 図版33	銅矛	1号溝	2.35	2.15	1.4	6.3	暗灰茶色	無		
15	第50図 図版33	銅矛	1号溝	3.5	2.7	2.3	20.9	暗黄褐色～灰色	無		
16	第50図 図版33	銅矛	1号溝	8.9	2.6	2.4	61.4	黄褐色～灰黒色	無		
17	第50図 図版33	銅鏃先	1号溝	2.6	1.95	0.6	1.6	白灰色～黄灰色	有 緑色		

ものと考えられる。この他にも、途中で破損したために、製造前に廃棄された資料があり、16のように長いものが該当しよう。横断面形は丸いものと凸レンズ状のものがあり、前者は細形、中細形、後者は中広形、広形の銅矛中型である可能性がある。16は横断面形や長さから考えると中細形であろう。

17は、上下端部を欠くが、断面が楔形を呈するため、鋤先中型片と考えられる小片。高熱による気孔や付着物が付くため、製造の失敗を示す例と考えられる。

### ③ 埴塙／取瓶 (図版34、第51図、表11)

12点を図化した。この他にも内面が剥落する資料や小片がある。埴塙／取瓶本体の胎土は、粗砂粒を含み、初殻と思われるスガが観察できるものがある。内面や口縁部には、きめの細かい真土を貼り付けており、高熱のため内面を中心に暗灰色に変化する。また、青銅が付着するものもある。12が2号溝、その他は1号溝から出土した。なお、何れも大きい破片とは言えず、傾きには疑問が残るものがある。

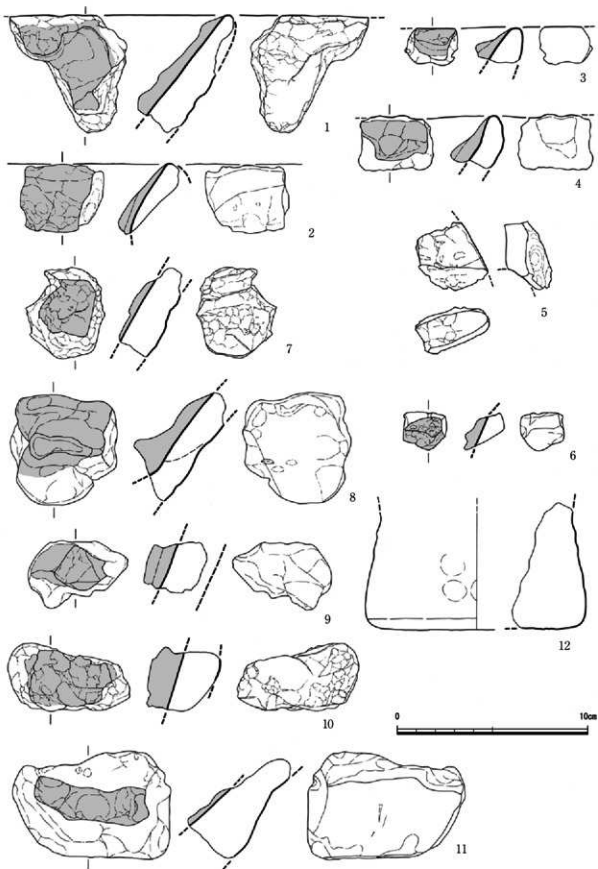
1～4は口縁部の破片で、1・3・4は端部をやや尖り気味に仕上げるが、2は面を持つ可能性がある。3・4は、同一個体の可能性がある。5は注口部と考えられる小片。6～11は胴部の破片。傾きが強く、厚みのある8・11は底部に近い部分の可能性がある。12は脚台の可能性がある資料で、残存部から考えれば高台状の上底にはならない。

### ④ 輸送風管 (図版25-(3)、35-(1)、第52図)

外径3.8～7.2cm、内径3.0～4.9cmで、弥生時代の送風管としては大ぶりの印象を受ける。残存長

表11 4次調査出土埴塙／取瓶観察表

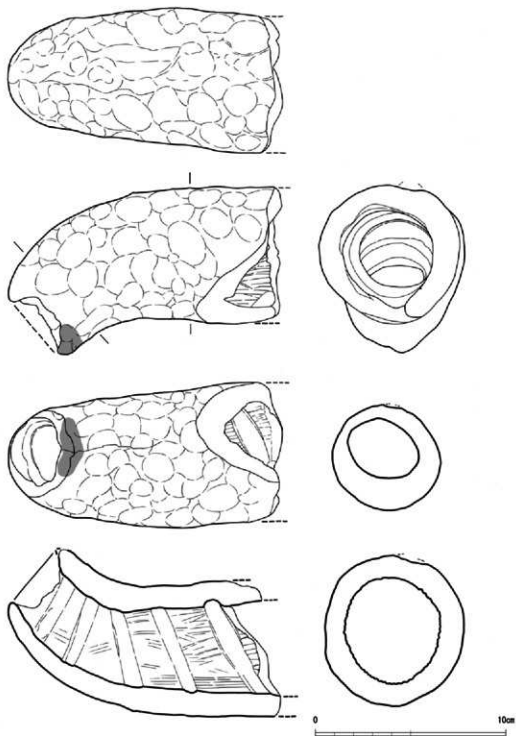
番号	埴塙 図版	出土位置	調整・色調・付着物等		胎土	焼成	備考
			外面	内面			
1	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色。	白色砂粒を含む。	良	
2	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色。	砂粒を含む。雲母をごくわずかに含む。赤色粒子を含む。	良	
3	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色、青灰色。	砂粒を含む。	良	
4	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色、青灰色。	砂粒を含む。雲母を少量含む。	良	
5	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は赤褐色	調整は真土のため不明。色調は暗灰色。	砂粒を含む。	良	
6	第51図 図版34	1号溝	調整不明。色調は橙褐色	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色、青灰色。	砂粒を含む。	良	
7	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は黄灰色。	調整は真土のため不明。色調は褐色。	白色砂粒を含む。雲母を含む。	良	
8	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は淡橙褐色～橙褐色。	調整は真土のため不明。色調は淡橙褐色、淡灰色。	白砂粒を含む。雲母をごくわずかに含む。	良	
9	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は橙褐色。	調整は真土のため不明。色調は淡灰黄褐色。	砂粒含む。	良	
10	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は黄灰色。	調整は真土のため不明。色調は褐色。	白色砂粒を含む。雲母を含む。	良	
11	第51図 図版34	1号溝	調整は不明。色調は淡白灰色。	調整は一部真土で覆われているため調整不明。色調は淡黄色～褐色、淡白色。	砂粒を含む。雲母を少量含む。	良	
12	第51図 図版34	2号溝	調整はナシ。色調は灰茶褐色。	欠損のため調整不明。色調は灰茶褐色。	砂粒を含む。白砂粒を含む。	良	脚部片



第51図 埴埴/取瓶美洲図 (1/2)

は14.4 cm、先端部をやや屈曲させ基部は欠損する。先端はやや欠損し、腹部側は被熱により赤変する。細かいヒビも被熱と関係あるのかもしれない。また、色調は、外面腹部側が橙褐色に対し、背面側は淡黄色～淡灰褐色のため、二次的な被熱による差とも考えられる。内面は暗灰褐色。

調整は、外面は指頭痕、内面は風化のため不明瞭な箇所もあるが、輸送風管と平行する草木類の圧



第52図 輸送風管実測図 (1/2)

痕と、縄と考えられる螺旋状の圧痕がある。これらは、須玖岡本遺跡坂本地区4次調査で報告したように、ワラのような草木類を束ね、縄で螺旋状に縛ったものを芯として、粘土を巻き付けて成形した痕跡だと考えられる。なお、芯は乾燥後に除去したか、焼成時に燃えたのであろう。坂本地区などの先端部分は内径が細く、竹などを芯としたことが分かるが、当資料は、基部から先端まで、草木類を束ねた芯で製作している。1号溝からは、中期前半から後期の土器が出土するため断定はできないが、銚型や中型などの铸造関連遺物は古式で中期前半まで遡るものが多い。このことから考えれば、当資料の時期も中期前半で、後期の坂本地区の輸送風管とは製作方法が異なるのかもしれない。

胎土は、粗砂粒や雲母を含み、スサと考えられるモミ殻の圧痕も観察できる。

なお背面には、平面や横断面でも長い範囲に剥離したような痕跡が見受けられる。熊本市八ノ坪遺跡の中期前半の輸送風管には、背部にタテガミ状の突帯が付けられる。この突帯は、アジア大陸などの輸送風管でも確認できる。上述したように、当資料が中期前半まで遡るとするならば、剥離痕はタテガミ状の突帯の存在を示すのではなかろうか。

#### (4) 石器等 (図版35-(2)・36、第53～54図、表12)

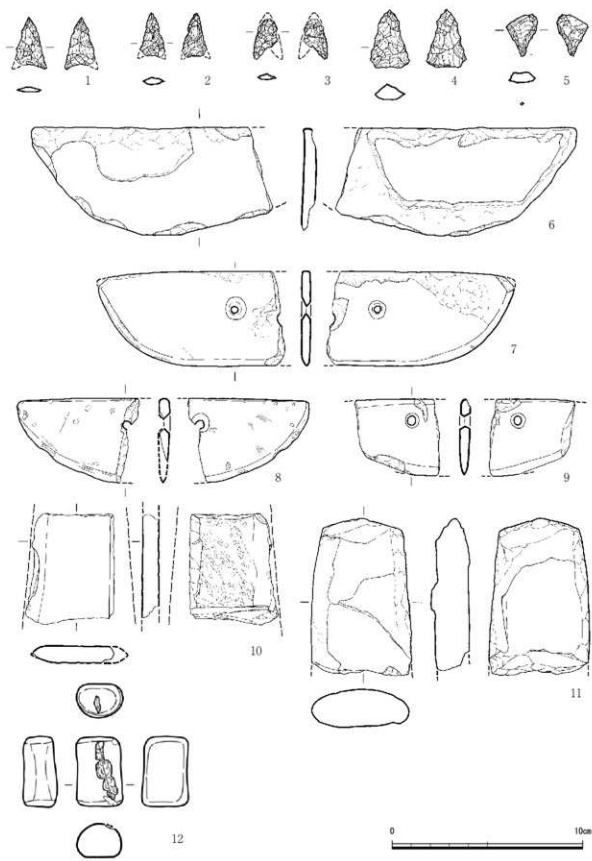
打製石器5点、磨製石器7点、砥石など8点を報告する。法量や出土地点については一覧表を参照していただきたい。

1～5は打製石器。1～4は石鏃。1・2は脚部の挟りが浅く、3はやや脚部が長い資料。4は形状が三角形を呈する資料で、脚部の挟りはない。やや厚みを持つため、小型の尖頭器とした方が良いかもしれない。5は赤褐色を呈するチャート製石錐の完形品。

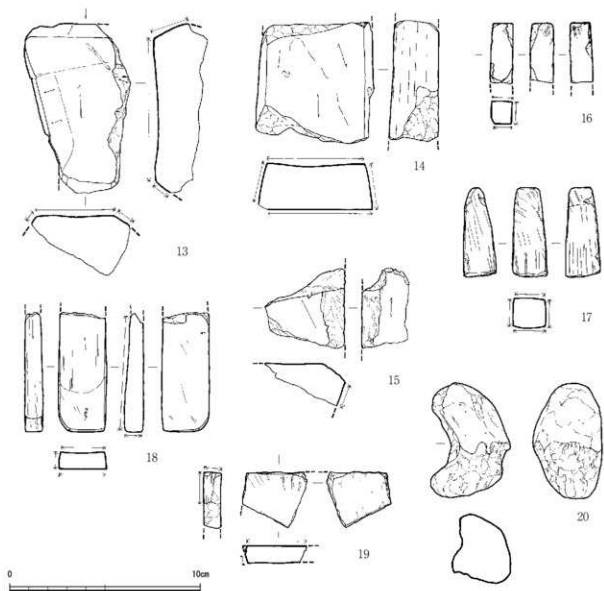
6～12は磨製石器。6～9は石庖丁。6は未成品で、穿孔や刃部も作られていないため、成形段階で破損したために廃棄したものであろう。7はやや大ぶりの石庖丁で、刃部は直線的。2つの穿孔が確認でき、2つの穿孔の位置は背部と平行せず、1つが刃部と背部の中心、もう一方は背部よりにある。8・9は赤紫色の凝灰岩製の破片資料。両者とも1つの穿孔が確認できる。

10は石剣の身部片と考えた。裏面は丁寧に研磨されず、粗加工の痕跡が残る。横断面で明らかに、六角形に復元でき、表裏ともに中心に鑄はない。11は石斧で、刃部を欠損する。12は、横断面形が蒲鉾状を呈する円筒樞。このため、表面は丸みを持ち、裏面は平である。表面には調査時の傷がある。上面には線刻があるが、滑石系の石材であることを考慮すれば、青銅器鑄型の転用品で、線刻は本来の鑄型の合印と考えられる。

13～17は砥石。13は表面と上面、下面を砥石として使用する。裏面は欠損するが、欠損後に一部使用、あるいは平滑にしようとしたためか研磨が認められる。14は上下を欠く資料で、表面をよく使用するのに対し、両側面はあまり使われていない。15は破片資料。表面と右側面の使用が確認できる。16は四角柱の小型の砥石。表面、裏面、右側面、上面を使用し、左側面は未使用、下部は欠損か。17は楔形を呈する小形の砥石。形態から小形の石斧などの可能性も考えたが、下面も使用す



第 53 图 石器等实测图① (1/2)



第54図 石器等実測図② (1/2)

るため砥石として報告する。

18は幅2.6cm、厚さ1.05cmと薄く、砥石か板石硯<sup>(2)</sup>の可能性が考えられる資料。19は下半部から右半部を欠く。表面、上面と左側面の一部が研磨されるが、裏面は未使用。厚さも0.95cmであり、板石硯と考えられる。なお、肉眼観察では表面に黒色の粒が付着しており、墨の可能性が考えられる。20は軽石の石塊である。平面形は「C」字状をなすが、加工を施され成形されたわけではない。須玖岡本遺跡坂本地区など周辺の青銅器生産遺跡で出土することが多く、青銅器などの研磨剤などとして持ち込まれたのであろうか。

註

- (1) 柳田康雄氏（國學院大學）に御教示いただいた。
- (2) 板石硯については、久住猛雄氏（福岡市経済観光文化局）、柳田氏から御教示いただいた。

表 12 4次調査出土石器等観察表

番号	調査 区域	種別	出土位置	計測値 (cm, g)			石材	残存	
				長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)			
1	第 53 区 第 25	石鏃	1号溝	28	1.7	0.3	1.3	安山岩	一部欠損
2	第 53 区 第 25	石鏃	1号溝	235	1.35	0.4	0.9	安山岩	一部欠損
3	第 53 区 第 25	石鏃	1号溝	215	1.3	0.4	0.7	黒曜石	2/3程度
4	第 53 区 第 25	石鏃	1号溝	3.1	2.1	0.85	4.8	安山岩	完形
5	第 53 区 第 25	石鏃	1号溝	2.3	1.6	0.6	2.5	チャート	完形
6	第 53 区 第 26	石包丁	2号溝	5.4	12.8	0.7	77.4	凝灰岩	5/6程度
7	第 53 区 第 26	石包丁	1号溝	5.0	9.8	0.5	48.0	凝灰岩	2/3程度
8	第 53 区 第 26	石包丁	1号溝	4.5	6.4	0.55	23.7	凝灰岩	1/3程度
9	第 53 区 第 26	石包丁	1号溝	4.1	4.2	0.55	17.9	凝灰岩	1/3程度
10	第 53 区 第 26	石剣	1号溝	5.9	4.7	0.95	46.6	凝灰岩	破片
11	第 53 区 第 26	石斧	1号溝	8.3	5.3	2.0	156.9	玄武岩?	2/3程度
12	第 53 区 第 26	椎	1号溝	3.7	2.45	1.8	33.5	滑石	ほぼ完形
13	第 54 区 第 26	砥石	1号溝	9.0	5.65	3.2	148.5	砂岩	-
14	第 54 区 第 26	砥石	1号溝	6.4	6.2	2.5	178.9	砂岩	-
15	第 54 区 第 26	砥石	1号溝	4.25	4.25	2.6	37.7	砂岩	-
16	第 54 区 第 26	砥石	2号溝	3.2	1.25	1.25	8.5	石英長石斑岩	-
17	第 54 区 第 26	砥石	1号溝	4.8	1.85	1.6	21.5	泥岩	完形
18	第 54 区 第 26	砥石	1号溝	6.3	2.6	1.05	34.7	泥岩	-
19	第 54 区 第 26	硯?	1号溝	3.0	3.45	0.95	14.6	砂岩	破片
20	第 54 区 第 26	軽石	1号溝	6.1	4.2	3.4	21.1	軽石	完形

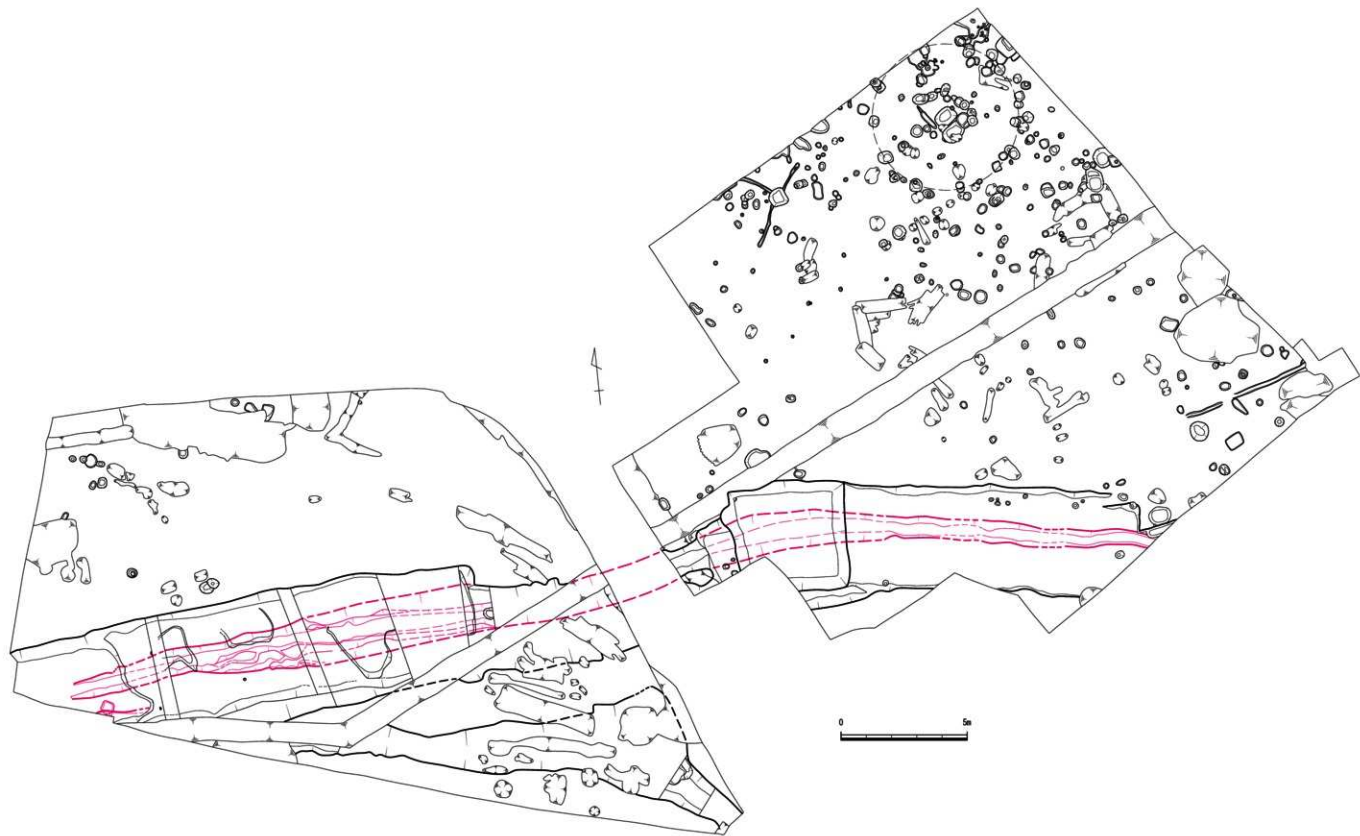
## V まとめ

須玖坂本B遺跡は、奴国の首長層の墓地である須玖岡本遺跡岡本地区や奴国の官営工房とも称される青銅器生産遺跡、須玖岡本遺跡坂本地区と南に接し、北側には諸岡川を挟みガラス工房を確認した須玖五反田遺跡が所在する重要遺跡である。今回報告した須玖坂本B遺跡1・4次調査地は、小学校建設時の造成など後世の開発により削平を受けていたが、両調査区がほぼ接することから1号溝などの同一遺構を調査することができたことや、多くの青銅器生産関連遺物が出土するなど大きな成果を得ることができた。ここでは、1・4次調査で確認した特筆される遺構・遺物について述べるとともに今後の問題点なども記し、まとめに代えたい。

### 1 1・4次調査の1号溝について (第55・56図)

1号溝は、1・4次調査を合わせると、ほぼ東西方向に延びる約46mを検出した大溝である。幅は4～5m程度、深さは、後出する土坑状の掘り込みを除くと最も残りの良い西側部で50cm程度だが、残りの悪い東側は数cmと浅い。本来の地形は調査区南側から徐々に高さを減じると推定でき、調査区北のピット群は床面以下まで削平を受けた堅穴建物跡と推測できることや、南側に接する須玖岡本遺跡岡本地区12次調査地の検出面から考えても50cm以上は削られたと考えられる。なお、床面は西側





第 55 図 須玖坂本B遺跡 1・4 次調査遺構配置図 (1/150)



に緩やかに傾斜するが、一部を土坑状に掘削し、木器等が出土する。

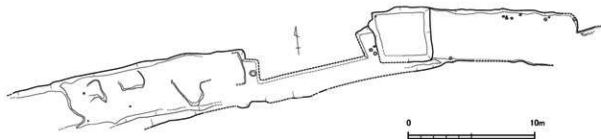
1号溝が上述したような規模の直線的な大溝のために、性格については何らかを区画する溝と考えられてきた。須玖坂本B遺跡は、須玖岡本遺跡を中心的な遺跡とする須玖遺跡群の一角を占めるが、須玖遺跡群では南部や西部の複数の遺跡で、断面「V」字や逆台形の大溝が確認されている。これらの大溝は、遺跡が所在する小丘陵の一方だけである遺跡群の外縁部のみ掘られるため、谷を越えて機能する一連の遺構と考えられ遺跡群を大きく巡る環壕の可能性もある。そのため須玖坂本B遺跡の1号溝についても、遺跡群を囲む北部の溝と考えられた時期もあった。

しかしながら、須玖岡本遺跡坂本地区6次調査によって、坂本地区と須玖坂本B遺跡の間には谷があることが明らかになった。また、須玖坂本B遺跡1・4次調査成果によって、溝の北側からブロック混じりの土壌が流入することや、出土遺物が日常土器や木器、青銅器生産遺物等の北側の集落に起因する遺物であることから、1号溝の北側を内側と考えて間違いないだろう。もし、1号溝の南側丘陵側を囲むとするならば、須玖岡本遺跡岡本地区は墓地が主体の遺跡であるから、溝の中には丹塗土器などの墳墓に伴う遺物が多く包含されるはずであり、このことから当溝が区画を表すとするならば、北側の遺構群を囲んでいた可能性は高い。

なお、1号溝の1・4次調査の境目には、張出部、陸橋の存在が考えられる。掘り残された部分が後世の溝（2号溝等）で破壊されることや、4次調査のその部分が未調査であるために断定することは難しいが、平面形や残存部から考えて張出部、陸橋の存在は間違いないだろう。第56図では、北側から張出部が伸びるように復元を行った。1号溝の北側が内側とすると張出部の付き方には矛盾はないが、張出部上に想定される物見槽等の掘立柱建物跡は確認できない。しかも、1号溝が1・4次調査地の北側の遺構群を囲む大溝とすれば、張出部は南側の墓地に向かって張り出す形をとり、物見槽等の施設が意味をなさない。

以上のことから、この部分については南側の墓地や工房への通路としての陸橋であった可能性を考えたい。もし、張出状の施設であった場合には、木の橋などをかけていたのではなかろうか。

当溝は中期前半から終末期までの土器が出土し、削平をかなり受けるために、時期の詳細な検討は難しいが、4次調査を担当した境靖紀氏の調査日誌等の記録を参考に検討したい。中期前半～中頃の土器は、中・下層からも多く出土したようである。ただし、後期前半の残存状態の良い甕が最下層から出土し、1次調査1号土坑の下層からは貨泉が出土する。4次調査では、北側壁面から床面に



第56図 須玖坂本B遺跡1・4次調査1号溝復元図(1/300)

かけて、地山ブロックを含む堆積があり、この中には中期前半～中頃の土器と共に青銅器鋳型が含まれる。境氏は、ブロックを含む堆積については崩落した土塁と考えられている。土塁については、溝を掘削した時に出た土を利用したと考えるのが自然である。このため、1号溝が掘られる前に中期前半の遺構が存在し土器が土塁に混じった可能性はあるが、土器の量が多いことから大形の遺構であった可能性がある。幅4m以上、深さ1m弱の溝の性格を考えれば、掘り直し等が行われた可能性は高いと考える。中期前半に掘られた溝を後期後半に大幅に改変、掘り直しを行った可能性も考えられるのではなかろうか。

昭和32年に当地で小学校建設に係る造成が行われた際の知見を記した鏡山猛氏によると、弥生土器が散布し、堅穴建物が数軒見られ、環濠の可能性のある1条の溝があり、運動場の北端に溝の一部が残るとされる<sup>(1)</sup>。当遺跡は、縁辺部で6次に渡る調査を行い古代の溝なども検出したため、慎重に検討する必要はあるが、今回、運動場の南端で調査した1号溝と一連の溝が、運動場北端まで続く可能性がある。1号溝が東西方向の直線的な溝であることを考えれば、方形区画、しかも方位も意識した可能性も考えられる。

須玖遺跡群では、集落に近接して墓地が営まれる例が多い。首長層の墓地は須玖岡本遺跡岡本地区にあるが、近隣の遺跡で首長層の居住域であるような遺跡は確認されていない。首長層の居住域は一定の広さを有することが推察できるが、須玖坂本B遺跡は岡本地区周辺で広い平地を有し、中心部の性格が明らかになっていない遺跡の1つである。須玖坂本B遺跡も含め、周辺遺跡で青銅器・ガラス玉生産が大規模に、継続的に行われることから考えれば、当遺跡が首長層の居住域である可能性は高い。そうするならば、1号溝は首長の居宅を囲む溝の可能性があるのでなかろうか。今後の調査成果に期待したい。

## 2 須玖坂本B遺跡の青銅器生産

須玖坂本B遺跡の6次に渡る調査では、青銅器鋳型、銅矛中型、埴壇/取瓶等の青銅器生産関連遺物が多数出土する。特に遺跡の北端部の3次調査は、諸岡川の氾濫や校舎建築時に大きく破壊されていたが、100点を超える中型が出土することから、当遺跡で青銅器生産が行われたことは間違いない。包含層等からの出土品が多いが、土器と伴うものや鋳型型式、中型の断面形などから後期初頭～前半頃の青銅器生産に伴う遺物と判断される。

また、遺跡西部の5・6次調査では大きく削平を受けるが、周囲に溝を巡らす掘立柱建物が確認され、溝からは埴壇/取瓶が出土する。この建物は須玖永田A遺跡1次調査と同じタイプの青銅器工房と判断できる。

本論で述べたように1・4次調査でも鋳型等は出土する。ここでは古式の鋳型や中型から中期前半の青銅器生産の可能性について述べてみたい。4次調査から出土した古式の鋳型は、1号溝の北側壁面から床面にかけてみられる堆積土から中期前半～中頃の土器と共に出土した。滑石製の鋳型を含み、

細形～中細形の武器形青銅器の鋳型であるため、土器の時期とも矛盾はない。谷を挟んだ南側には、青銅器生産遺跡として著名な須玖岡本遺跡坂本地区が所在するが、青銅器生産は後期が主体であるため、その遺物が1号溝の北側から混入したとは考えられない。以上のことから、須玖坂本B遺跡の中期前半の青銅器生産は1号溝の北側で行われたと推察できる。

1次調査では、調査区北部のP 65を中心に直径6mほどの範囲に柱痕を有する大形のピットを複数検出した(第8図北側ピット群)。これらは、削平を受けた円形の堅穴建物の柱穴と考えられ、復元すれば直径8m前後の堅穴建物となる。この範囲のP 3・8・27・61・62からは、中期前半～中頃の土器と共に銅や中型の湯口部分(中型№12)や石英長石斑岩の石塊や剥片が出土する。

P 62出土の中型の湯口部分は、横断面形が筑前町峯遺跡で見られる中期前半～中頃の土器に伴う「十」字を呈するもので、後期に通有な「X」字ではない。石英長石斑岩の石塊や剥片は、P 3・8の出土品が接合し(鋳型№6)、P 62の石塊は2つが接合し、さらに剥片も1つ接合した(鋳型№7)。鋳型№7は全面に剥離面を有し、平滑な面はない。横断面形が逆蒲鉾形を呈することや、幅から考えれば、武器型鋳型の未製品と考えられる。

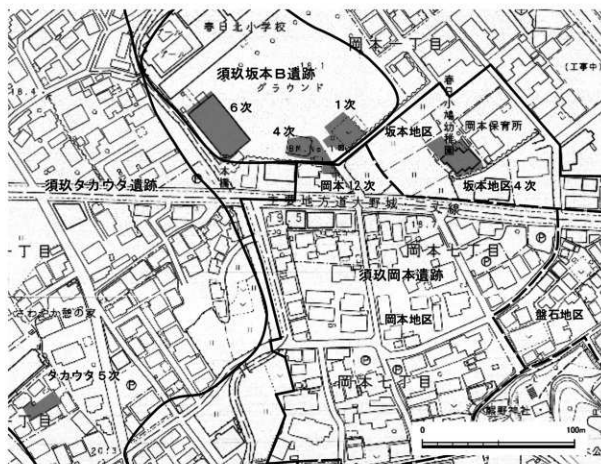
破損した未成品が剥片と接合することや、同じ遺構内から多数の剥片が出土することは、当建物内で青銅器鋳型を製作したと考えて間違いない。削平のために本来床面に残っていた遺物はすべて取り除かれたために、青銅器生産が行われたのかは確認できていない。しかし、P 62からは鋳型の未製品や銅や中型湯口部が出土するから周辺の状況とも考えて、当遺構は円形の堅穴建物を利用した青銅器工房と考えたい。

### 3 須玖遺跡群出土の権(第57・58図、表13)

須玖坂本B遺跡1・4次調査では、天秤権と考えられる石器が3点出土する。6次調査でも出土していたので近接する遺跡も含め確認したところ、転用品も含め8つを確認した。ここでは、資料の提示と出土の意義について述べたい。なお、各権の出土地点、石材、分量などについては表13を参照していただきたい。

1～7は円筒権で、1・2の横断面形は蒲鉾状を呈する。形態は、1～4の中型品、5の小型品、6・7の大型品の3つに分類できる。1・2・6は須玖坂本B遺跡1・4次調査の出土品のため、本報告書のⅢ・Ⅳ章を参照していただきたい。

3は横断面形が楕円形の資料で、縦方向に面取りされる。上下端部がやや突出するため、未成品の可能性はある。4は小銅鐸鋳型を権に再加工した資料<sup>②</sup>。下部には舞から身部の彫り込みが残り、黒変する。縦方向に面取りされ、下端部には工具痕がみられる。上部部には小銅鐸鋳型の時に刻まれた合印が残存するため、鋳型の上辺から舞部下の彫り込みの部分を再利用したことが分かる。5は過去に穿孔具と報告したもの<sup>③</sup>。穿孔による回転を示す使用痕が認められず、側面を面取りすることから、小型の権と再考した。下半部が欠損する。7は不明瞭ながら縦方向の面取りの痕跡を残す大形



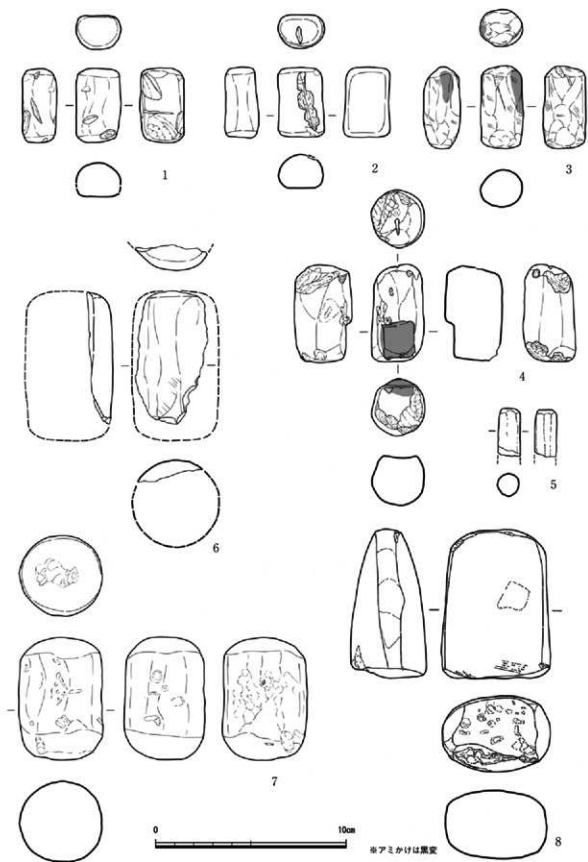
第57図 須玖遺跡群権出土遺跡 (1/2,500)

の完形品で、横断面形は円形。成形のための敲打痕を残す。8は過去の報告で石斧を転用した石槌としたもの<sup>(4)</sup>。近年の研究成果を参考に石斧転用槌と改めた。

以上のように、円筒槌7点と転用槌1点について述べた。5・8を除き石材が滑石であることは注目される。滑石は加工しやすいために、重さを調整し易いという利点があり、槌の石材として好まれた可能性がある。また、滑石は古式の鋳型に利用されることが多く、その時期は中期を主体とする。実際に、2・4は鋳型の痕跡である合印や彫り込み、黒変があるため鋳型の転用品と分かる。これら滑石製の円筒槌の時期は、溝や検出時の出土品は時期の決め手に欠けるが、堅穴建物などから出た4・5は中期前半の土器が伴うため、滑石が鋳型として利用された時期と重なる。つまり、滑石製の槌は、中期前半を主体とする鋳型の転用品が多いと推察できる。

分布図で明らかのように、須玖坂本B遺跡の周辺には、槌が集中する。時期が中期前半に偏ることや今後須玖遺跡群の他の遺跡でも確認される可能性はあるが、これらの槌は青銅器生産遺跡から出土する。鋳型を転用したことも関係あろうが、やはり、青銅生産に関連する計量のために槌が使用されたと考えたい。

円筒槌は小さく、目立った加工が施されないため見落とされる可能性がある遺物である。また、石斧の転用槌なども槌と認識されない可能性がある。このため、須玖遺跡群の他の青銅器生産遺跡の石



第58図 須玖遺跡群出土権実測図 (1/2)

器についても今後再観察する必要があると考えている。

註

- (1) 鏡山猛 1957「環溝住居址小論(四)」『史林』第78輯 九州史学会
- (2) 春日市教育委員会 2017「須玖タカウタ遺跡3」—5次調査— 春日市文化財調査報告書第77集 筆者再実測。
- (3) 春日市教育委員会 2011「IV4次調査の内容」『須玖岡本遺跡4』—坂本地区3・4次調査の報告— 春日市文化財調査報告書第61集
- (4) 註3と同じ。

表 13 須玖遺跡群出土土糧観察表

( )は残存値

番号	出土位置	計測値 (cm, g)				石材
		長さ	幅	厚さ	重量	
1	須玖坂本B遺跡1次調査 1号土坑	3.9	24	1.8	35.13	滑石
2	須玖坂本B遺跡4次調査 1号溝	3.7	245	1.8	33.57	滑石
3	須玖坂本B遺跡6次調査 遺構検出時	4.4	23	20	32.47	滑石
4	須玖タカウタ遺跡5次調査 3号土坑	5.15	28	305	69.16	紫褐色の滑石
5	須玖岡本遺跡坂本地区4次調査 P2	(2.50)	1.2	1.2	(5.85)	淡灰色の砂岩
6	須玖坂本B遺跡1次調査 1号溝	(7.05)	(3.8)	(1.35)	37.93	滑石
7	須玖岡本遺跡岡本地区12次調査 2号住居	6.5	4.5	4.3	223.71	滑石
8	須玖岡本遺跡坂本地区4次調査 1号竪穴状遺構下層	7.85	5.7	4.0	337.19	青味がかった暗灰色の石



圖 版



## 1 次 調 査





(1) 調査区全景 (北から)



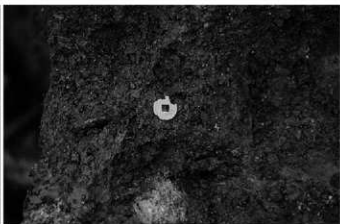
(2) 調査区全景 (南から)



(1) 1号土坑



(2) 鑄型No. 10 出土状態



(3) 貨泉出土状態



(4) 木製品No. 1 出土状態



(1) 1号土坑A-A' 断面土層 (東から)



(2) 1号土坑B-B' 断面土層 (東から)



(1) 1号溝C-C' 断面土層 (西から)



(2) 1号溝D-D' 断面土層 (東から)



(3) 1号溝E-E' 断面土層 (東から)





(1) 1号溝F-F' 断面土層 (西から)



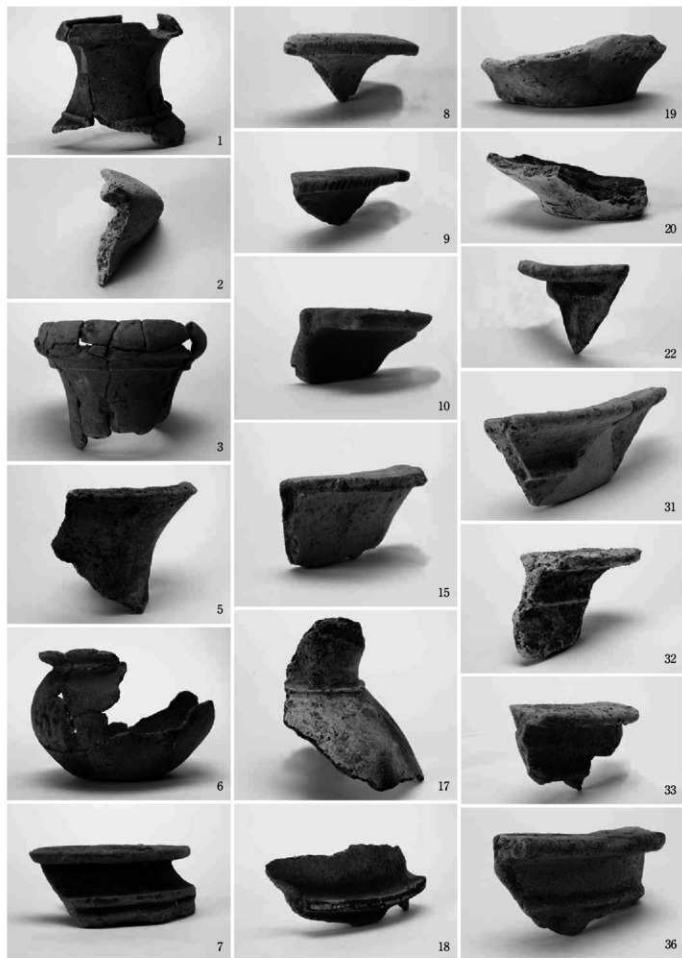
(2) 1号溝G-G' 断面土層 (東から)



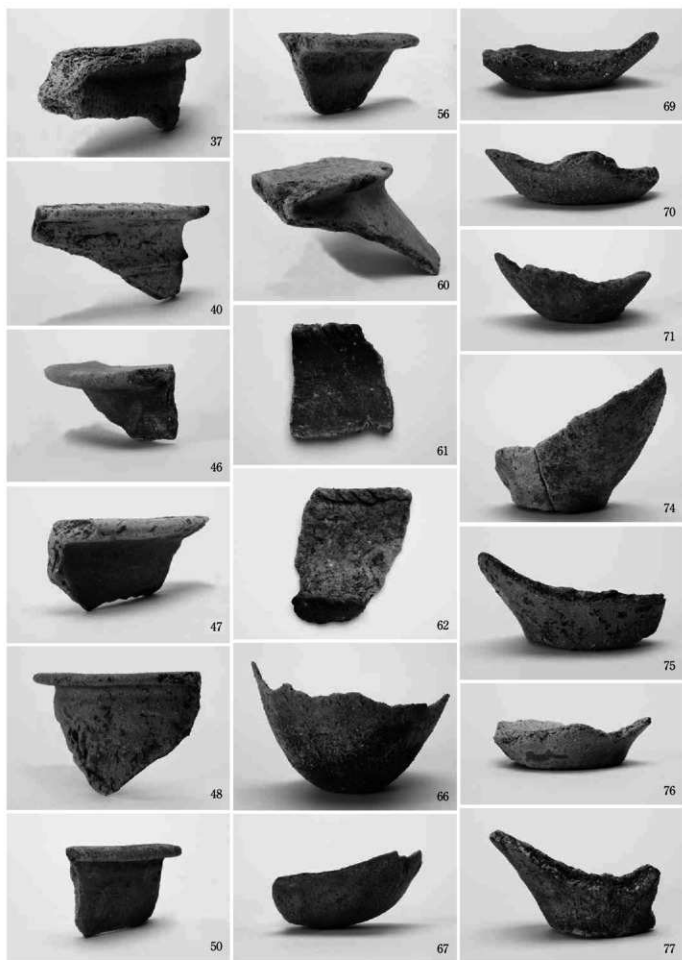
(3) P66 鉄器出土状態



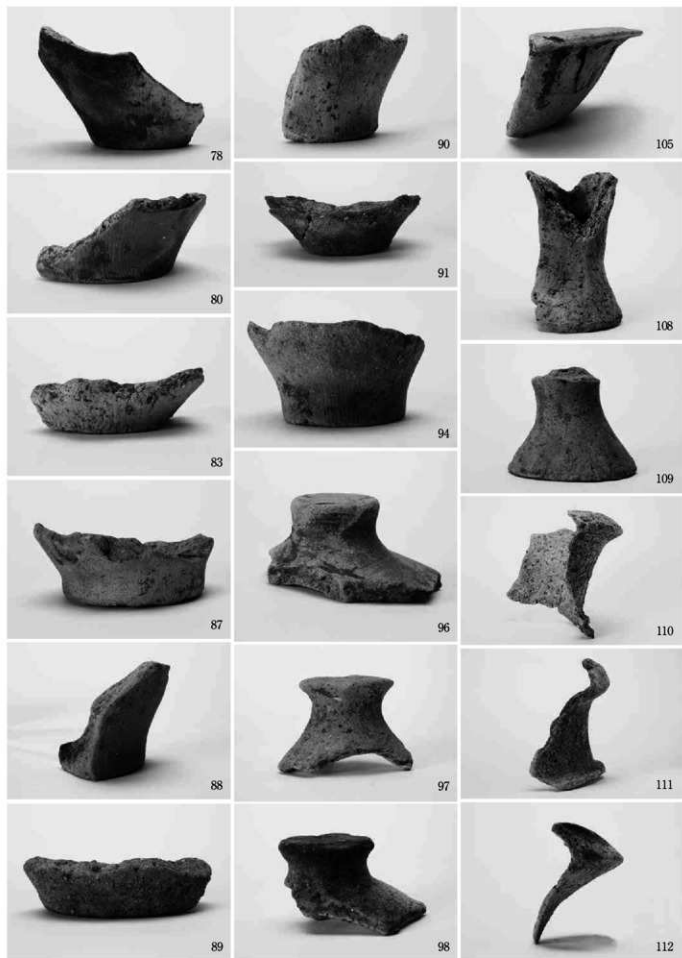
(4) P72 半截状態



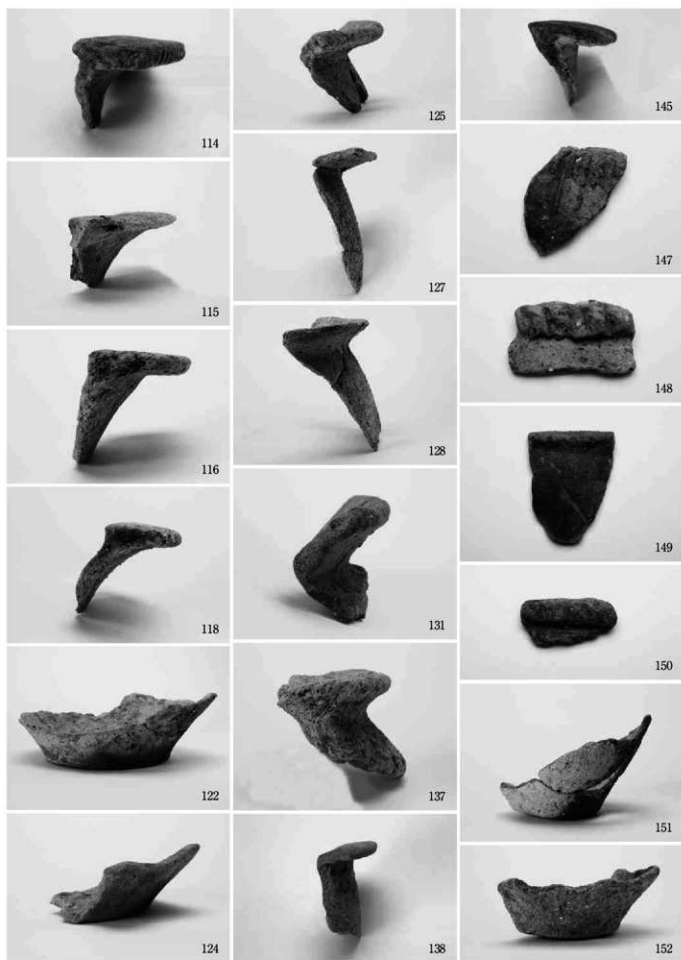
1次調査出土土器①



1次調査出土土器②



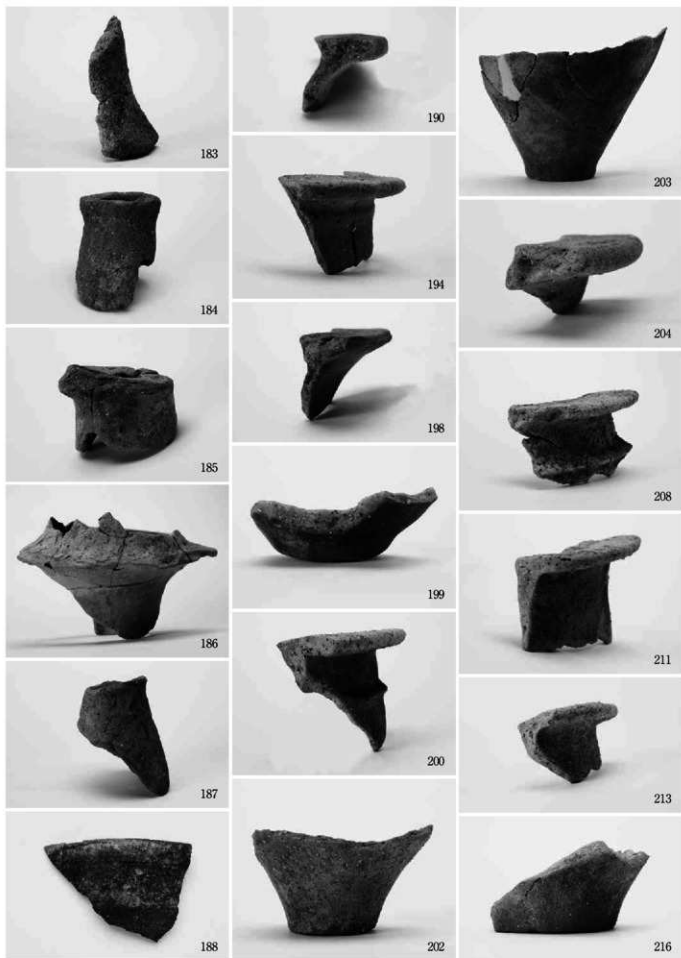
1次調査出土土器③



1次調査出土土器④



1次調査出土土器⑤



1次調査出土土器⑥

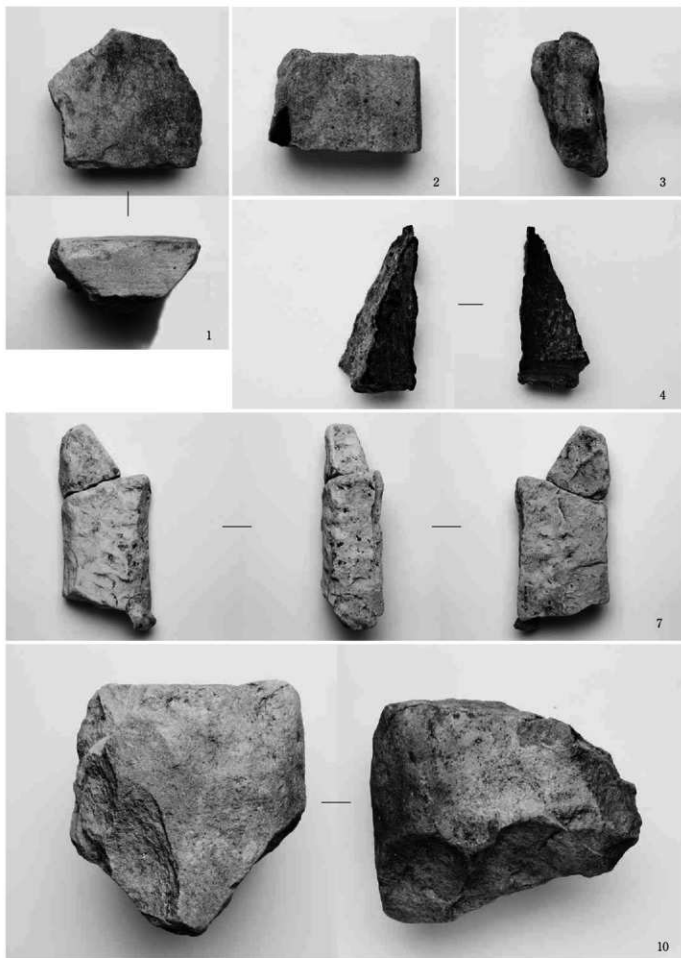


(1) 1次調査出土土器⑦

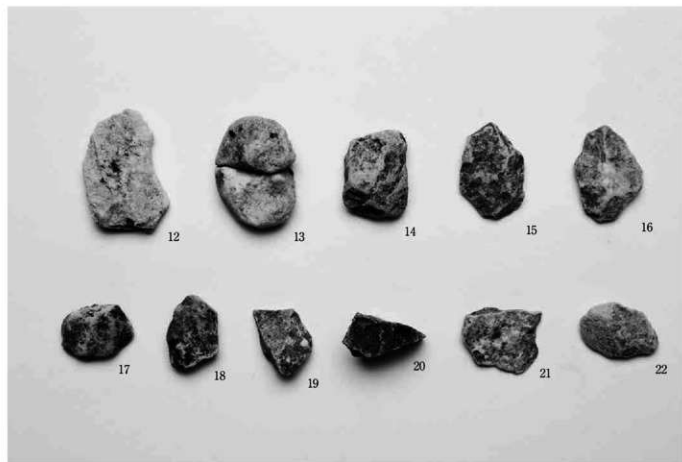
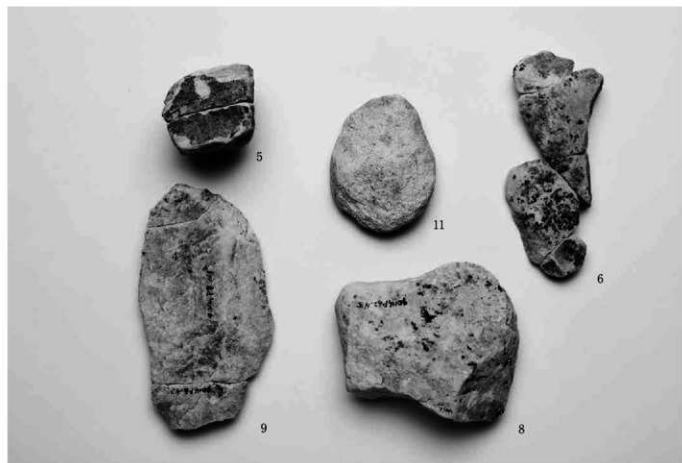


(2) 土製品等

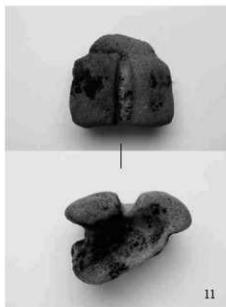
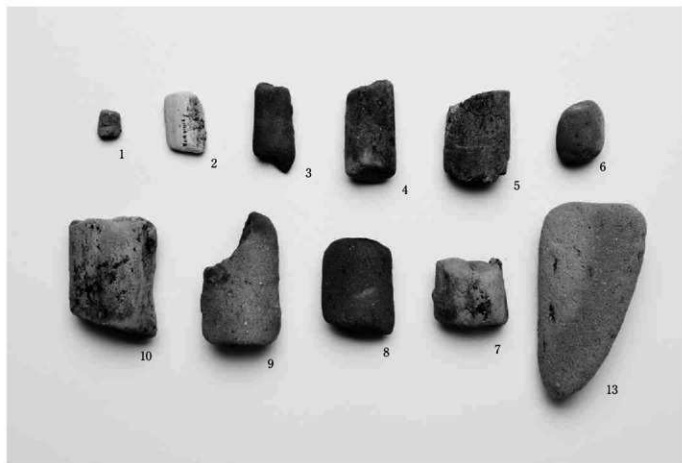




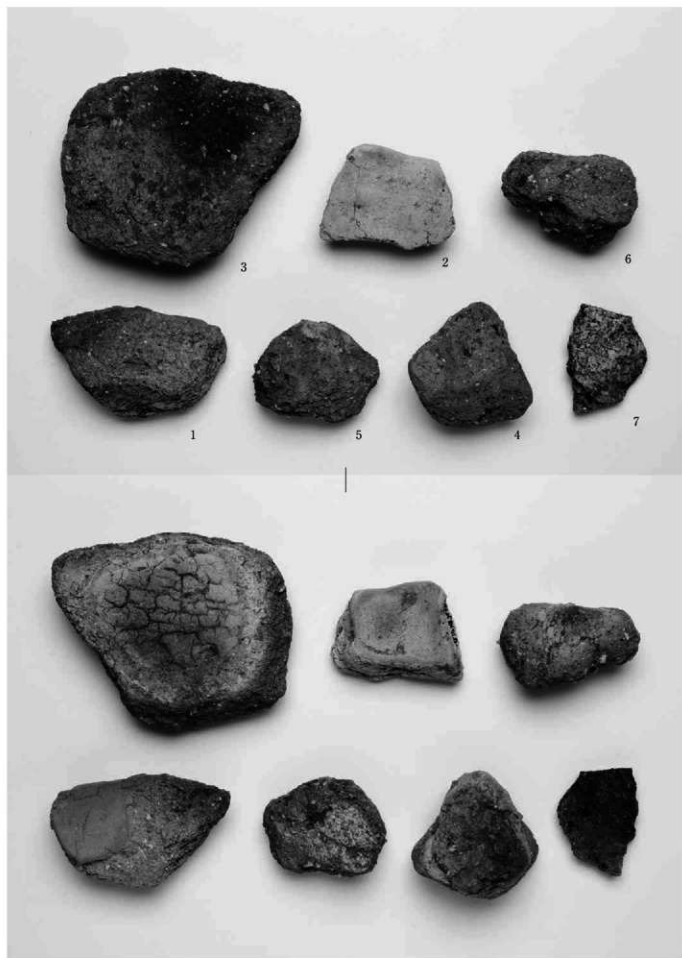
铸型類①



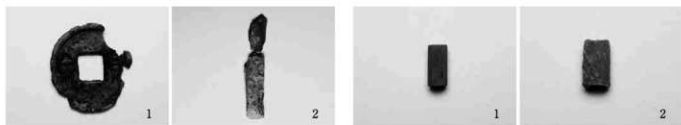
鋳型類②



中型



坩埚／取瓶

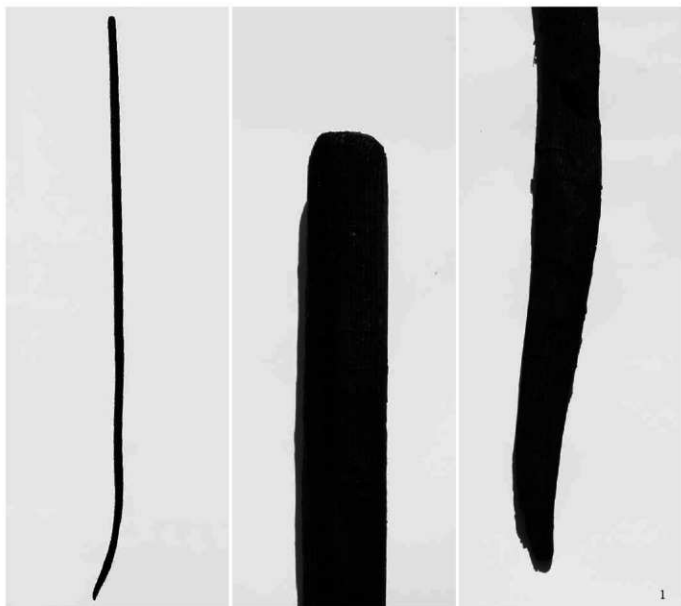


(1) 青銅器

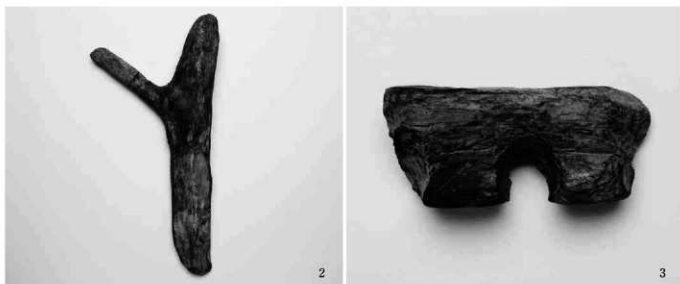
(2) 玉類



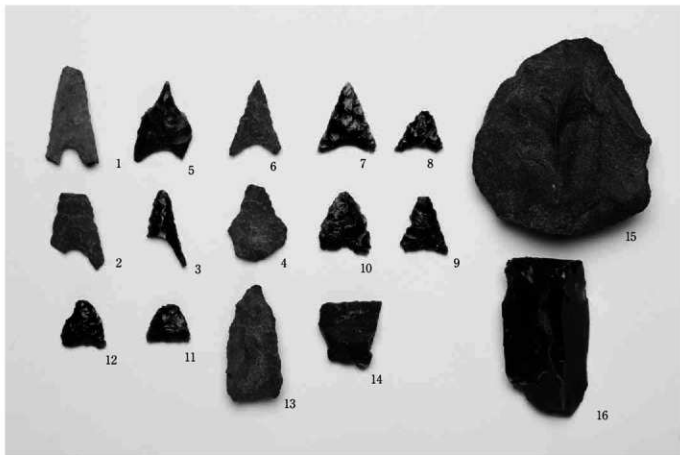
(3) 鉄器



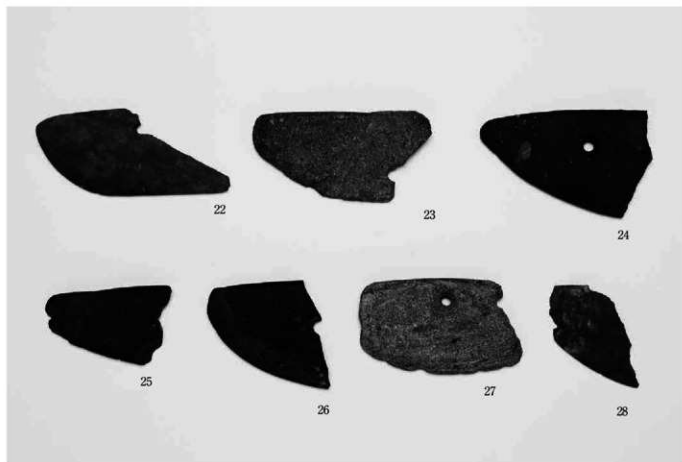
(4) 木製品①



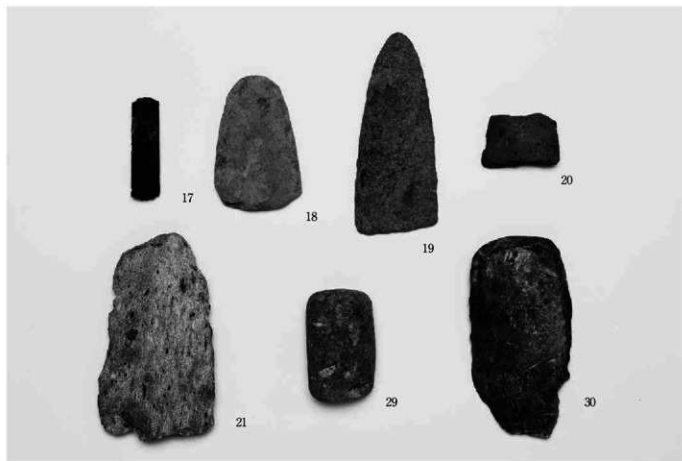
(1) 木製品②



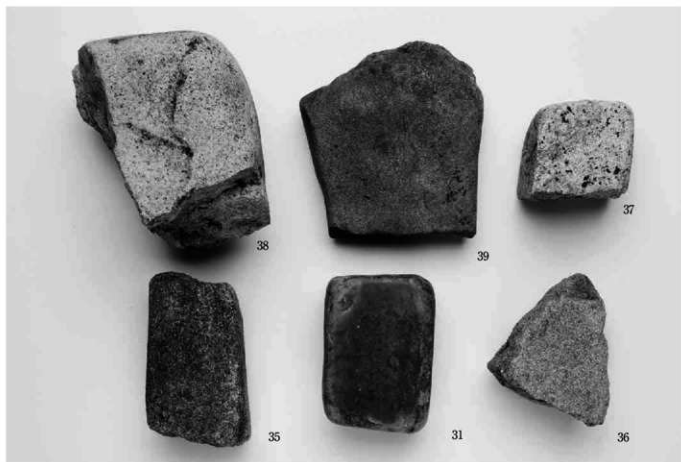
(2) 石器①



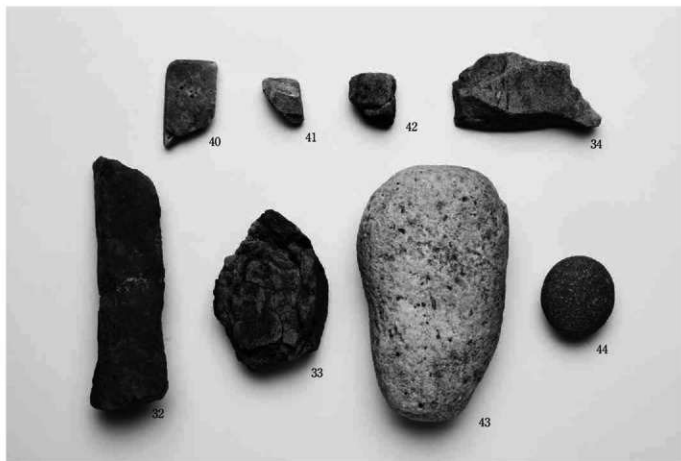
(1) 石器②



(2) 石器③



(1) 石器④



(2) 石器⑤



## 4 次 調 査





(1) 調査区西半



(2) 調査区東半・1号溝



(1) 4次調査地と1次調査地の位置関係



(2) 1号溝(東から)



(1) 1号溝西部



(2) 1号溝木製品等出土状態



(1) 1号溝A-A' 断面土層 (東から)



(2) 1号溝B-B' 断面土層



(1) 铸型No.2出土状态



(2) 铸型No.3出土状态



(3) 输送风管·土器出土状态



(4) 土器出土状态



(5) 木製品出土状态①

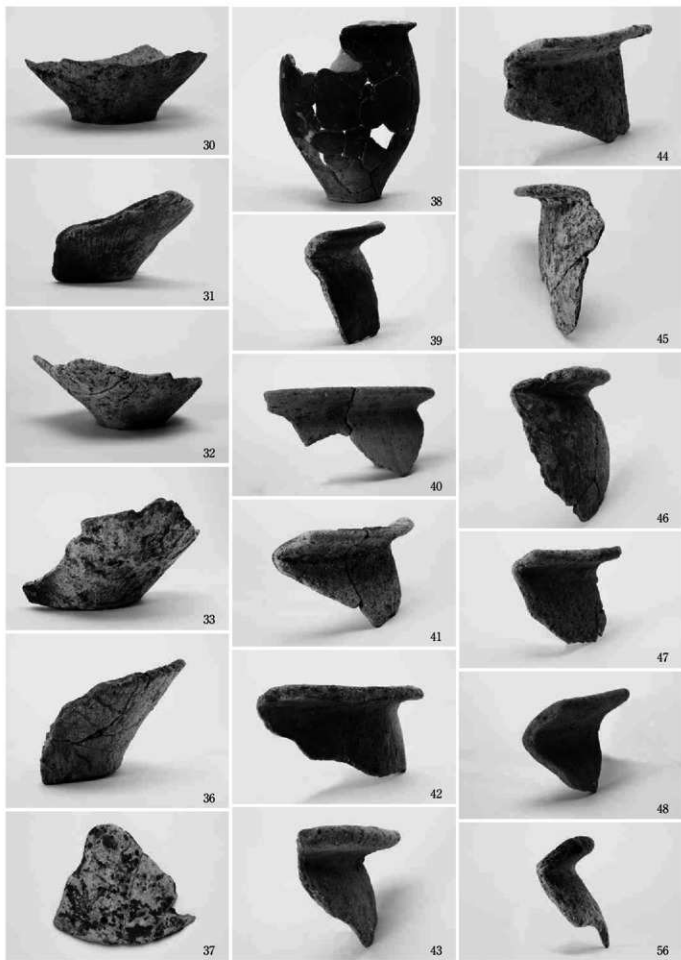


(6) 木製品出土状态②

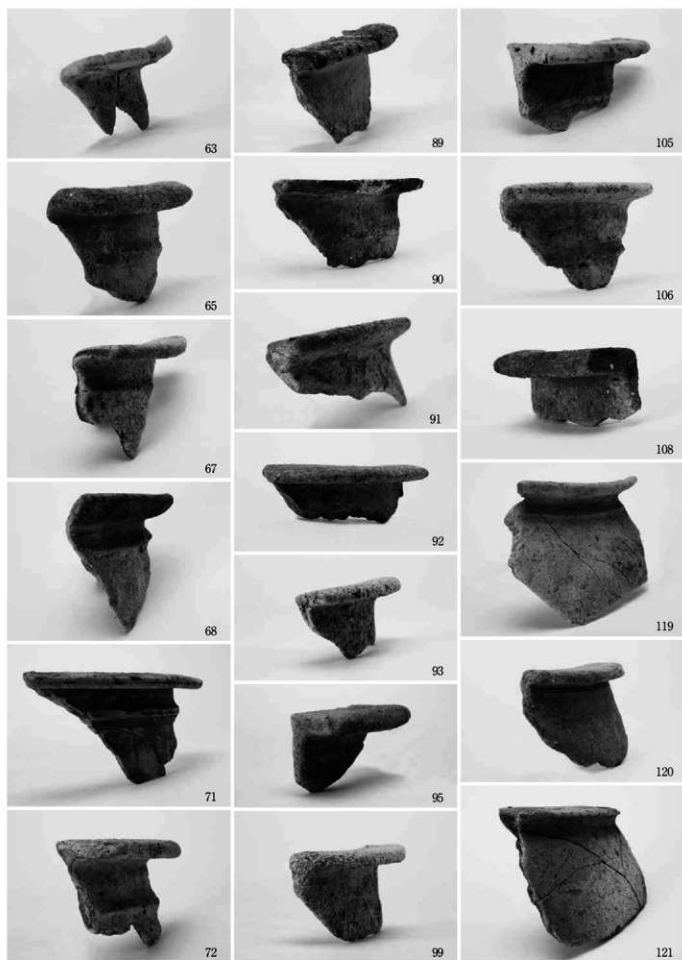


4次調査出土土器①

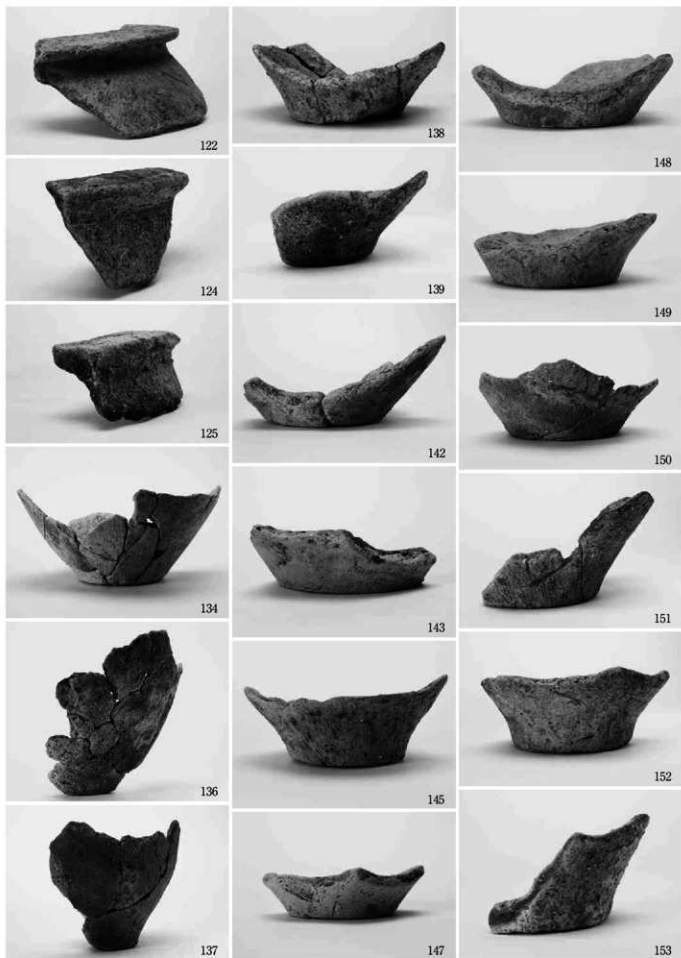




4次調査出土土器②



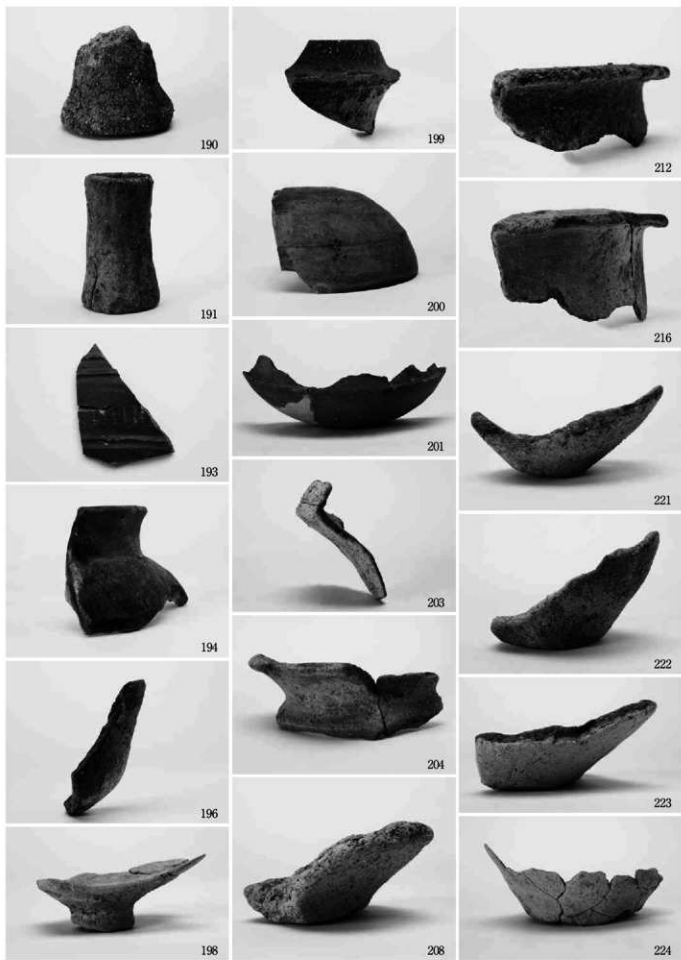
4次調査出土土器③



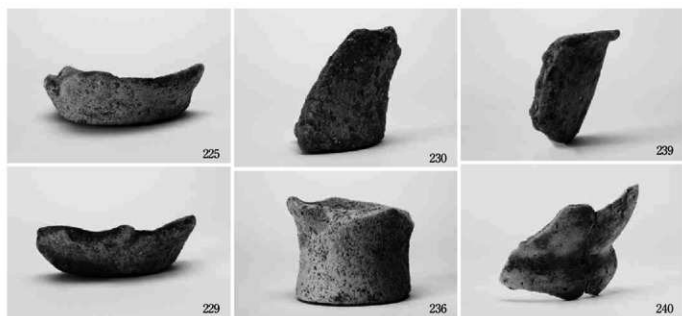
4次調査出土土器④



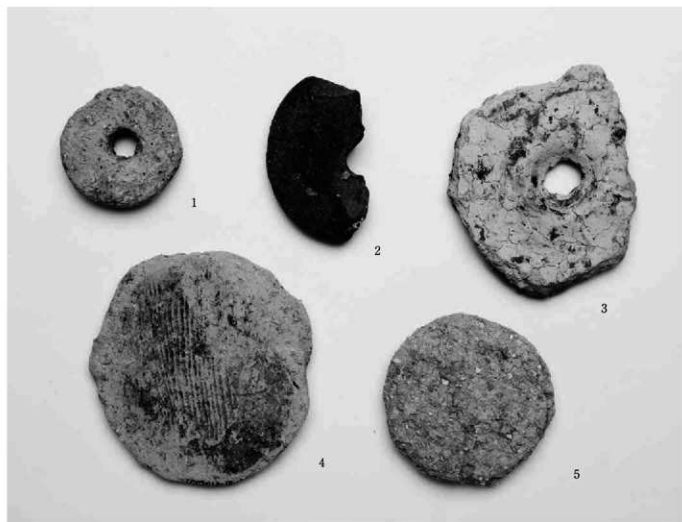
4次調査出土土器⑤



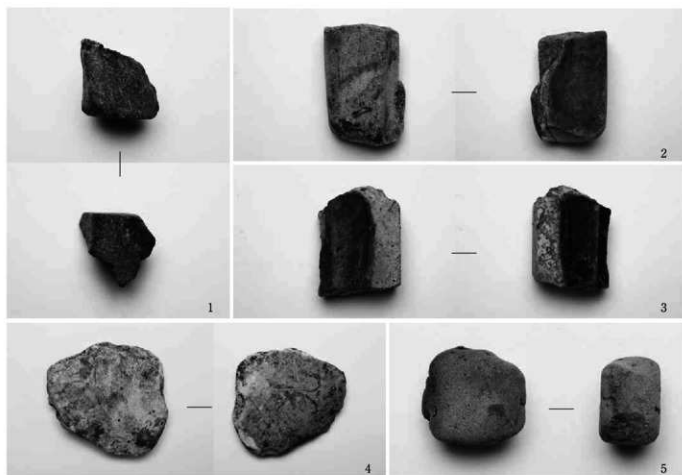
4次調査出土土器⑥



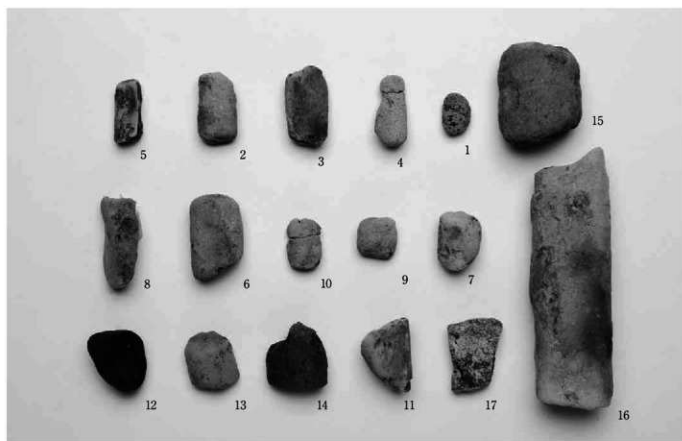
(1) 4次調査出土土器⑦



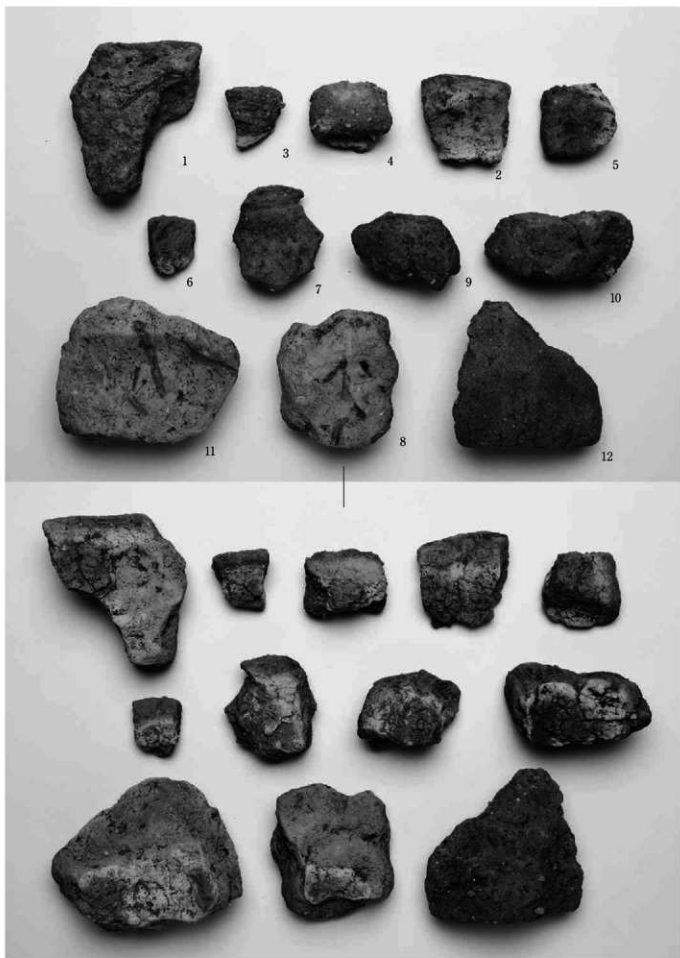
(2) 土製品



(1) 鑄型



(2) 中型

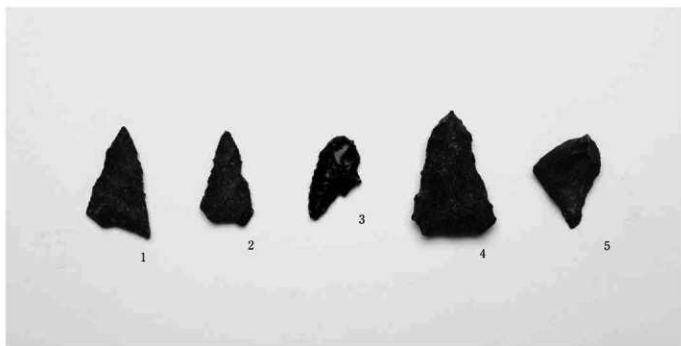


埴塙／取瓶

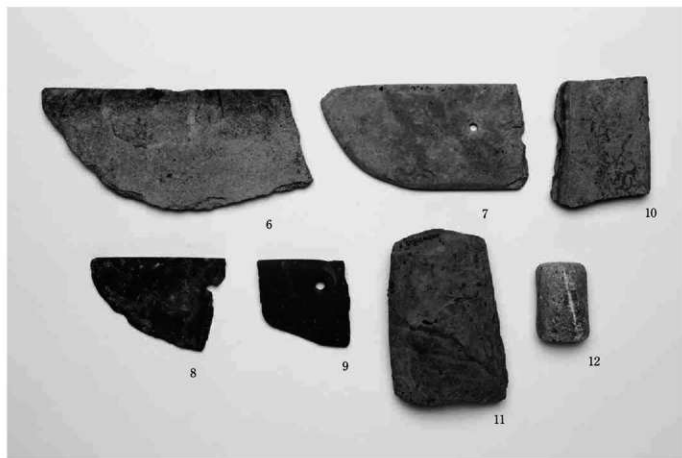




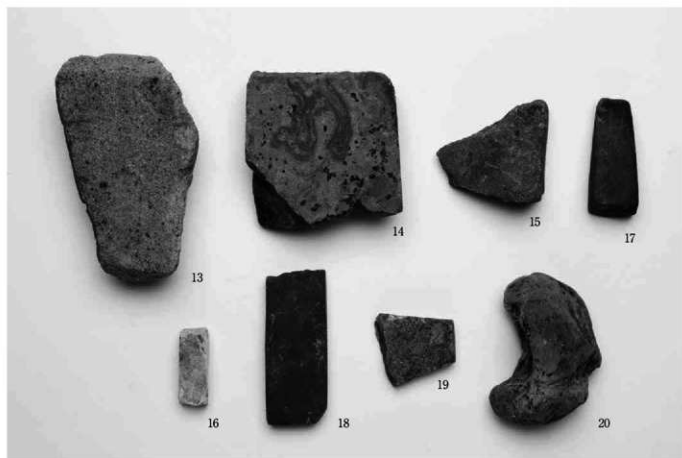
(1) 输送风管



(2) 石器①



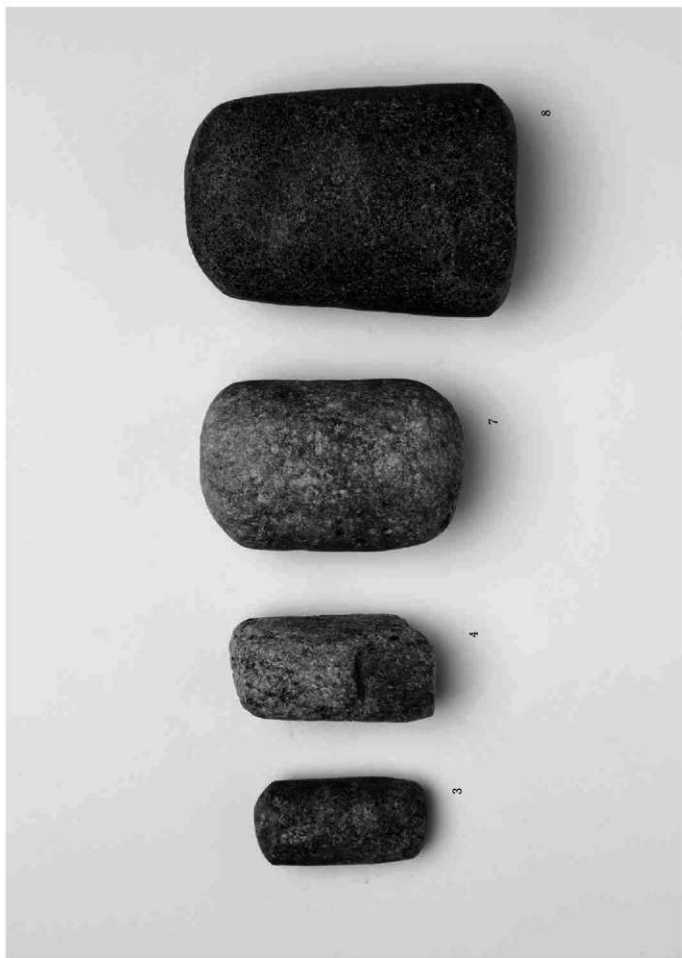
(1) 石器②



(2) 石器③

ま と め







報告書抄録

ふりがな	すぐさかもとびーいせき いち・よじちようさ
書名	須玖坂本B遺跡 -1・4次調査-
副書名	福岡県春日市岡本所在遺跡の調査
シリーズ名	春日市文化財調査報告書
シリーズ番号	第82集
編著者名	井上義也・熊埜御堂早和子
編集機関	春日市教育委員会
所在地	〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111
発行年月日	2020年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
すぐさかもとびーいせき 須玖坂本B遺跡 1次調査	ふくおかけんかすがしおかもと 福岡県春日市岡本	40218		33°22'28"	130°26'51"	19910121 ) 19910416	414.8	記録保存調査
すぐさかもとびーいせき 須玖坂本B遺跡 4次調査	ふくおかけんかすがしおかもと 福岡県春日市岡本	40218		33°22'26"	130°26'54"	20030509 ) 20030612	344.0	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
須玖坂本B遺跡 1次調査	集落	弥生時代	土坑 1基 溝 6条	弥生土器・土製品・青銅器生産関連遺物・鉄器・玉類・木製品・石器	調査区の南部で溝と土坑を、調査区の北部で大形のピットを複数検出。弥生土器とともに多量の青銅器生産関連遺物が出土した。
須玖坂本B遺跡 4次調査	集落	弥生時代	溝 4条	弥生土器・土製品・青銅器生産関連遺物・石器	調査区のはば中央部で東西に延びる溝を検出。弥生土器とともに多量の青銅器生産関連遺物が出土した。

要 約	<p>須玖坂本B遺跡は春日丘陵の北東側低地にあり、北流する諸岡川の右岸に立地する。南側約130mには、奴国王墓とされる須玖岡本遺跡が所在し、夥しい数の青銅器生産関連遺物が見つかった須玖岡本遺跡坂本地区は、当遺跡の南側に隣接している。</p> <p>1次調査の調査区北部で、直径6mほどの範囲に柱痕を有する大形のピットを複数検出した。これらは削平された堅穴建物の柱穴と考えられている。またこの遺構からは中型や石英長石斑岩の石塊や割片が多数出土したことから、堅穴建物を利用した青銅器工房が営まれていたと推察される。</p> <p>1・4次調査で検出した1号溝は、東西方向に延びる約40mの大溝である。溝の北側の集落に起因する遺物が多数出ていることから、北側の遺構群を囲んでいたと考えられる。</p> <p>須玖坂本B遺跡は、その立地や周辺に比べて広い面積を有する点で、首長層の居住域と推定するには十分でありながらも、その中心部の性格が明らかになっていない。しかし当遺跡とその周辺で、青銅器やガラス玉生産が大規模かつ継続的に行われていること、1号溝が直線的かつ方形区画で方角を意識した可能性を考慮すると、当遺跡が首長層の居住域であることや、1号溝は首長層の居住域を囲む溝の可能性が考えられ、貴重な調査となった。</p>
-----	--





---

## 須玖坂本 B 遺跡

— 1・4 次調査 —

春日市文化財調査報告書第82集

令和2年3月31日

発行 春日市教育委員会  
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 株式会社 西日本新聞印刷  
福岡県福岡市博多区吉塚 8 丁目 2 番15

---